

令和 7 年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

静岡市 市民局
男女共同参画・人権政策課

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の方法	1
(1)	調査対象	1
(2)	標本数	1
(3)	抽出方法	1
(4)	調査方法	1
(5)	調査期間	1
3.	回収率	1
II	調査結果	2
1.	回答者属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	お住まいの区	3
(4)	自身の主な仕事	3
(5)	結婚の状況	4
(6)	配偶者・パートナーの主な仕事	4
(7)	同居家族	5
(8)	一番下の子ども	5
2.	男女の平等感について	6
(1)	各分野における男女の地位の平等感	6
(2)	固定的性別役割分担意識について	14
(3)	性別による固定観念について	15
3.	仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度	18
(1)	仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度で希望に最も近いもの	18
(2)	仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度で現実・現状に最も近いもの	19
(3)	仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度について、希望と現実・現状の比較	20
4.	仕事、家庭生活について	22
(1)	女性が仕事(収入を得るための労働)をすることについて	22
(2)	結婚・出産に関わらず、女性が仕事を続けるために必要な環境について	23
(3)	休業制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることにについて	24
(4)	男性が家事・育児・介護などを行う際の障害となるものについて	25
(5)	職場の環境などに関する現状について	26
(6)	「1日に行う家事(育児や介護を含む)の平均時間」について	30
5.	男女共同参画に関わることがらや経験について	32
(1)	次のことがらについての認知度	32

(2) 回答者の経験.....	36
(3) 「ジェンダー・ギャップ指数2024」の認知度	41
(4) 静岡市の男女共同参画推進の拠点施設「静岡市女性会館(アイセル21)」の利用.....	42
(5) 「静岡市女性会館(アイセル21)」に期待する役割	43
6. 性の多様性に関することについて	44
(1) 性的マイノリティの存在を身近に感じたことの有無.....	44
(2) 性的マイノリティが日常生活で直面している困難・課題だと思われるもの.....	45
(3) 性的マイノリティに対する偏見や差別をなくし、生活しやすくなるために必要だと思う取組み	46
7. ドメスティック・バイオレンス(DV)に関することについて	47
(1) 次のようなことが配偶者間で行われた場合、暴力と思うか	47
(2) 配偶者からの暴力に関する相談窓口として知っているもの	55
(3) 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について、経験や見聞きしたことの有無.....	56
(4) 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」の相談先	57
8. 困難を抱える人に対する支援について	58
(1) 過去1年間で、困ったり悩んだりした場合の公的な相談窓口や支援機関への相談の有無	58
(2) 相談しなかった主な理由.....	59
(3) 静岡市は困難な問題を抱える人や抱えやすい人に対する支援が充実している、と思うか	60
III 自由記載.....	65
1. 男女共同参画等に関して.....	65
2. 静岡市について.....	68
3. 質問票について.....	70
4. その他	71

付録 ・調査票
・集計表

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、性別に関わりなく一人ひとりが個性と能力を発揮し、責任を分かち合う社会の実現に向け、静岡市男女共同参画行動計画(以下、「行動計画」と言う)を策定し、男女共同参画に係る様々な施策を推進しています。このたび、令和5年3月に策定した第4次行動計画の見直しを検討するにあたり、基礎資料となる男女共同参画に関する市民意識等を把握するため、調査を実施しました。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

18 歳以上の市民

(2) 標本数

2,500人

(3) 抽出方法

住民基本台帳から 18 歳以上の市民を無作為抽出

(4) 調査方法

調査票については郵送、回答については自記式郵送回答、または Web 回答

(5) 調査期間

令和 7 年 6 月 23 日(月)～7 月 14 日(月)

3. 回収率

配布数	郵送回答数	Web 回答数	有効回収数	有効回収率
2,500 票	680 票	170 票	850 票	34.0%

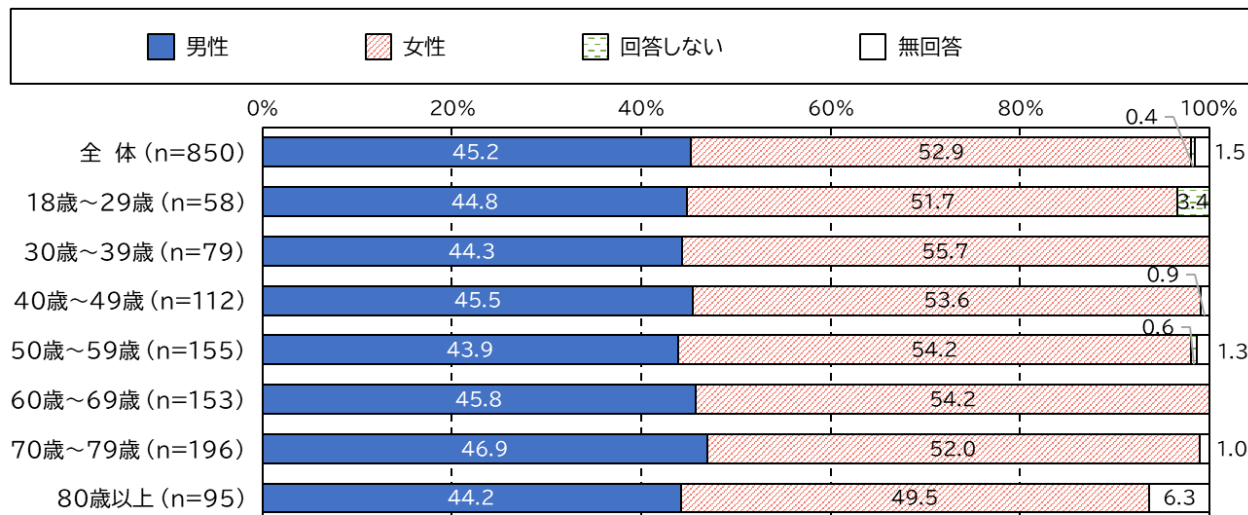
この冊子の読み方

- ◆ 結果は百分率で表示し、小数点第 2 位を四捨五入している。このため百分率の合計が 100%にならないことがある。
- ◆ 数値やグラフの中の「n」は、回答者総数を示し、回答比率はこれを 100%として算出している。
- ◆ 複数回答をしてもよい設問では、百分率の合計が 100%を超える場合がある。

II 調査結果

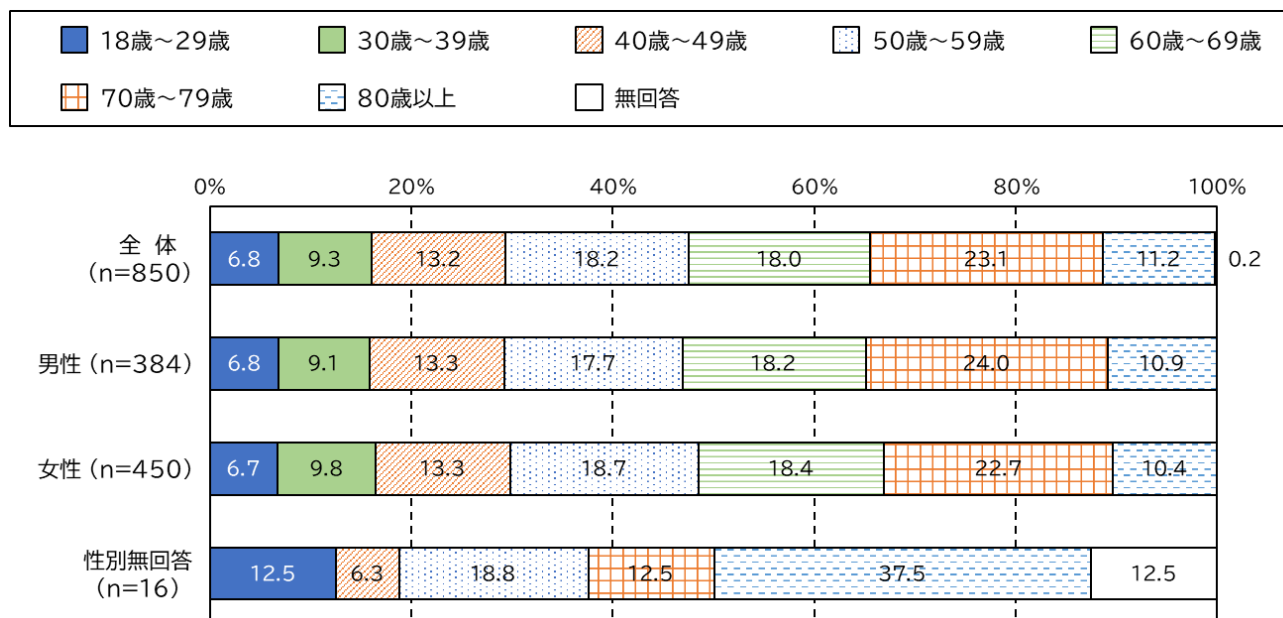
1. 回答者属性

(1) 性別



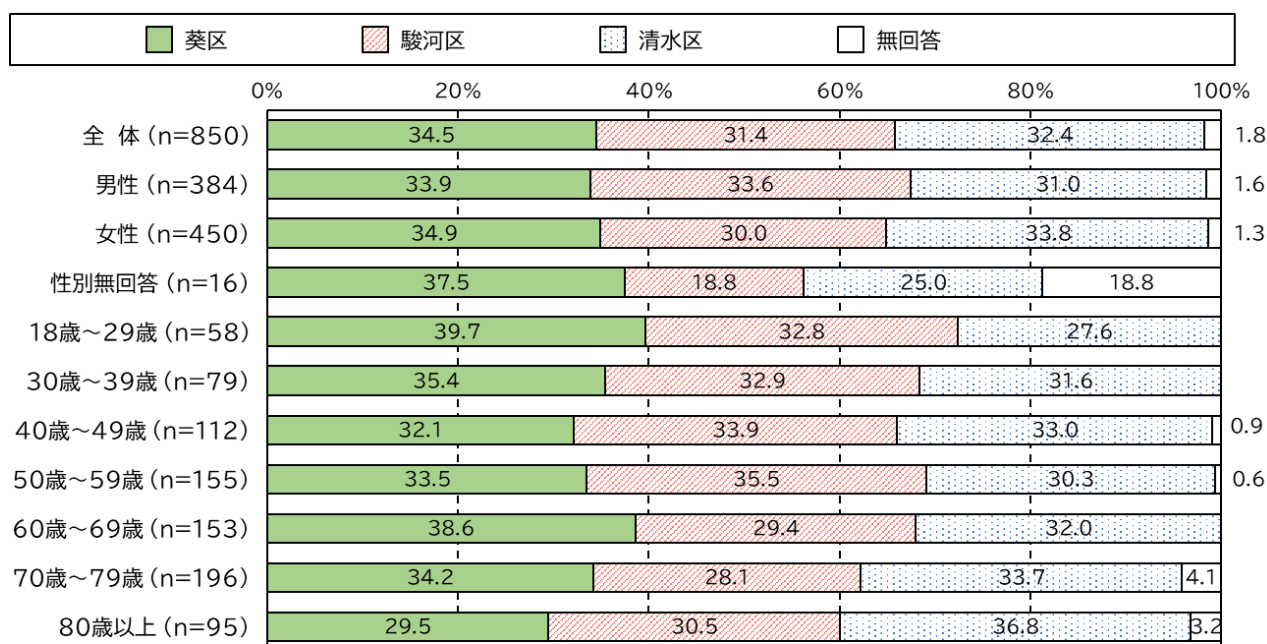
- 本問において、回答選択肢を「男性」「女性」「回答しない」とし、どれも選択していないものを「無回答」とした。
- 以下の設問において、本問における「回答しない」と「無回答」を合わせたものを、「性別無回答」とした。

(2) 年齢

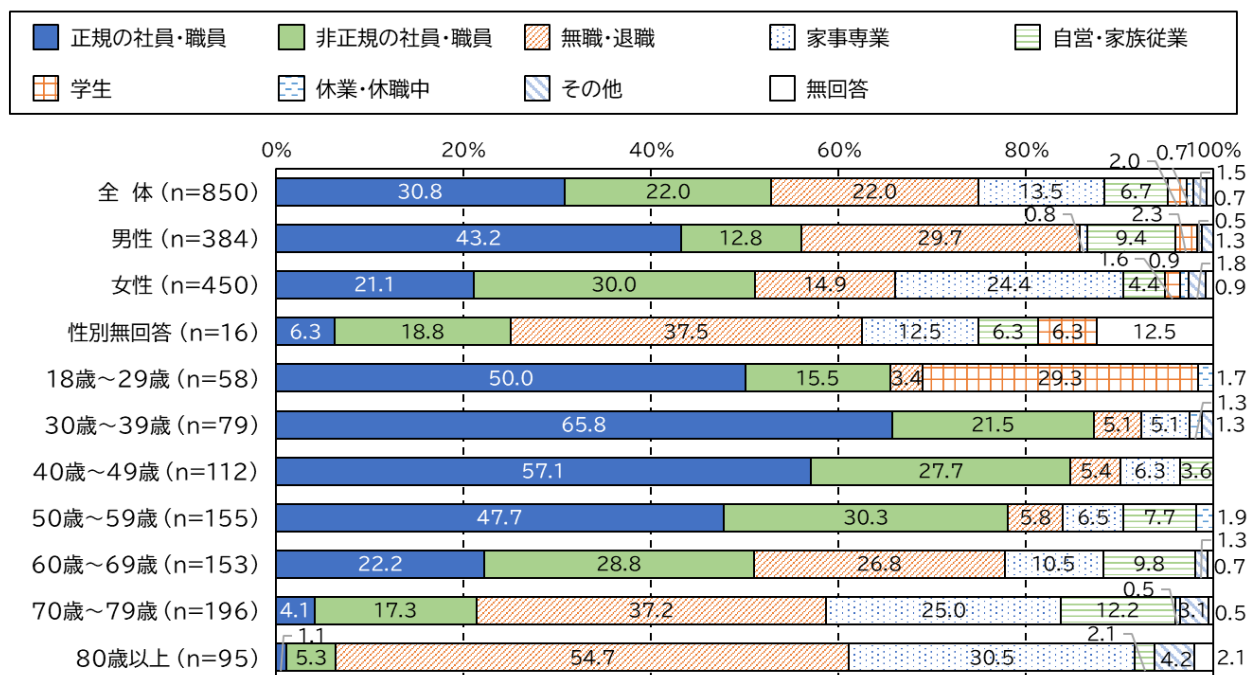


- なお、以降の本文での記載方法は、「18 歳～29 歳」を「29歳以下」、「30 歳～39歳」を「30 歳代」、「40 歳～49 歳」を「40歳代」、「50 歳～59 歳」を「50 歳代」、「60 歳～69 歳」を「60 歳代」、「70 歳～79 歳」を「70 歳代」とし、「80 歳以上」はそのままの記載とする。

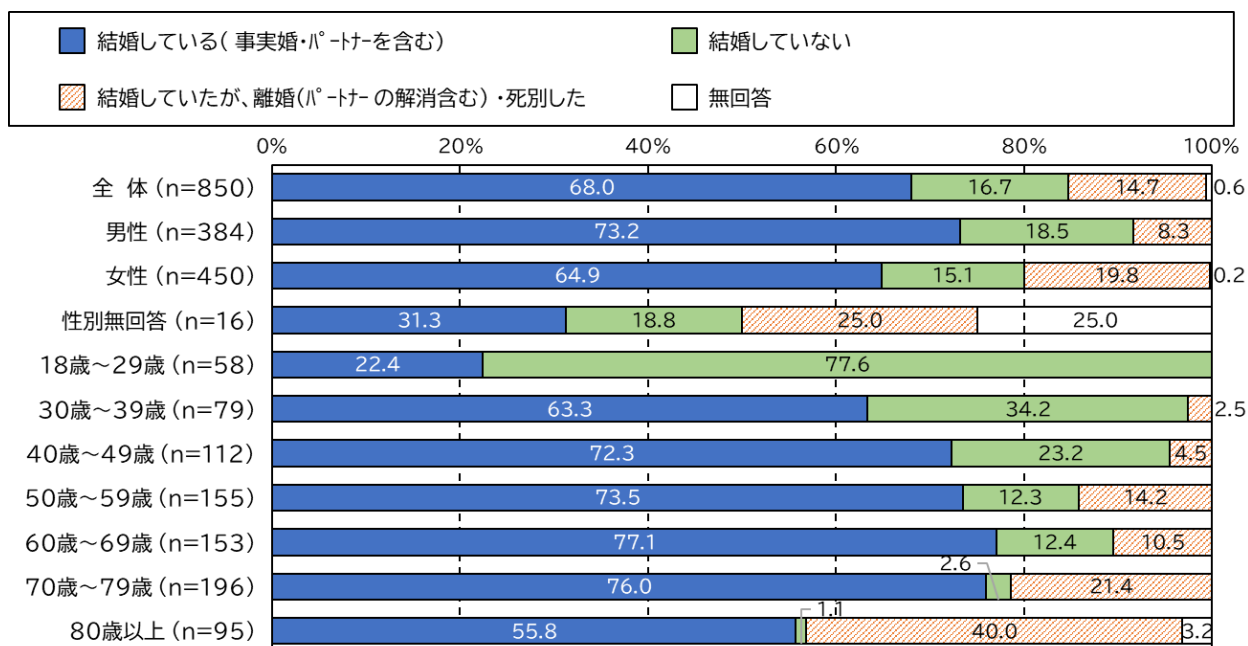
(3) お住まいの区



(4) 自身の主な仕事

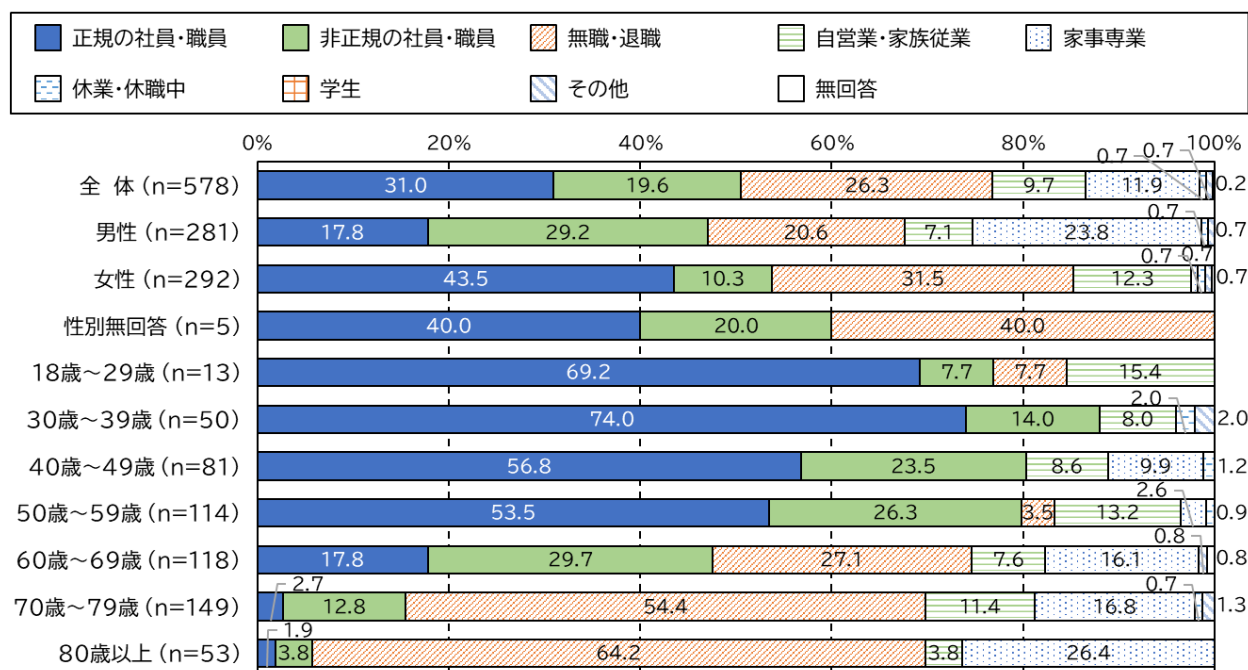


(5) 結婚の状況

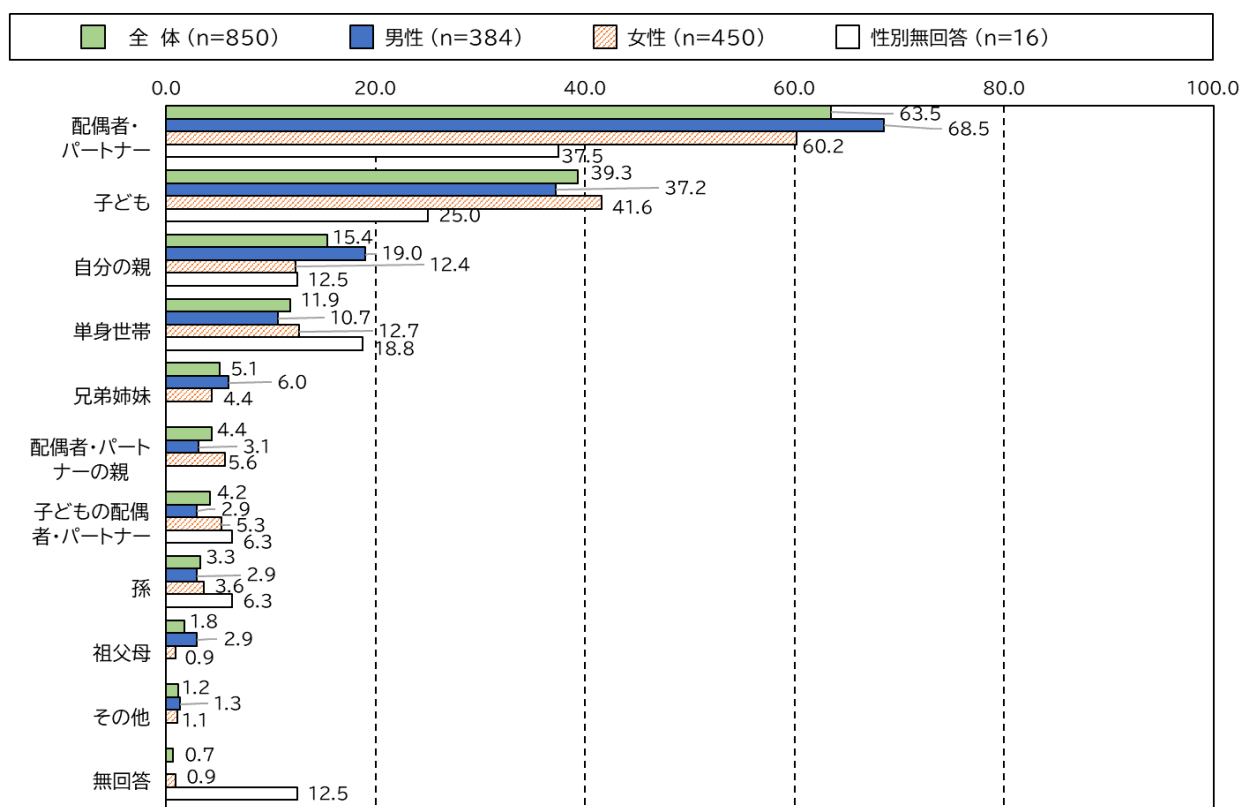


(6) 配偶者・パートナーの主な仕事

※前問(5)で「結婚している」と回答した人の配偶者・パートナー

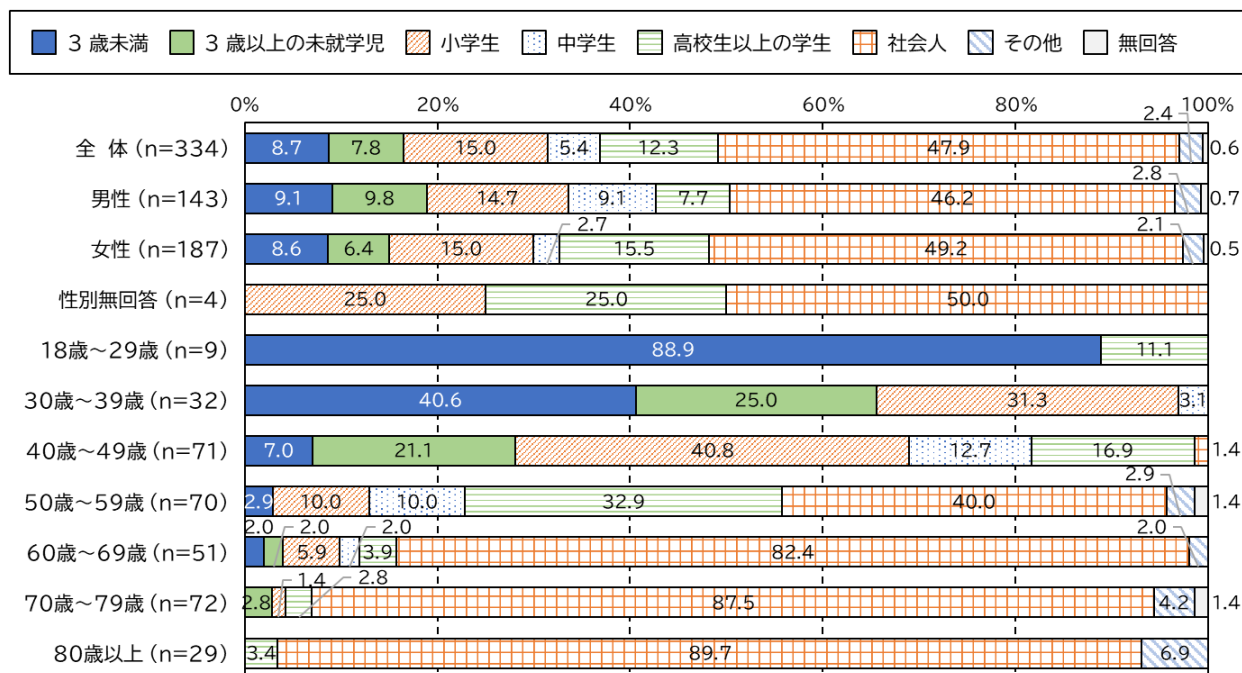


(7) 同居家族



(8) 一番下の子ども

※前問(7)で同居家族を「子ども」と回答した人の一番下の子ども



2. 男女の平等感について

(1) 各分野における男女の地位の平等感

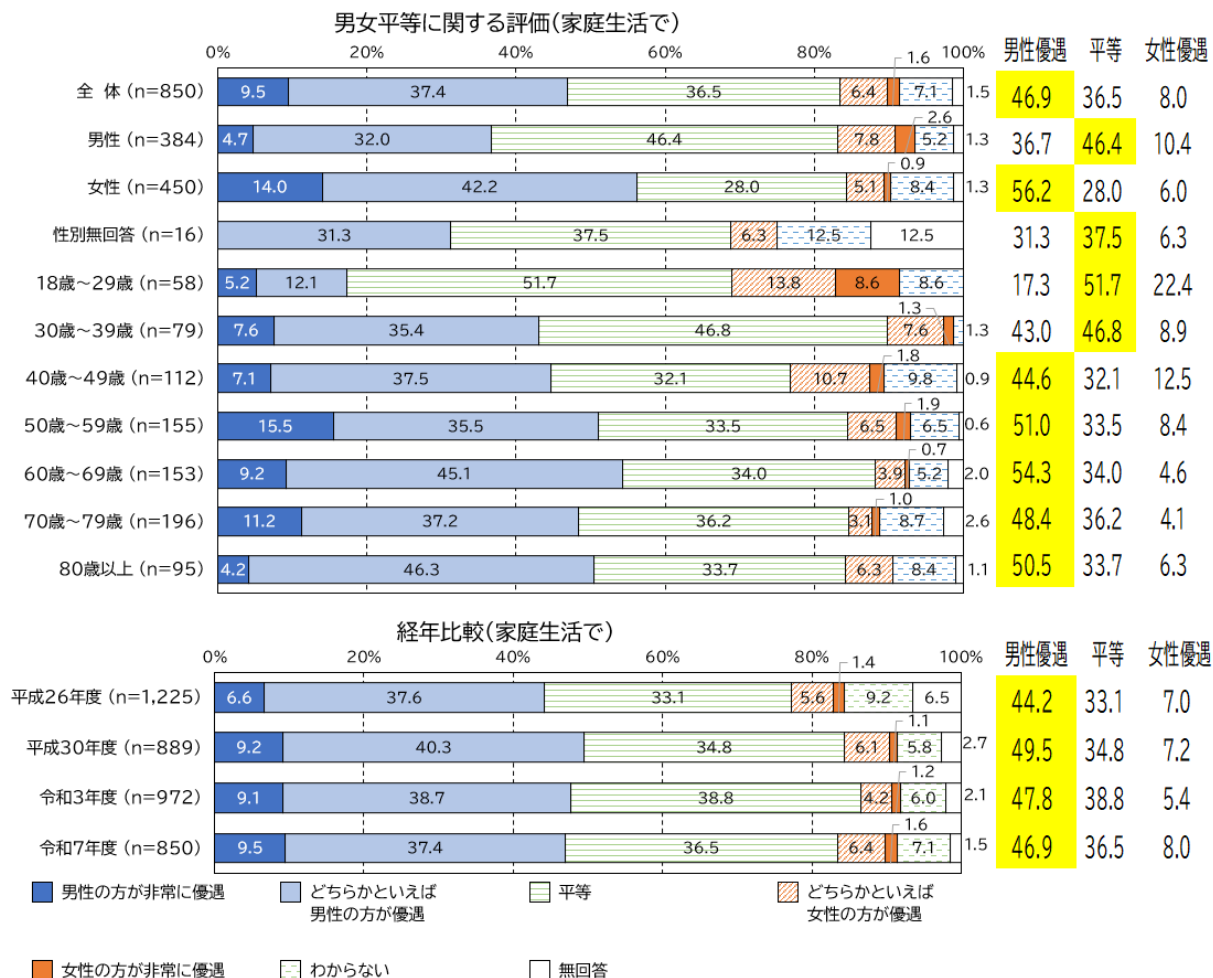
〔問1〕 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの考えに近いものをお答えください。（項目ごとに○は1つずつ）

(ア) 家庭生活

全体では、「男性の方が非常に優遇」が9.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇」が37.4%と、「男性優遇」との回答が46.9%となり、「平等」の36.5%を約10ポイント上回った。

性別でみると、男性は「平等」と回答した人の割合が最も高く、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇」と回答した人の割合が高かった。

年齢別では、30歳代以下では「平等」とする割合が高かったが、40歳代以上では「男性優遇」とする割合が高かった。



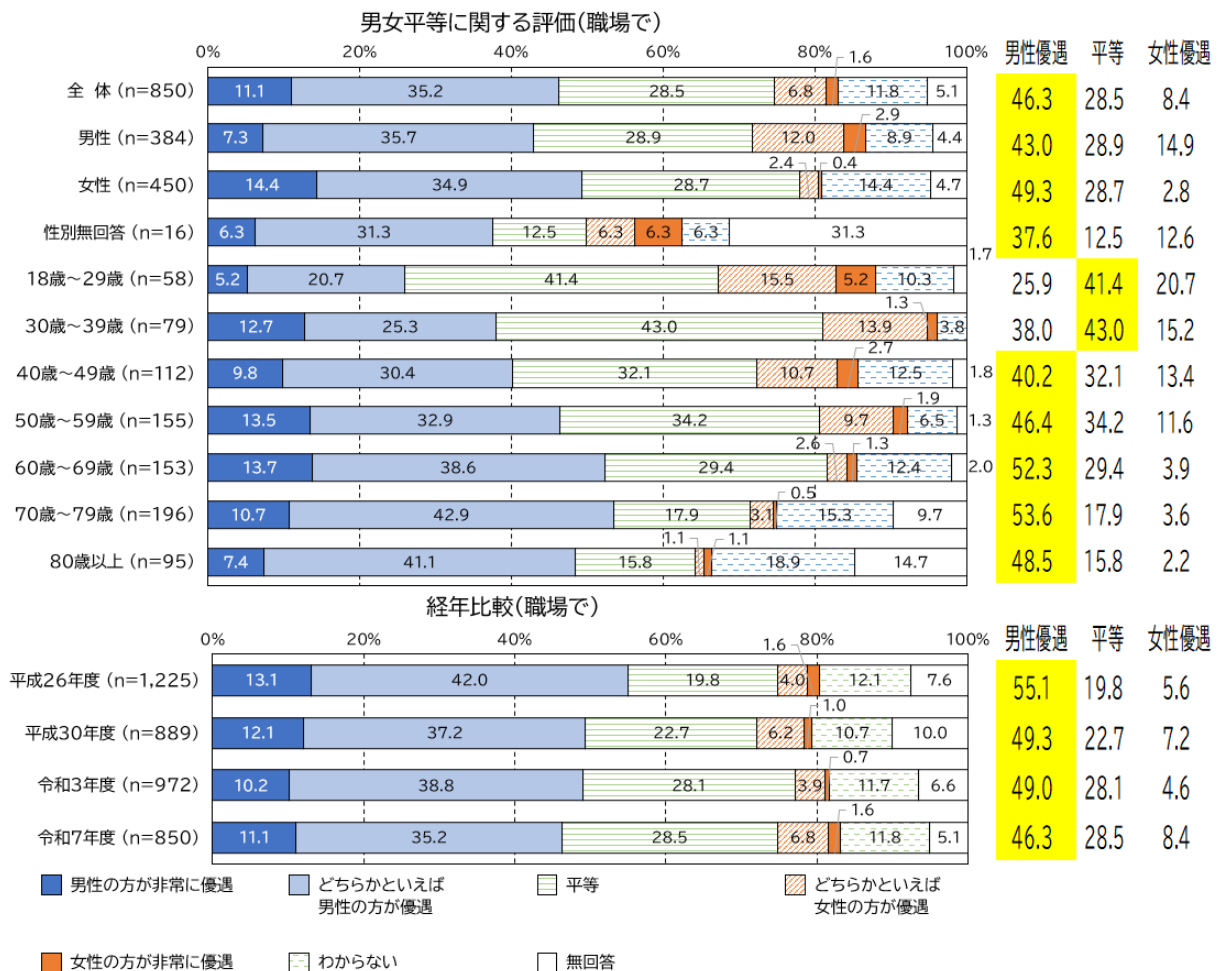
(イ) 職場

全体では、「男性の方が非常に優遇」が 11.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇」が 35.2%と、「男性優遇」との回答が 46.3%となり、「平等」を 18 ポイント近く上回った。

性別でみると、「男性優遇」と思う割合は、女性の方が高かった。

年齢別では、30 歳代以下では「平等」とする割合が高かったが、40 歳代以上では「男性優遇」とする割合が高かった。

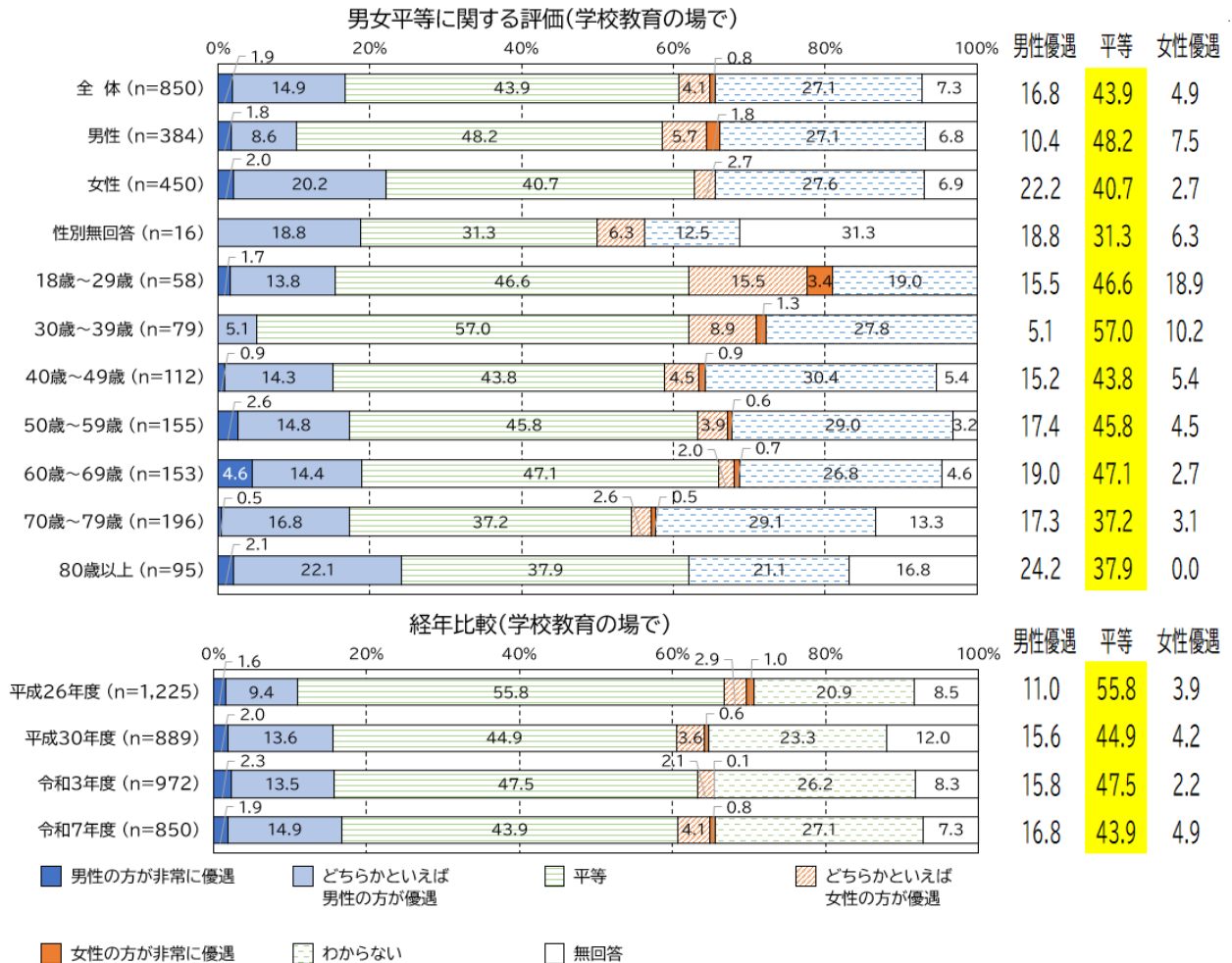
経年比較では、「男性優遇」とする割合は減少傾向にある。



(ウ) 学校教育の場

全体では、「平等」と思う人が43.9%と最も多かった。

性別でみても、「平等」との回答が男性48.2%、女性40.7%と最も多かった。一方、「男性優遇」と思う割合は、男性が10.4%なのに対し、女性が22.2%と男女で10ポイント以上の差があった。



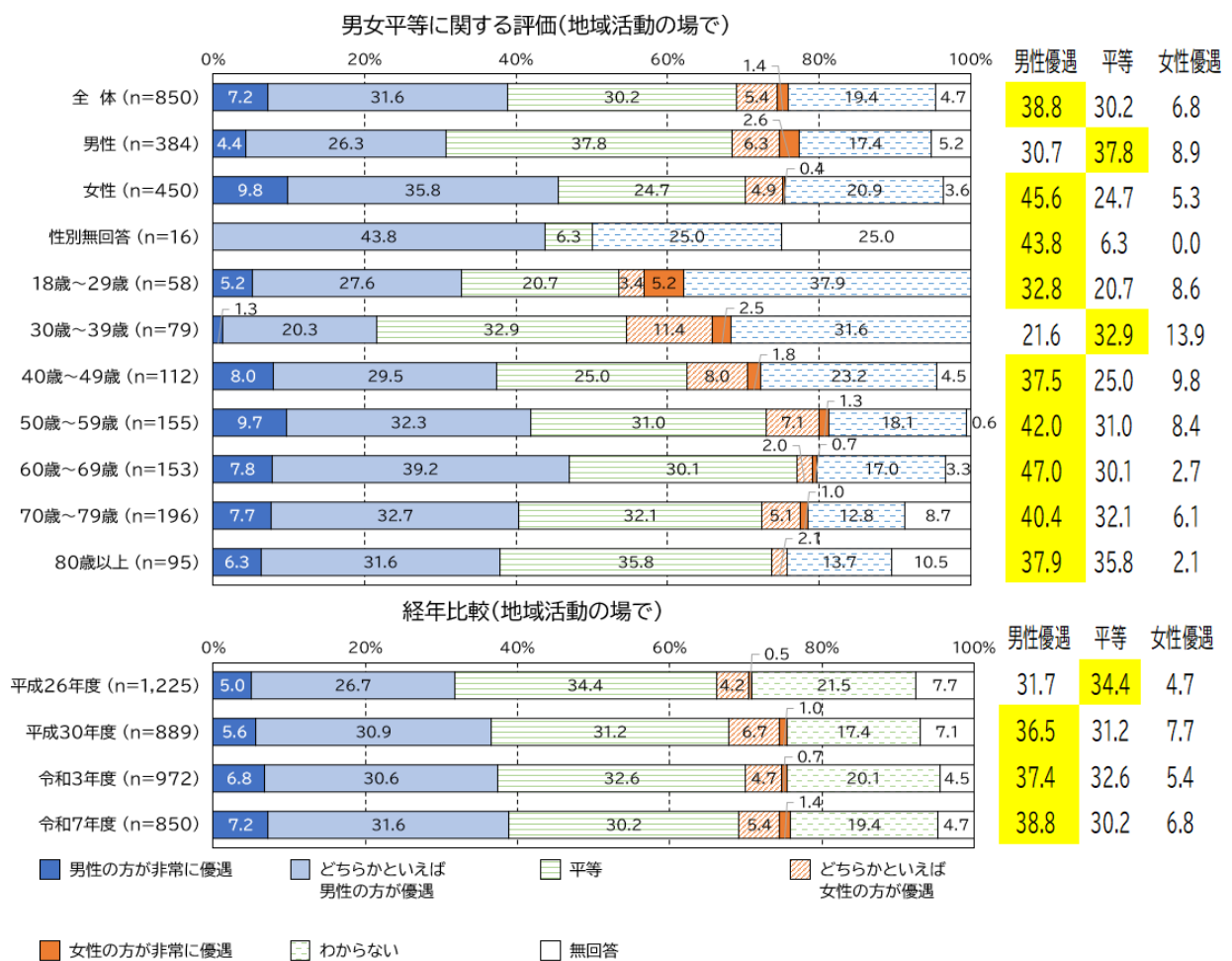
(エ) 地域活動の場

全体では「男性の方が非常に優遇」が 7.2%、「どちらかといえば男性の方が優遇」が 31.6%と「男性優遇」
との回答が 38.8%となり、「平等」を 8.6 ポイント上回った。

性別でみると、男性は「平等」と思う割合が最も高かったが、女性は「男性優遇」と思う割合が「平等」を上回った。

年齢別では、30 歳代で「平等」が「男性優遇」を上回ったが、その他の年代では「男性優遇」とする割合が高かった。

経年比較では、平成 26 年度は、「平等」が 34.4%と最も高かったが、平成 30 年度以降は「男性優遇」が「平等」を上回っている。

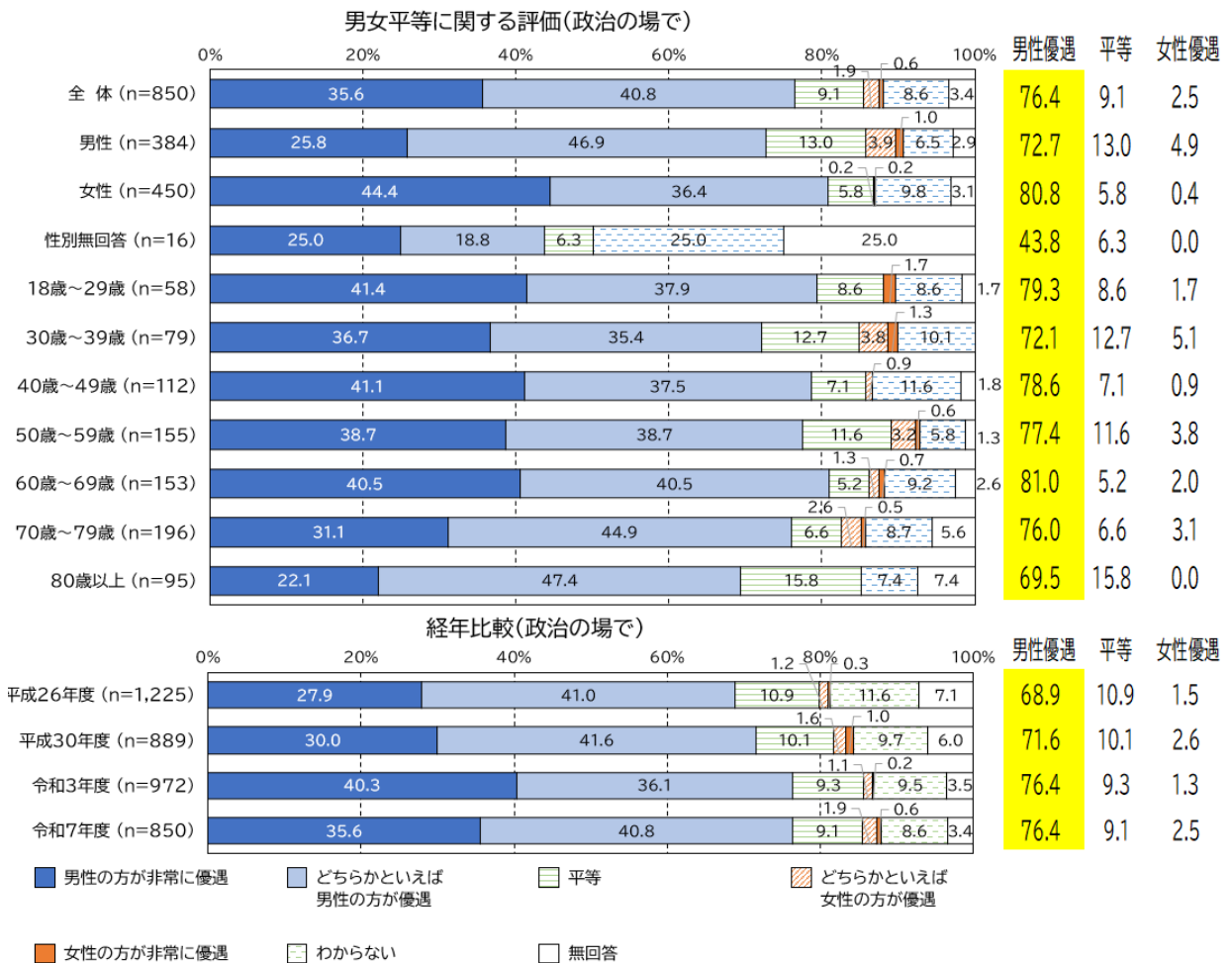


(オ) 政治の場

全体では、「男性の方が非常に優遇」が 35.6%、「どちらかといえば男性の方が優遇」が 40.8%と、「男性優遇」と思う割合が 7 割を超えた。

性別でみると、「男性の方が非常に優遇」と回答した女性は4割を超え、男性よりも不平等を感じている。

年齢別でも、全ての年代で「男性優遇」とする割合が高かった。

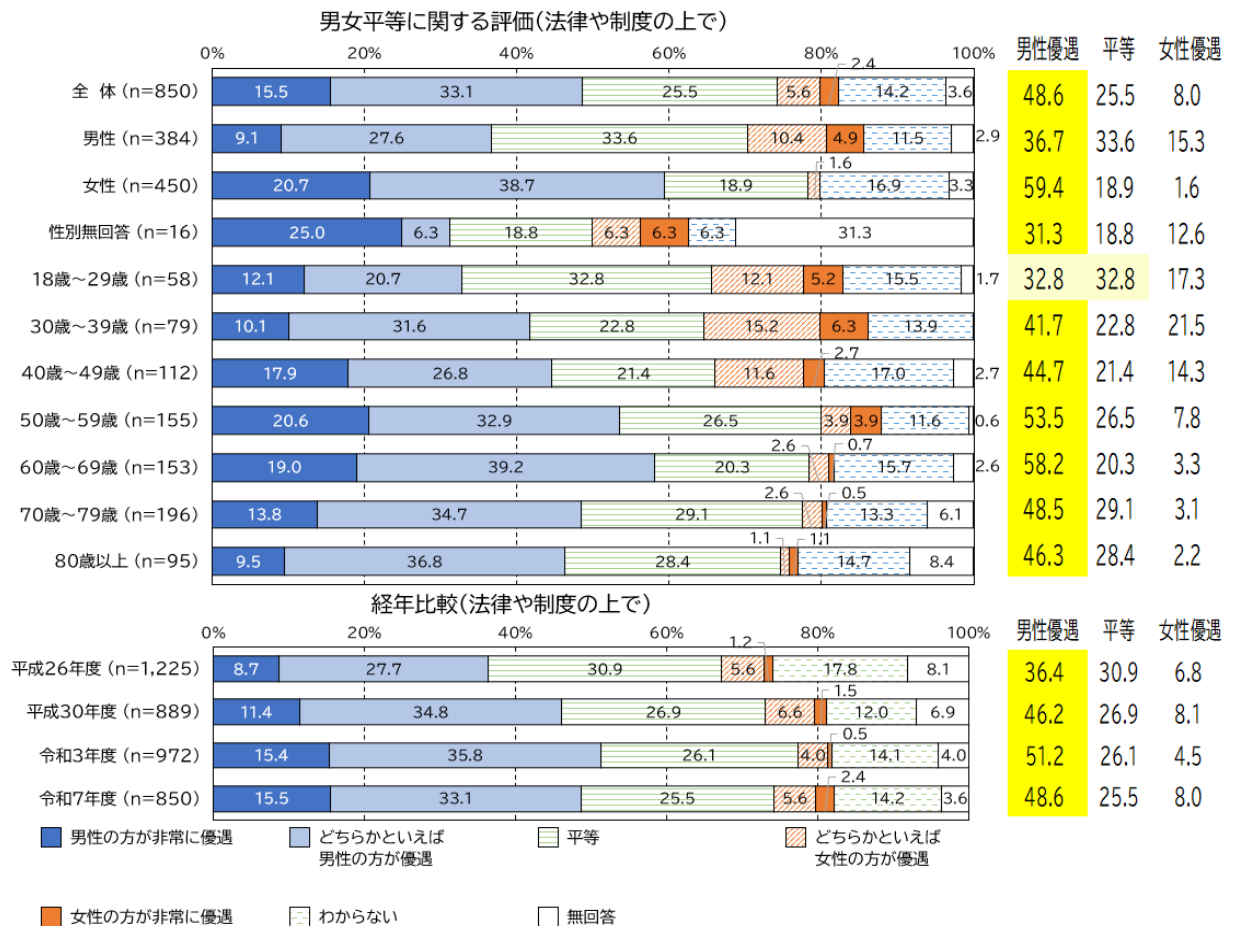


(カ) 法律や制度

全体では、「男性の方が非常に優遇」が 15.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇」が 33.1%と「男性優遇」が 48.6%となり、「平等」を 20 ポイント以上、上回った。

性別でみると、「男性優遇」と回答した女性は約 6 割で、男性よりも不平等を感じている。

年齢別では、29 歳以下で「男性優遇」及び「平等」が 32.8%で同率となったが、その他の年代では「男性優遇」の割合が高かった。

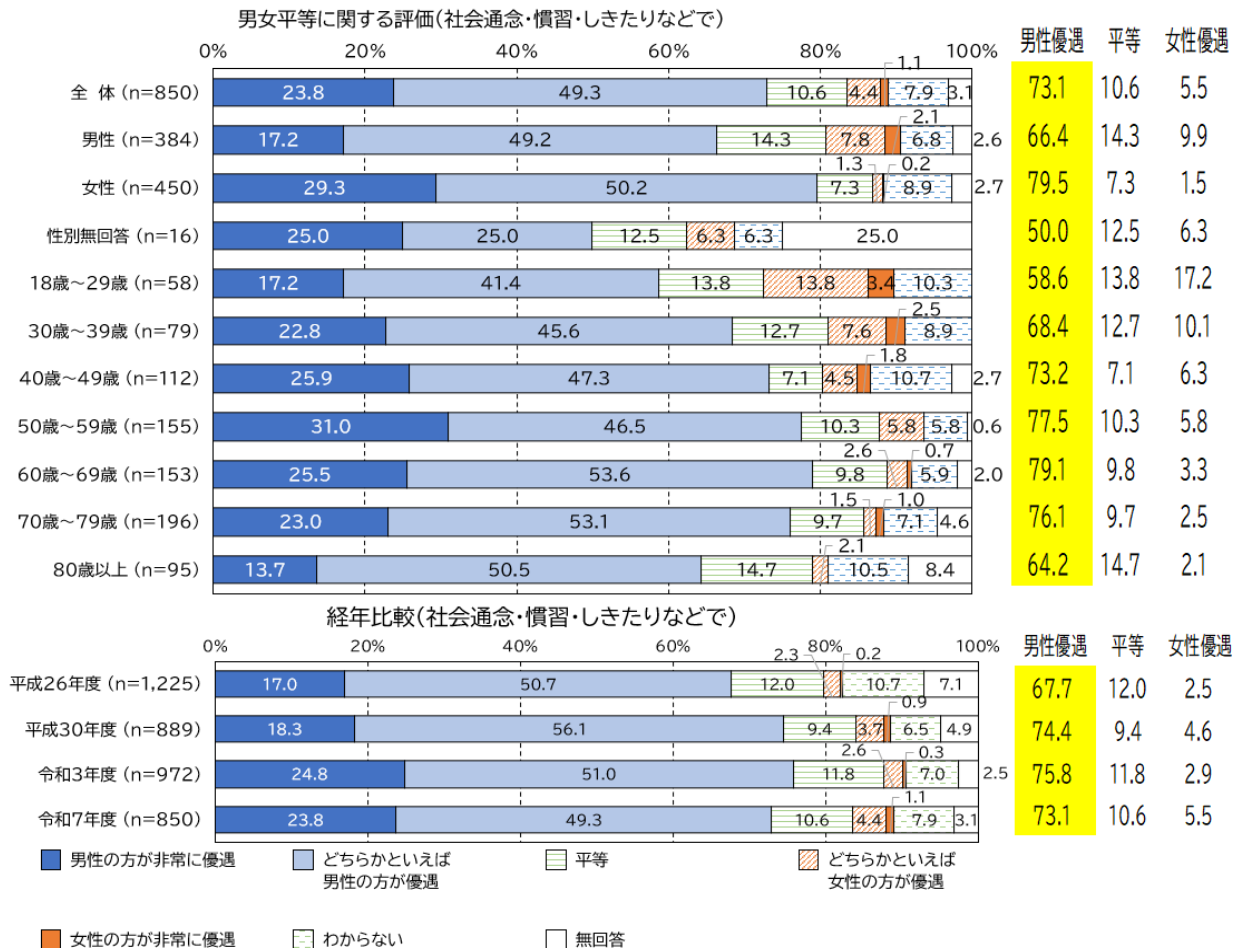


(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど

全体では、「男性の方が非常に優遇」が 23.8%、「どちらかといえば男性の方が優遇」が 49.3%と「男性優遇」と思う割合が 7 割を超えた。

性別でみると、女性の約 8 割が「男性優遇」と回答した。

年齢別でも、全ての年代で「男性優遇」とする割合が高かった。



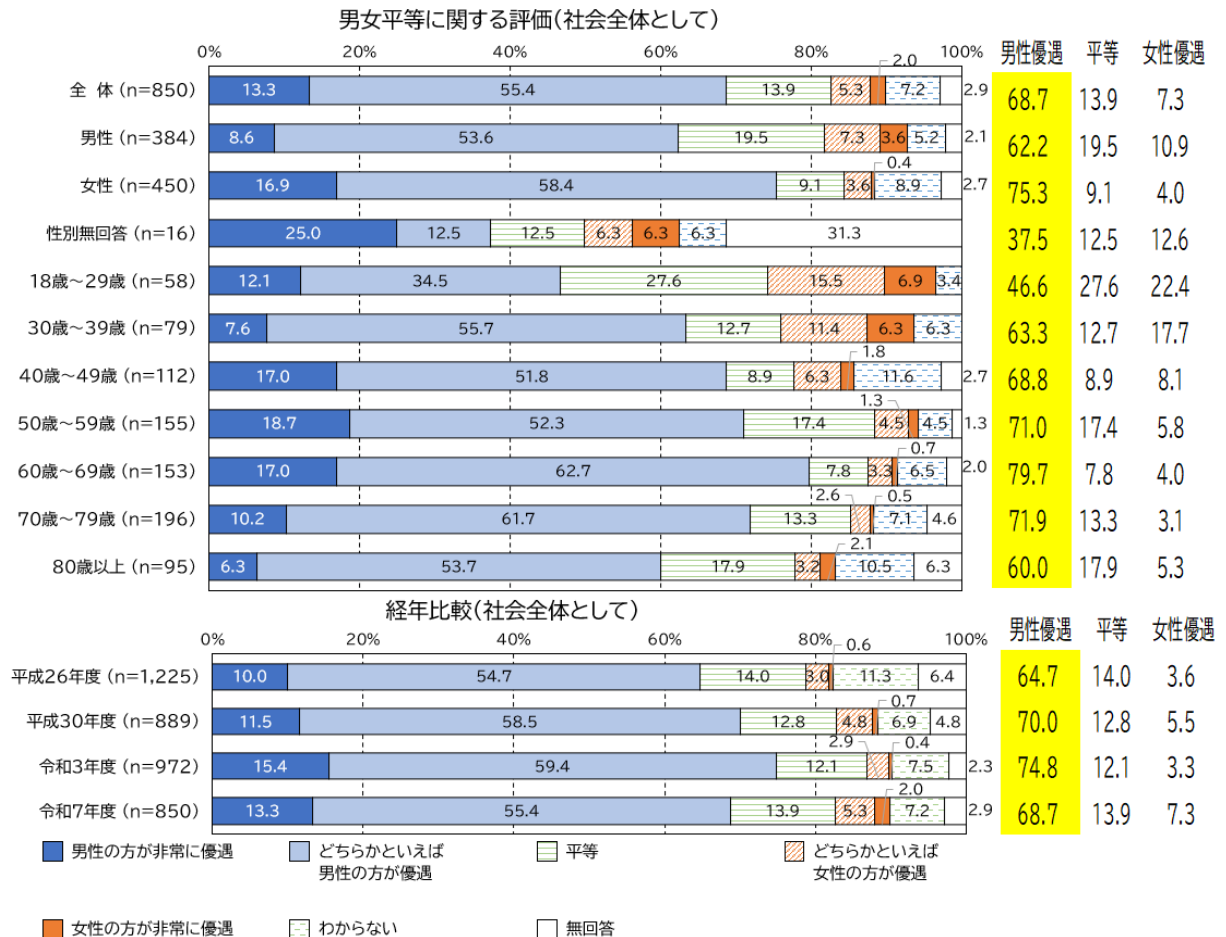
(ク) 社会全体

全体では、「男性の方が非常に優遇」が13.3%、「どちらかといえば男性の方が優遇」が55.4%と「男性優遇」と思う人の割合が約7割となった。

性別でみると、「男性優遇」と思う人の割合は、女性で75.3%と、男性より10ポイント以上高かった。

年齢別でも、全ての年代で「男性優遇」とする割合が高かった。

経年比較では、「男性優遇」とする割合は、前回調査よりやや減少している。



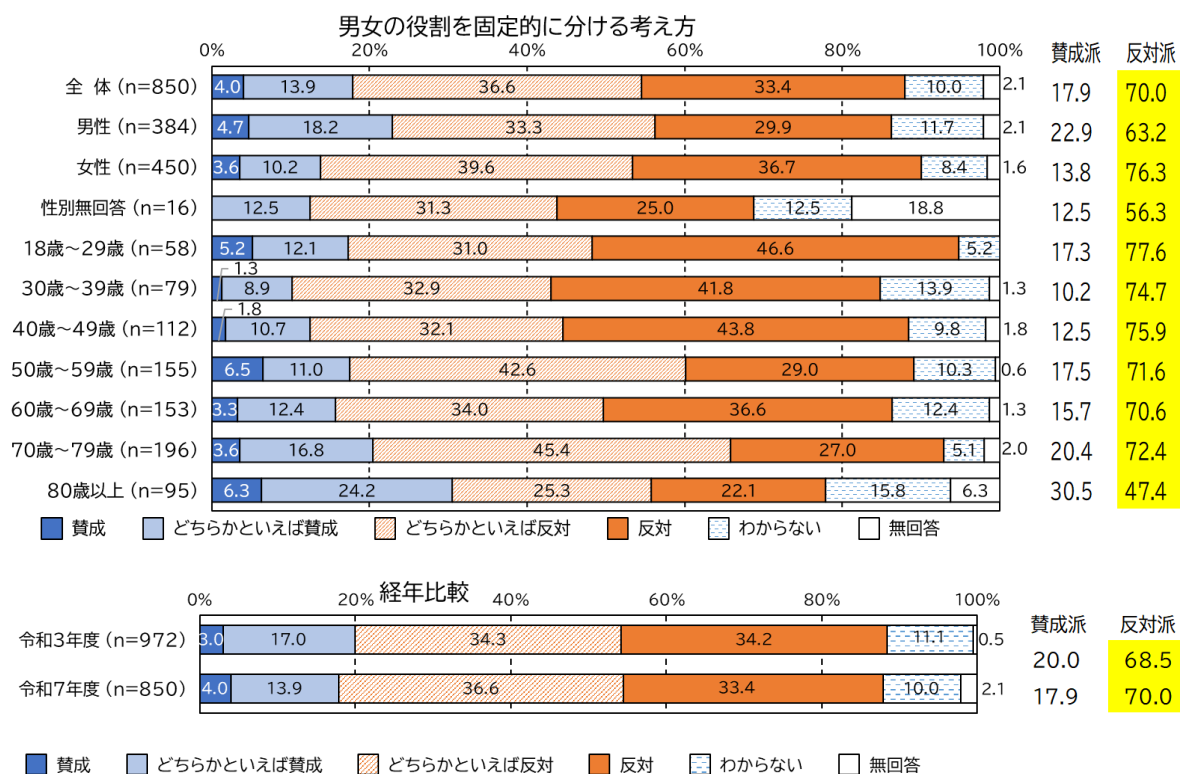
(2) 固定的性別役割分担意識について

〔問2〕あなたは「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような男女の役割を分けて固定的に考えることについて、どのように思いますか。（○は1つ）

全体では、「どちらかといえば反対」が36.6%、「反対」が33.4%と男女の役割を固定的に考えることへの反対が7割となった。

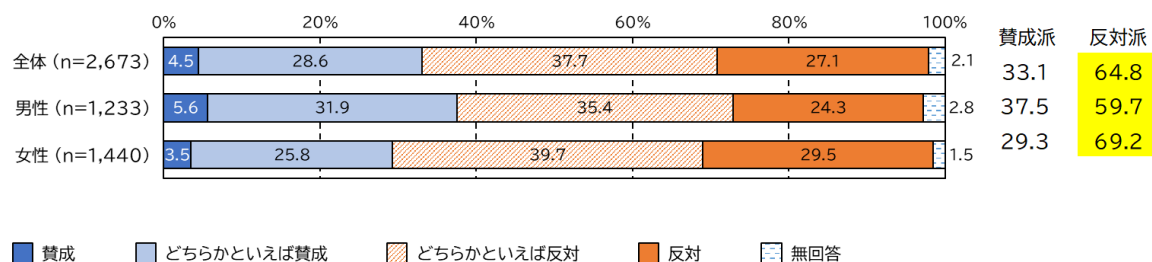
性別でみると、女性で反対する割合は76.3%と、男性の63.2%とは10ポイント以上の差があった。

年齢別では、全ての年代で「反対派」の割合が高かった。一方、80歳以上では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の「賛成派」が約3割となった。



【参考】内閣府(男女共同参画局)「男女共同参画社会に関する世論調査」令和6年9月調査

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。（○は1つ）



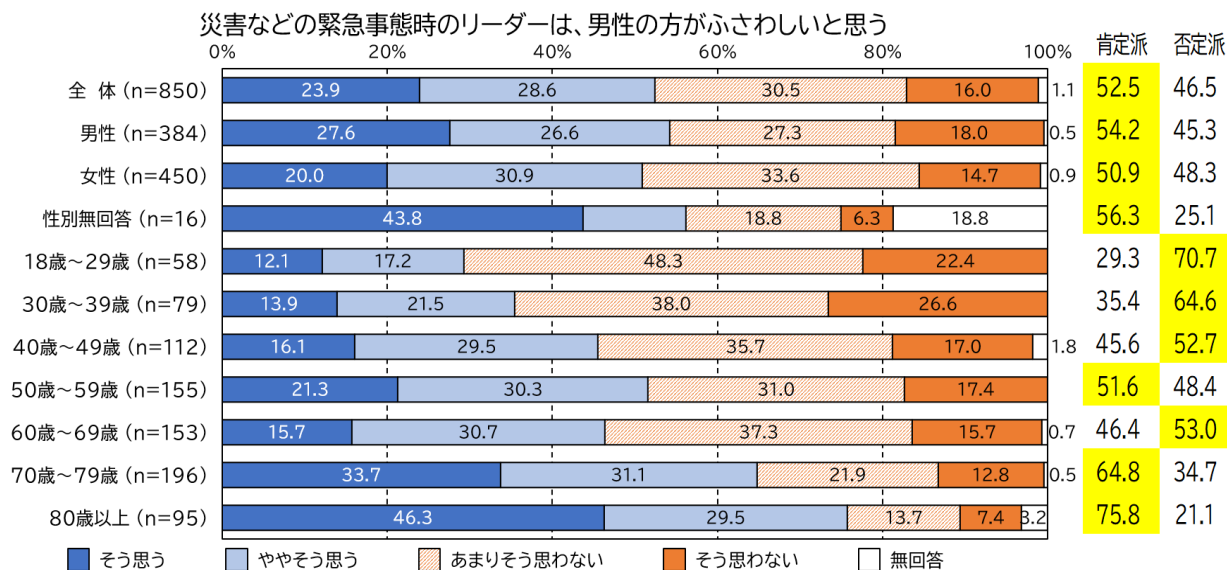
(3) 性別による固定観念について

〔問3〕 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。（項目ごとに○は1つずつ）

(ア) 「災害など緊急事態のとき、その場をとりしきるリーダーは男性の方がふさわしい」

全体では、「そう思う」と「ややそう思う」と回答した「肯定派」が5割を超えた。

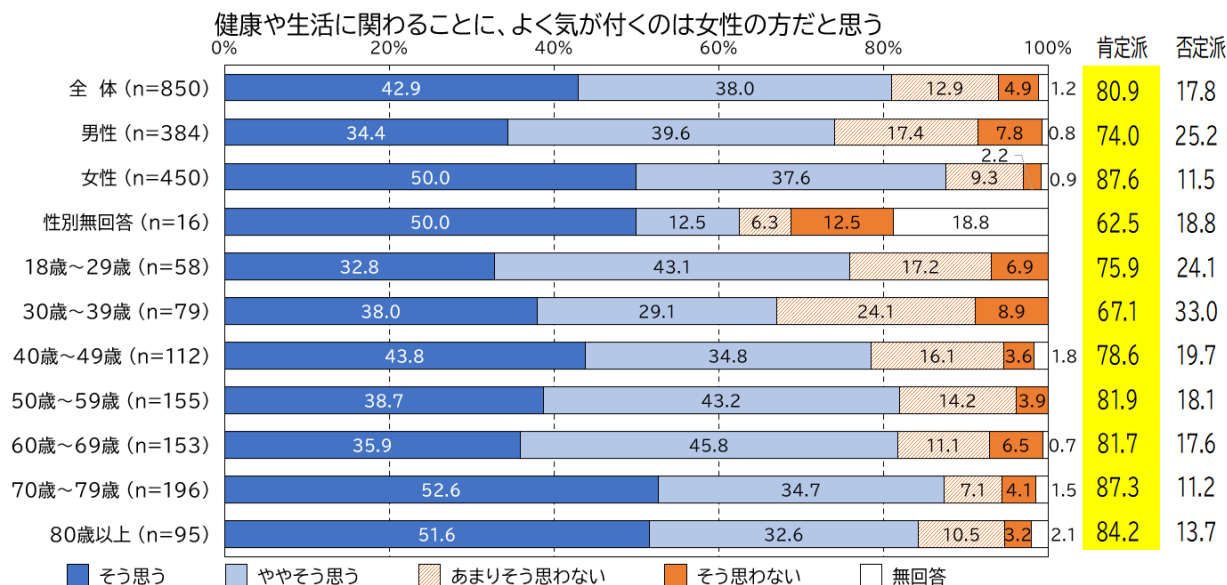
年齢別では、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」と回答した「否定派」が40歳代以下と60歳代で多かったが、50歳代と70歳以上では「肯定派」が「否定派」を上回った。



(イ) 「健康や生活に関わることに、よく気が付くのは女性の方だ」

全体では、「肯定派」が約8割となった。

性別で見ると、「肯定派」の女性が87.6%となった。

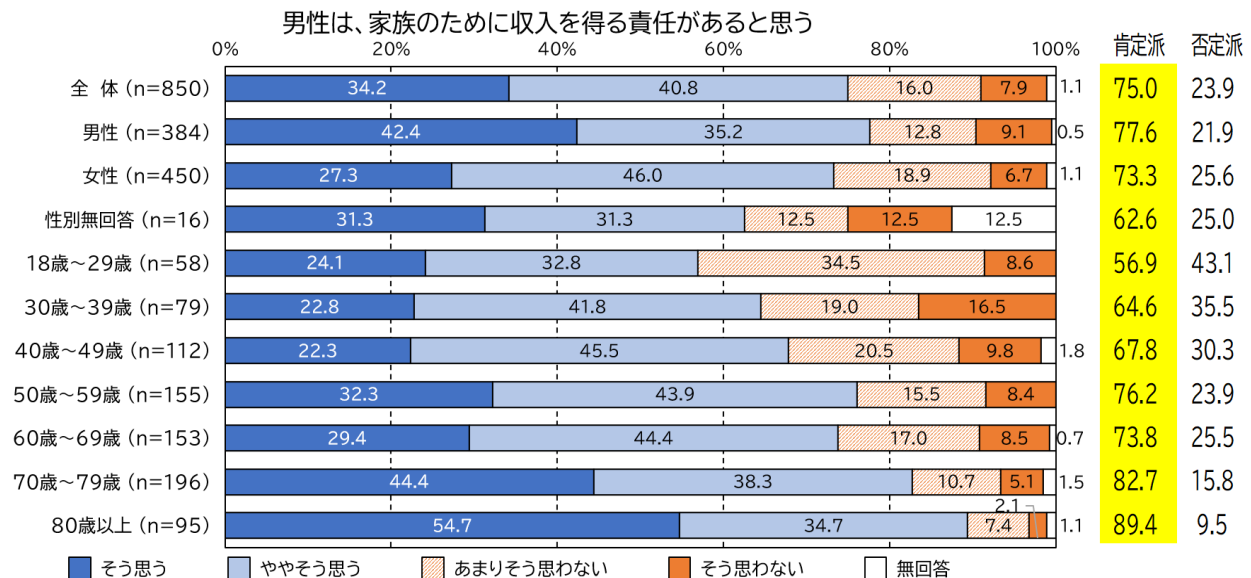


(ウ) 「男性は、家族のために収入を得る責任がある」

全体では、「肯定派」が7割を超えた。

性別で見ると、男性の「そう思う」割合が4割を超えた。

年齢別でも、全ての年代で「肯定派」が多く、最も「肯定派」が少ない29歳以下でも5割を超えた。

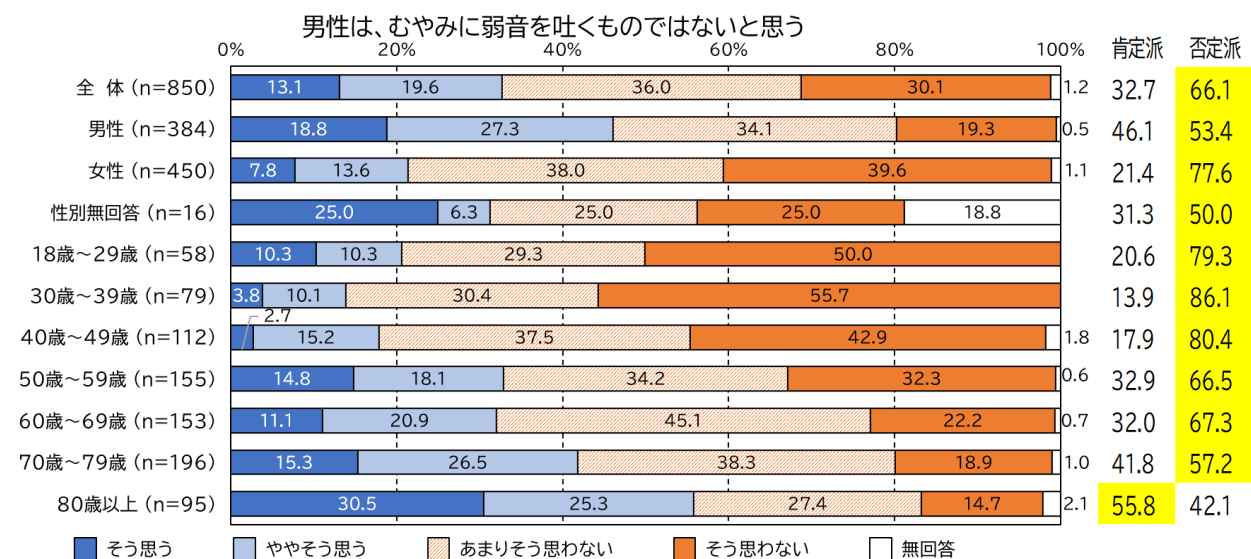


(エ) 「男性は、むやみに弱音を吐くものではない」

全体では、「否定派」が66.1%となった。

性別で見ると、「否定派」の男性は53.4%、女性は77.6%と女性の方が否定的に捉えている。

年齢別では、70歳代以下では「否定派」が多かったが、80歳以上では「肯定派」の割合が高かった。

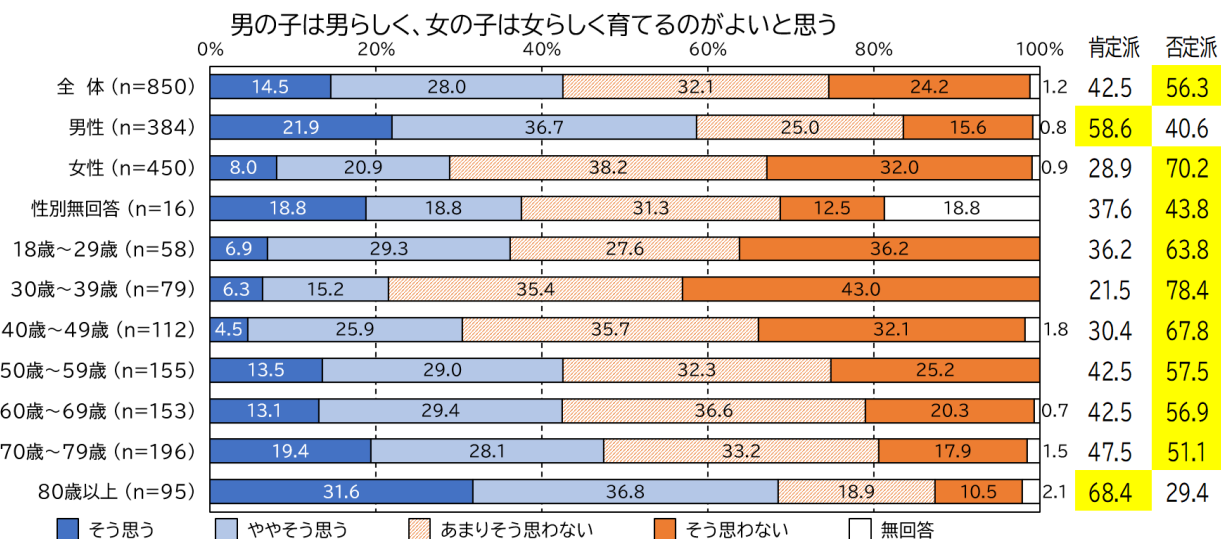


(オ) 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」

全体では、「否定派」が 56.3%となった。

性別で見ると、男性は「肯定派」の方が多かった。一方女性は「否定派」の方が多く、約 7 割となった。

年齢別では、80 歳以上では「肯定派」が多かったが、その他の年代では「否定派」が多かった。

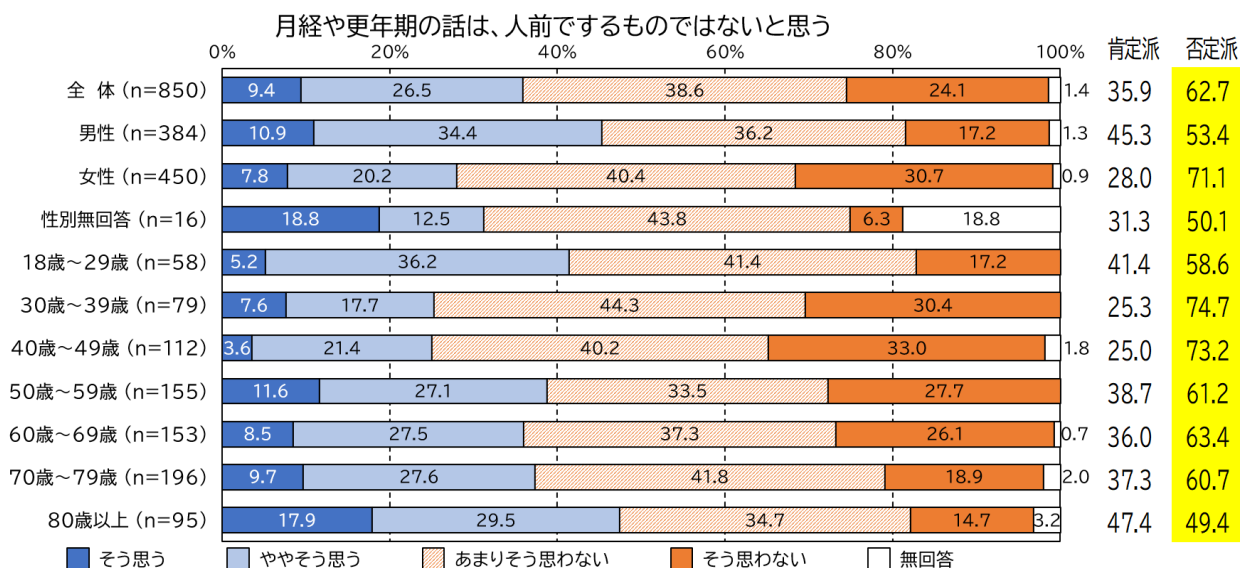


(カ) 「月経や更年期などの話は、人前でするものではない」

全体では、「否定派」が 62.7%となった。

性別で見ると、女性の「否定派」は 7 割を超えた。

年齢別では、全ての年代で「否定派」が多かったが、29 歳以下と 80 歳以上では「肯定派」が 4 割を超えた。



3. 仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度

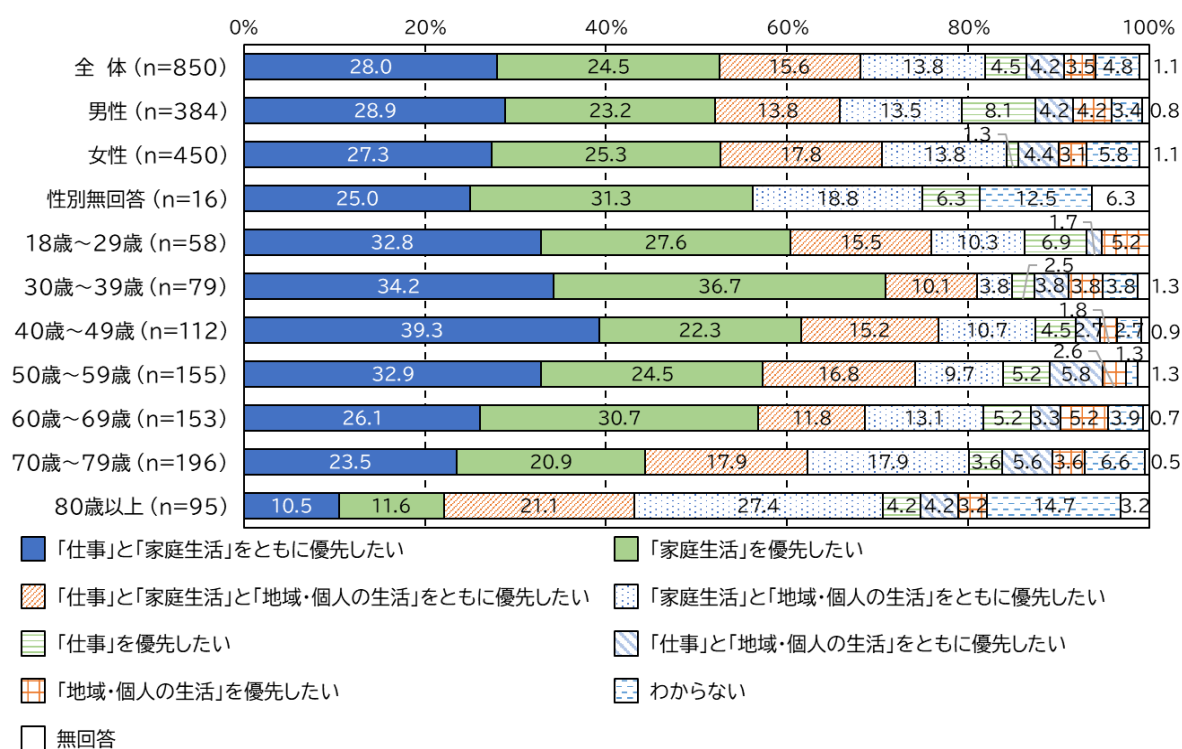
(1) 仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度で希望に最も近いもの

仕事、家庭生活、地域活動（自治会・PTA・地域の付き合いなど）、個人の生活（学習・趣味など）についての優先度をお聞きます。

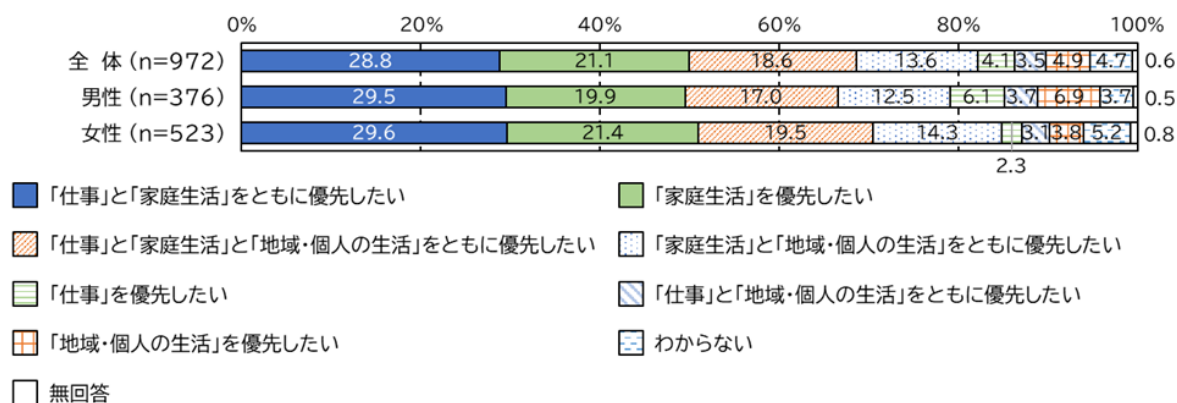
〔問4-1〕あなたの希望に最も近いものをこの中からお答えください。（○は1つ）

全体では、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが 28.0%、『家庭生活』を優先したいが 24.5%と多かった。性別でみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが男性 28.9%、女性 27.3%、『家庭生活』を優先したいが男性 23.2%、女性 25.3%とあまり差がない。年齢別では、『家庭生活』を優先したいと回答した率が最も高いのは 30 歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいと回答した率が最も高いのは 40 歳代となった。

「仕事」「家庭生活」「地域活動・個人の生活」の優先度(希望)



【参考】令和3年度調査結果

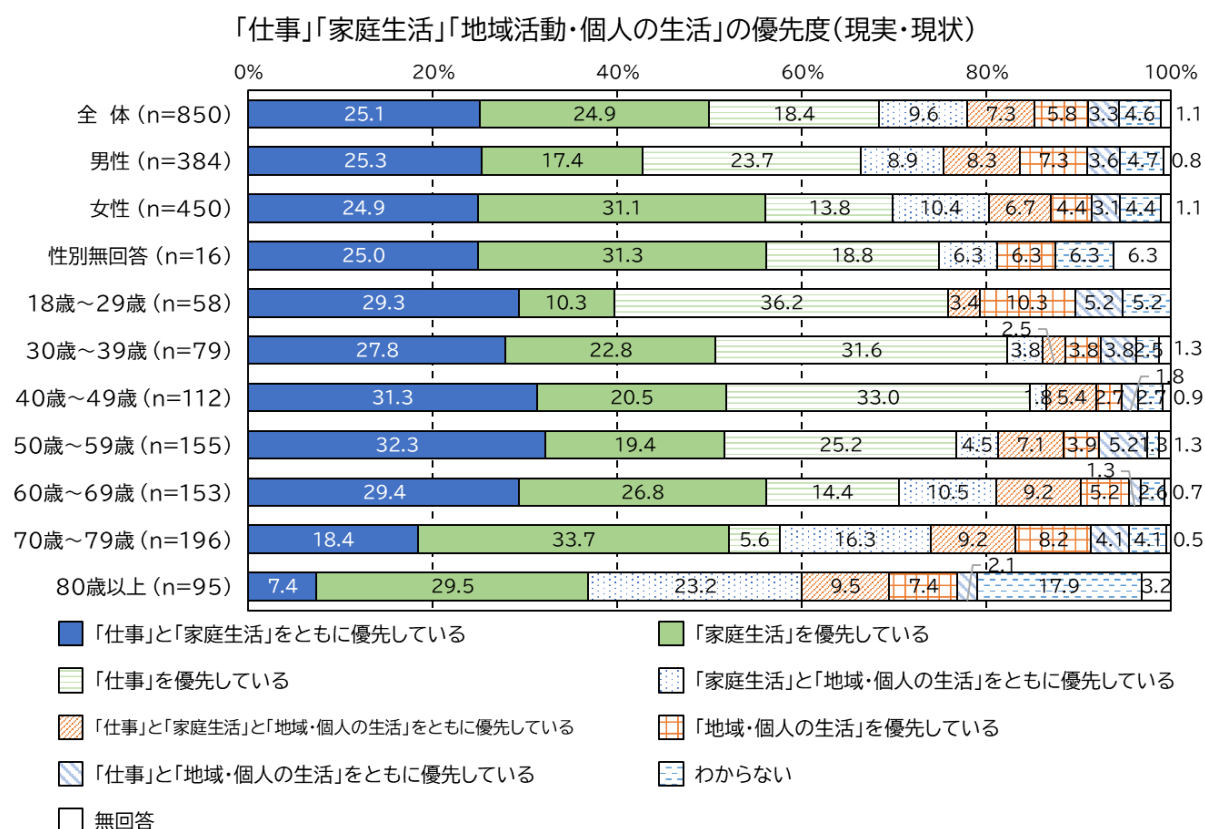


(2) 仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度で現実・現状に最も近いもの

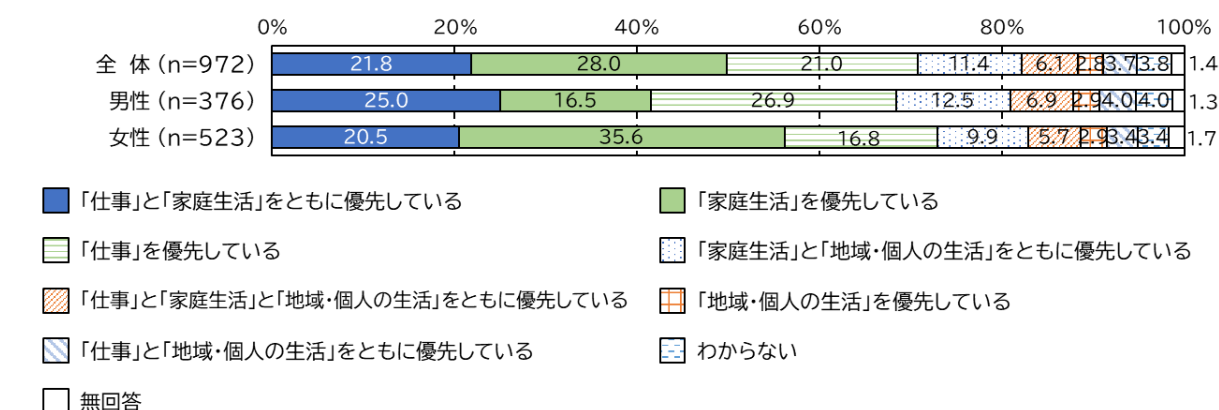
〔問4-2〕 それでは、あなたの現実・現状に最も近いものをこの中からお答えください。（○は1つ）

全体では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 25.1%、「『家庭生活』を優先している」が 24.9%と多かった。

性別で見ると、男性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 25.3%で最も多く、次が「『仕事』を優先している」の 23.7%となった。女性では「『家庭生活』を優先している」が 31.1%で最も多く、次が「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の 24.9%となった。年齢別では、40歳代以下の年齢で「『仕事』を優先している」がいずれも 30%を超え、最も多かった。



【参考】令和3年度調査結果

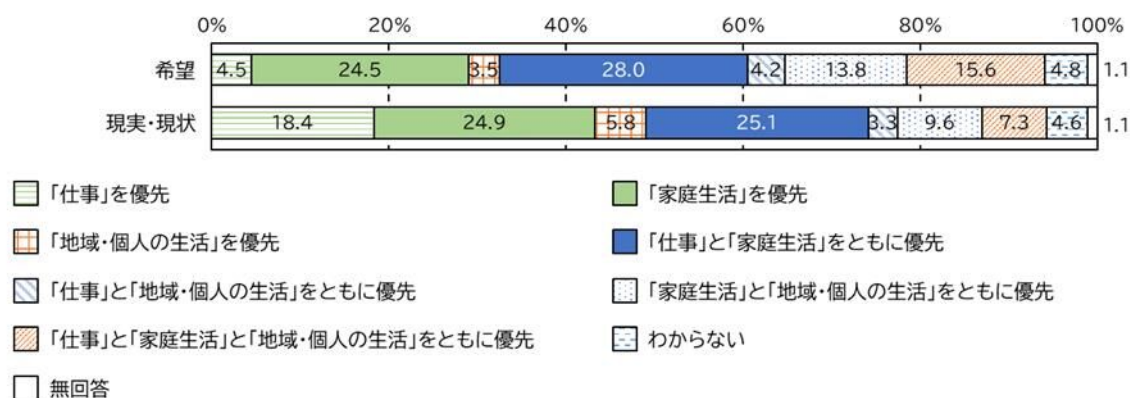


(3) 仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての優先度について、希望と現実・現状の比較

全体では、『仕事』を優先している」と回答した人のうち、38.5%は『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」とし、『家庭生活』を優先したい」は 19.9%、『仕事』を優先したい」は 13.5%となった。

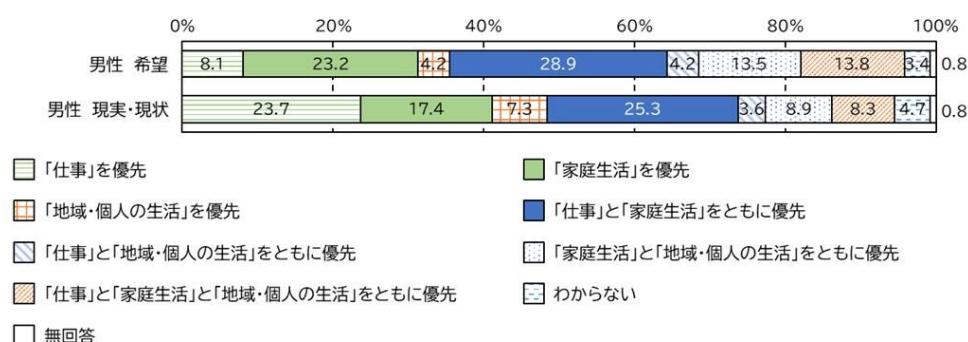
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 (全体)		希望									合計
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
現実・現状	全 体 (n=850)	4.5	24.5	3.5	28.0	4.2	13.8	15.6	4.8	1.1	100.0
	「仕事」を優先している (n=156)	13.5	19.9	4.5	38.5	4.5	7.1	9.6	2.6	0.0	100.0
	「家庭生活」を優先している (n=212)	2.8	51.9	1.4	17.5	1.4	13.7	5.7	5.2	0.5	100.0
	「地域・個人の生活」を優先している (n=49)	4.1	4.1	20.4	16.3	14.3	24.5	12.2	4.1	0.0	100.0
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している (n=213)	2.3	23.5	0.0	53.5	2.3	1.9	16.4	0.0	0.0	100.0
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=28)	3.6	7.1	14.3	7.1	28.6	14.3	25.0	0.0	0.0	100.0
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=82)	0.0	8.5	4.9	7.3	4.9	56.1	15.9	2.4	0.0	100.0
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=62)	3.2	4.8	1.6	8.1	3.2	14.5	62.9	1.6	0.0	100.0
	わからない (n=39)	2.6	7.7	2.6	15.4	0.0	5.1	12.8	53.8	0.0	100.0

※色付きセルは、「現実・現状」の各項目を回答した人が、最も多く「希望」している項目



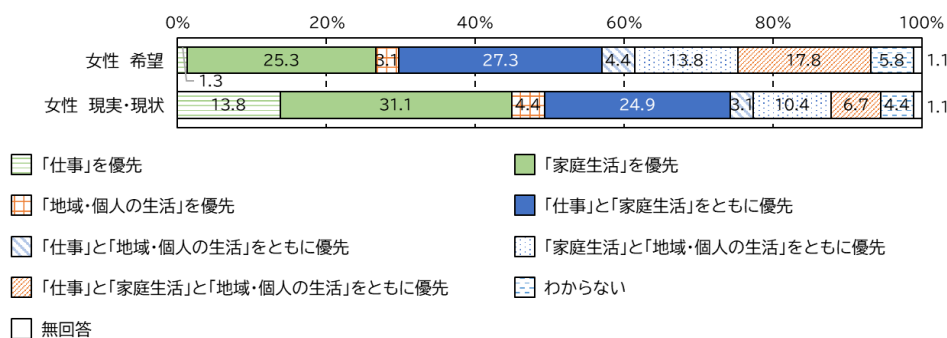
性別でみると、男性で『仕事』を優先している」と回答した人のうち、36.3%は『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」となった。それ以外の回答項目では、概ね現実・現状と希望が合致している結果となった。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 (男性)		希望									合計
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
現実・現状	全 体 (n=384)	8.1	23.2	4.2	28.9	4.2	13.5	13.8	3.4	0.8	100.0
	「仕事」を優先している (n=91)	19.8	19.8	4.4	36.3	2.2	6.6	8.8	2.2	0.0	100.0
	「家庭生活」を優先している (n=67)	7.5	61.2	1.5	11.9	1.5	10.4	4.5	1.5	0.0	100.0
	「地域・個人の生活」を優先している (n=28)	3.6	3.6	28.6	17.9	7.1	28.6	7.1	3.6	0.0	100.0
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している (n=97)	3.1	23.7	0.0	57.7	2.1	2.1	11.3	0.0	0.0	100.0
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=14)	7.1	0.0	14.3	7.1	35.7	21.4	14.3	0.0	0.0	100.0
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=34)	0.0	5.9	2.9	8.8	8.8	55.9	14.7	2.9	0.0	100.0
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=32)	6.3	6.3	0.0	6.3	3.1	18.8	59.4	0.0	0.0	100.0
	わからない (n=18)	5.6	11.1	0.0	16.7	0.0	5.6	16.7	44.4	0.0	100.0



女性で『仕事』を優先している」と回答した人のうち、41.9%は『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」とし、『仕事』を優先したい」は最下位の 3.2%となった。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 (女性)		希望									合計
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
現実・現状	全 体 (n=450)	1.3	25.3	3.1	27.3	4.4	13.8	17.8	5.8	1.1	100.0
	「仕事」を優先している (n=62)	3.2	19.4	4.8	41.9	8.1	8.1	11.3	3.2	0.0	100.0
	「家庭生活」を優先している (n=140)	0.7	47.9	1.4	20.7	1.4	14.3	6.4	6.4	0.7	100.0
	「地域・個人の生活」を優先している (n=20)	5.0	5.0	10.0	15.0	25.0	15.0	20.0	5.0	0.0	100.0
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している (n=112)	1.8	22.3	0.0	50.0	2.7	1.8	21.4	0.0	0.0	100.0
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=14)	0.0	14.3	14.3	7.1	21.4	7.1	35.7	0.0	0.0	100.0
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=47)	0.0	10.6	6.4	4.3	2.1	57.4	17.0	2.1	0.0	100.0
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (n=30)	0.0	3.3	3.3	10.0	3.3	10.0	66.7	3.3	0.0	100.0
	わからない (n=20)	0.0	5.0	5.0	15.0	0.0	5.0	10.0	60.0	0.0	100.0

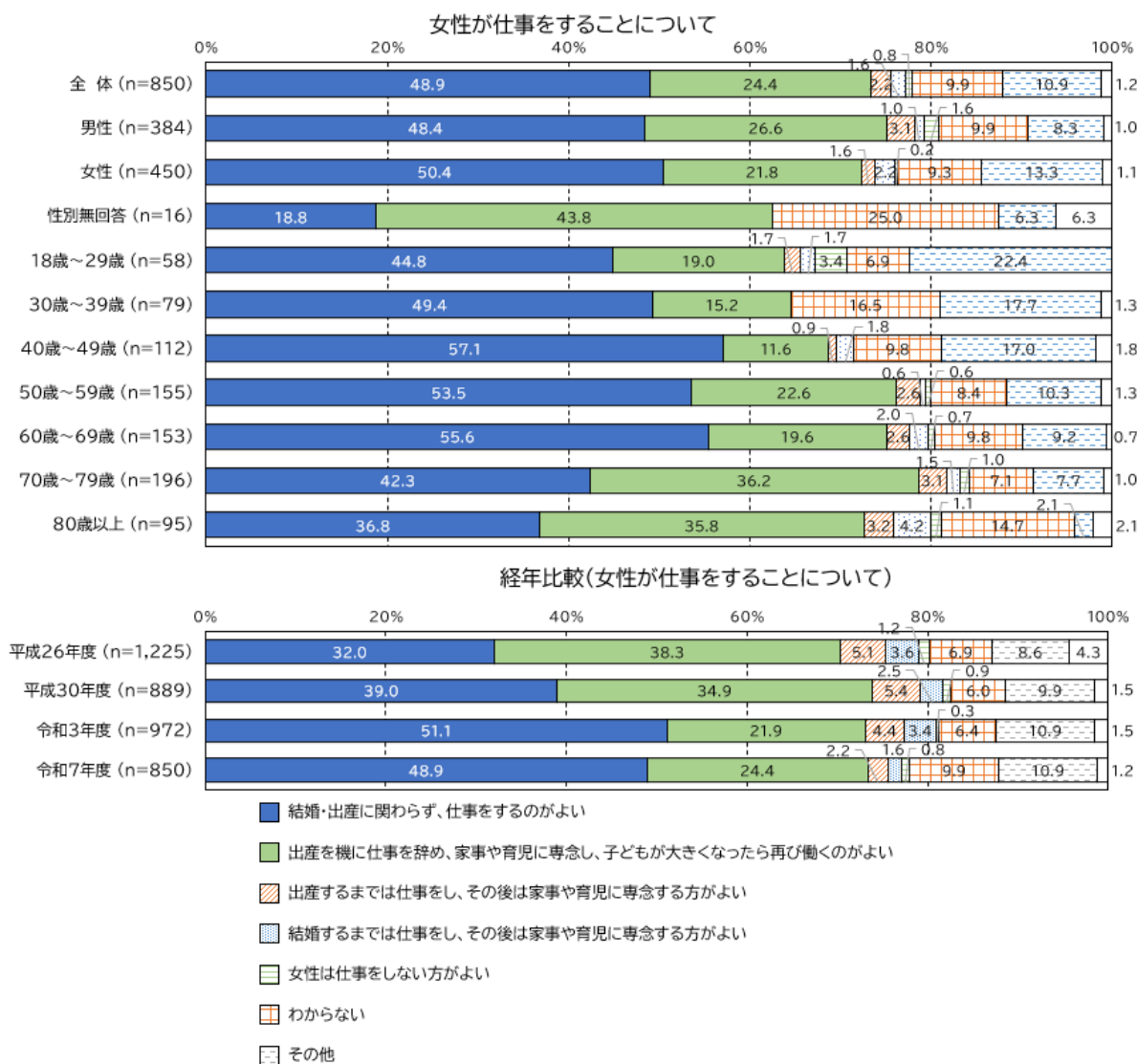


4. 仕事、家庭生活について

(1) 女性が仕事(収入を得るための労働)をすることについて

〔問5〕女性が仕事(収入を得るための労働)をすることについて、あなたはどのように考えますか。
(○は1つ)

全体では、「結婚・出産に関わらず、仕事をするのがよい」と回答した人が48.9%と最も多かった。性別でも、男女別の回答傾向に大きな差はなかった。年齢別では、40歳代で「結婚・出産に関わらず、仕事をするのがよい」と回答した人が57.1%と最も多かった。一方、70歳代以上では、「出産を機に仕事を辞め、家事や育児に専念し、子どもが大きくなったら再び働くのがよい」と回答した人が3割を超えた。なお、前回調査と比較すると、「結婚・出産に関わらず、仕事をするのがよい」と回答した人は、2.2ポイント減少した。



(注)令和3年度以前の調査では、「一般的に女性が職業をもつことについて、どう考えますか。(○は1つ)」と聞いた。

(2) 結婚・出産に関わらず、女性が仕事を続けるために必要な環境について

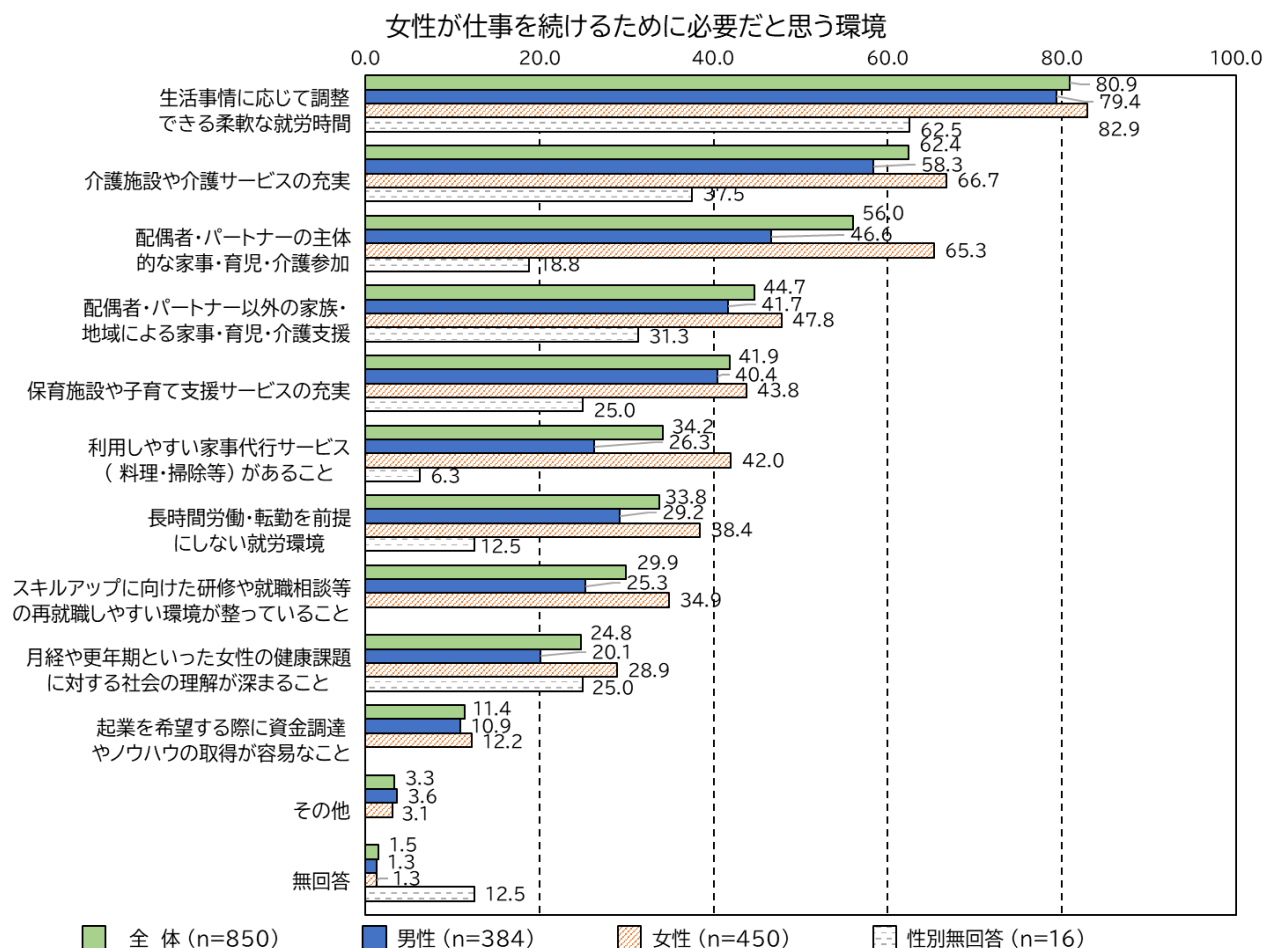
〔問6〕結婚し、子どもを持っても仕事を続けたいと考える女性が増えています。

あなたは、結婚・出産に関わらず、女性が仕事を続けるためにはどのような環境が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

全体では、「生活事情に応じて調整できる柔軟な就労時間」が 80.9%、「介護施設や介護サービスの充実」が 62.4%、「配偶者・パートナーの主体的な家事・育児・介護参加」が 56.0%と上位になった。

性別で見ると、「配偶者・パートナーの主体的な家事・育児・介護参加」と回答した女性は 65.3%で男性の回答 46.6%を上回ったほか、「利用しやすい家事代行サービス(料理・掃除等)があること」についても女性の回答 42.0%に対し男性の回答は 26.3%と回答傾向に差が見られた。

「その他」の意見では、「保育士や学童の職員の待遇(給与面など)の改善」「困った時にサポートしてくれる色々なサービスが受けられること」「男女平等になるよう配慮されるべきで、仕事を肩代わりした際に補償がされるような仕組みを旗振り役の公から整えていくことが重要」などがあつた。



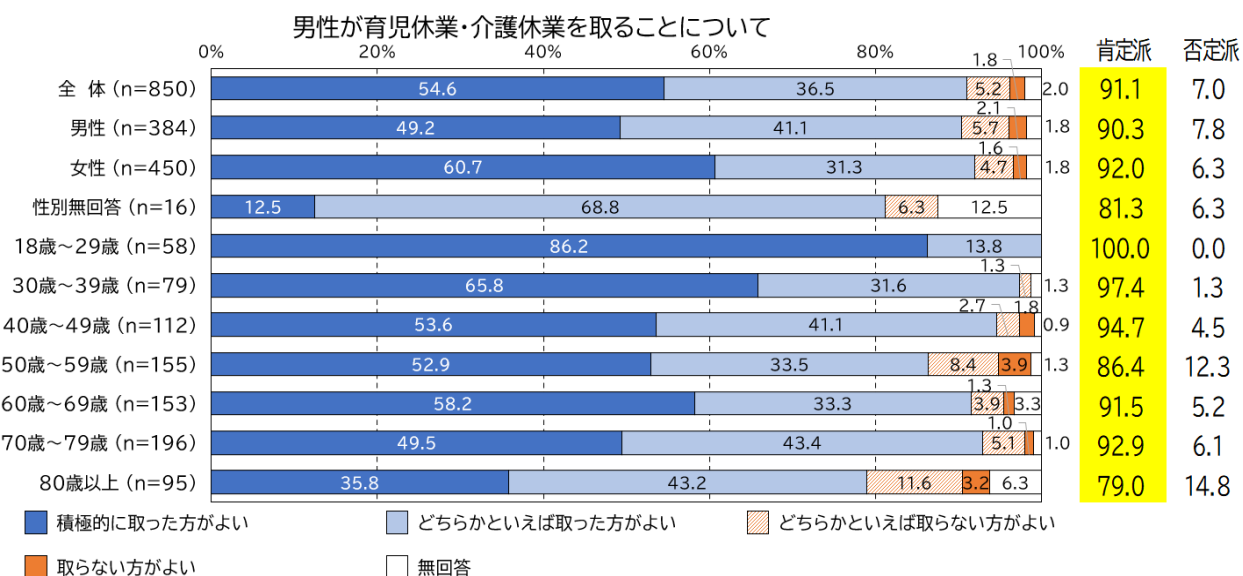
(3) 休業制度を活用して男性が育児休業や介護休業をすることについて

〔問7〕 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。
この制度を活用して男性が育児休業や介護休業をすることについて、あなたはどのように
思いますか。（○は1つ）

全体では、「積極的に取った方がよい」が 54.6%、「どちらかといえば取った方がよい」が 36.5%と「肯定派」が9割を超えた。

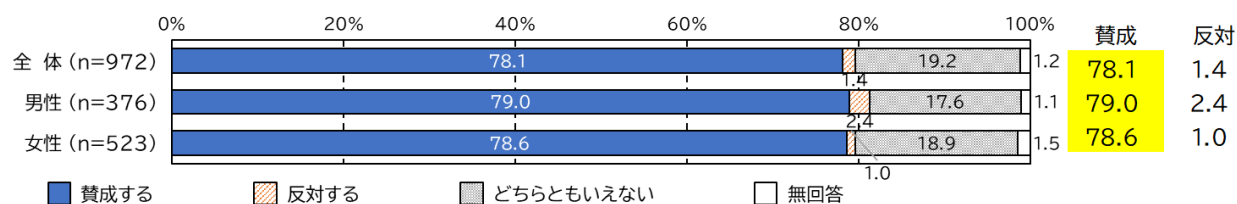
性別でみると、「積極的に取った方がよい」と回答した割合は、男性 49.2%、女性 60.7%と女性の方が10ポイント以上高くなった。

年齢別では、「肯定派」が29歳以下で100.0%となった。



【参考】令和3年度調査

男性が「育児休業」や「介護休業」を取得することについて、どう思いますか。（○は1つ）



(4) 男性が家事・育児・介護などを行う際の障害となるものについて

〔問8〕育児休業や介護休業といった制度があっても、男性が制度を十分に活用しない（できない）といった状況や、男性の家事や育児に関わる時間が女性にくらべて少ないといった現状があります。

男性が家事・育児・介護などを行う際の障害となっているものは何だと思われますか。

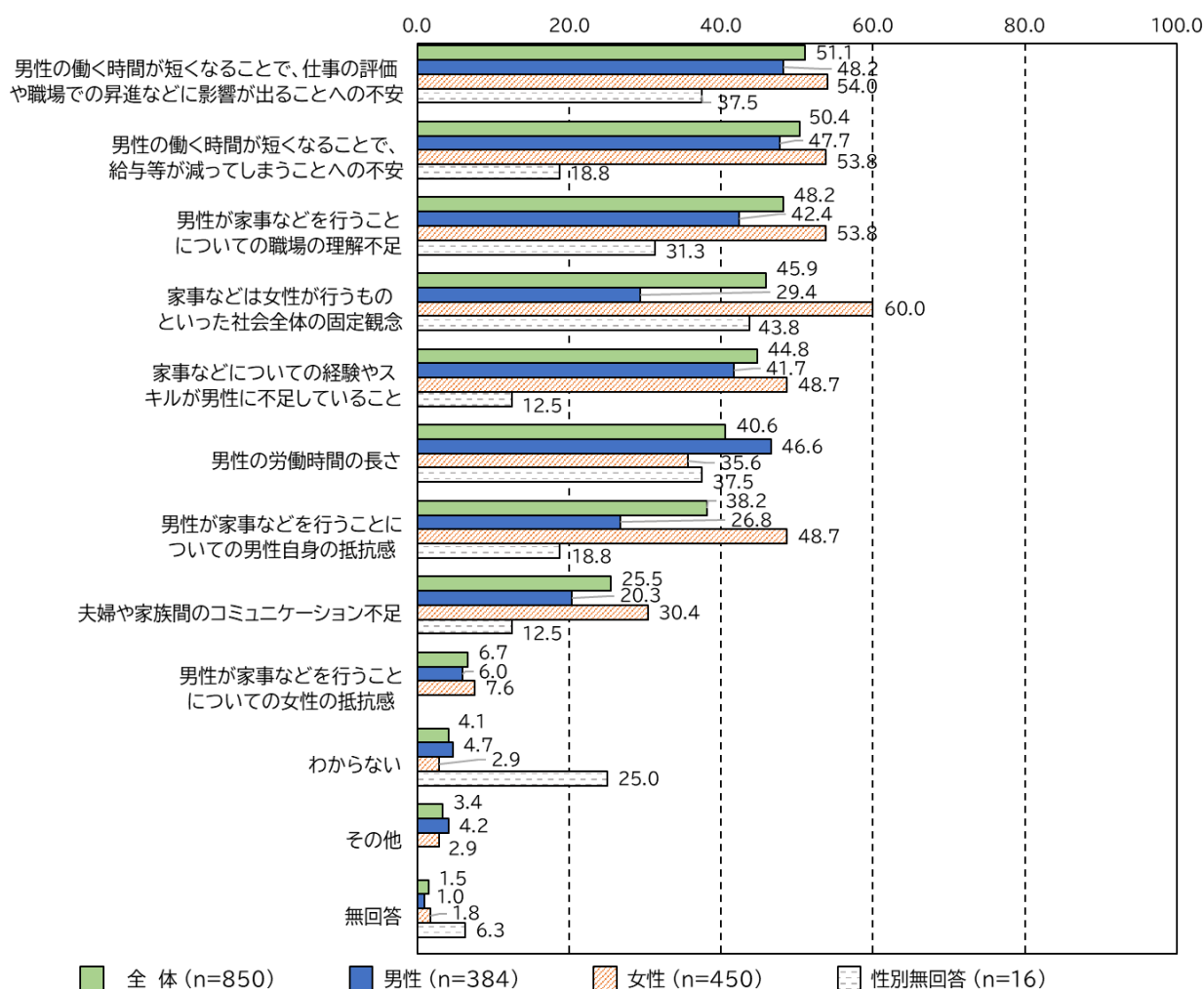
（〇はいくつでも）

全体では、「男性の働く時間が短くなることで、仕事の評価や職場での昇進などに影響が出ることへの不安」が 51.1%、「男性の働く時間が短くなることで、給与等が減ってしまうことへの不安」が 50.4%と上位となった。

性別によって回答傾向に差があり、男性で「男性の労働時間の長さ」と回答した人の割合は 46.6%で、女性より 10 ポイント以上高かった。女性では「家事などは女性が行うもの」といった社会全体の固定観念」と回答した人の割合が 60.0%と最も高く、男性の回答割合を 30 ポイント以上、上回った。

「その他」の意見では、「職場が人手不足で休みづらい、制度活用への抵抗感」「職場の他メンバーへの負荷がしわ寄せでしかない体制」などがあつた。

男性が家事・育児・介護などを行う際の障害



(5) 職場の環境などに関する現状について

〔問9〕この質問は、現在、仕事（収入を得るための労働）をしている方にお聞きます。

職場環境等に関する各項目について、あなたの現状を教えてください。

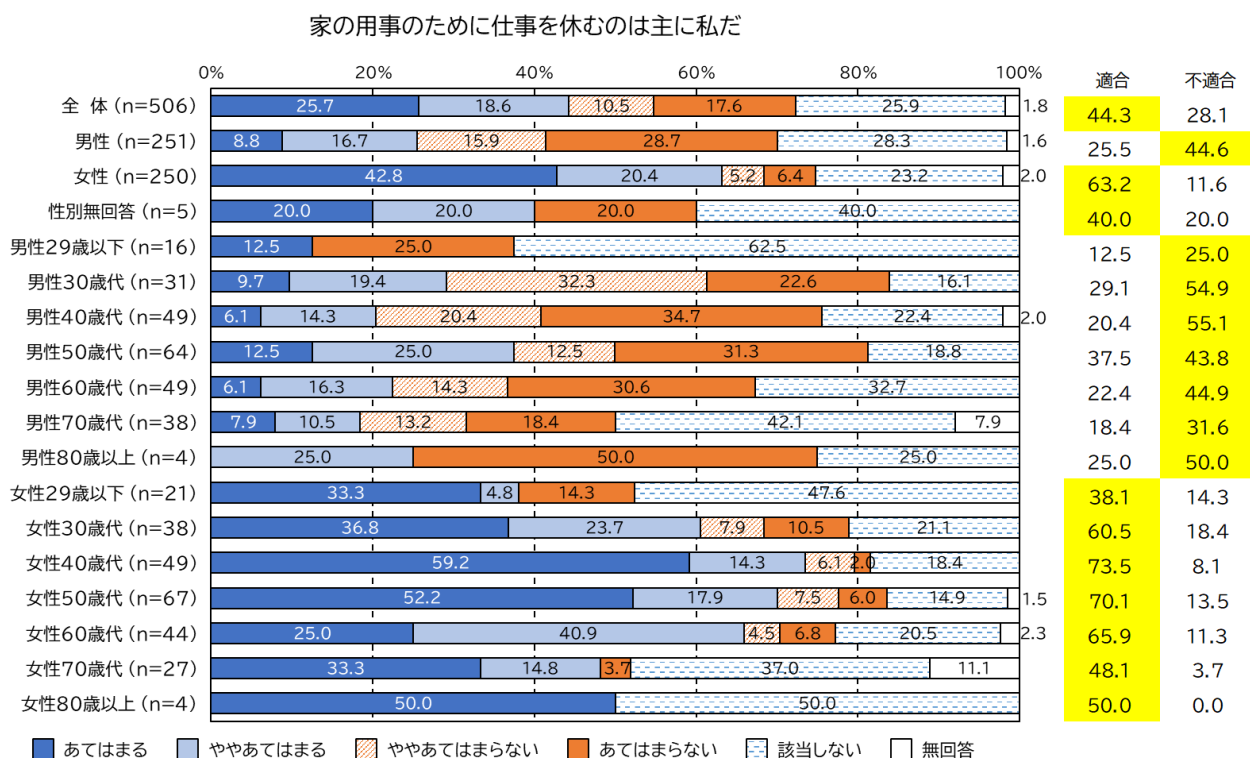
（項目ごとに○は1つずつ）

※ひとり暮らしであったり、自営業等で設問の状況にあてはまらない場合は「該当しない」に○をしてください。

※P3 の回答者属性の(4)自身の主な仕事において、「正規の社員・職員」「非正規の社員・職員」「自営・家族従業」とした人の回答

(ア) 「家の用事(育児や介護を含む)のために仕事を抜ける(休む)のは主に私だ」

男性では「あてはまる」が8.8%、「ややあてはまる」が16.7%で「適合」する人が25.5%なのに対し、女性では、「あてはまる」が42.8%、「ややあてはまる」が20.4%で「適合」する人の割合は6割を超え、男女で差がある。

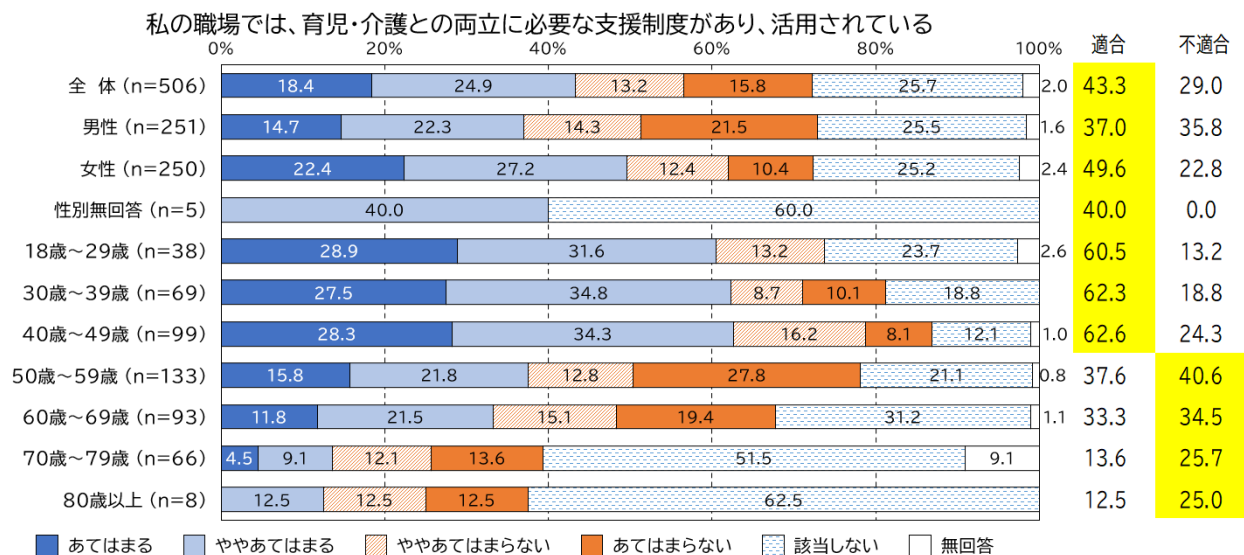


(イ) 「私の職場では、育児・介護との両立に必要な支援制度があり、活用されている」

全体では、「適合」が43.3%、「不適合」が29.0%となった。

性別でみると、「適合」と回答した人が男性 37.0%、女性 49.6%となった。

年齢別では、40 歳代以下の全ての年代で「適合」と回答した人が 60%以上となり、「不適合」を上回った。

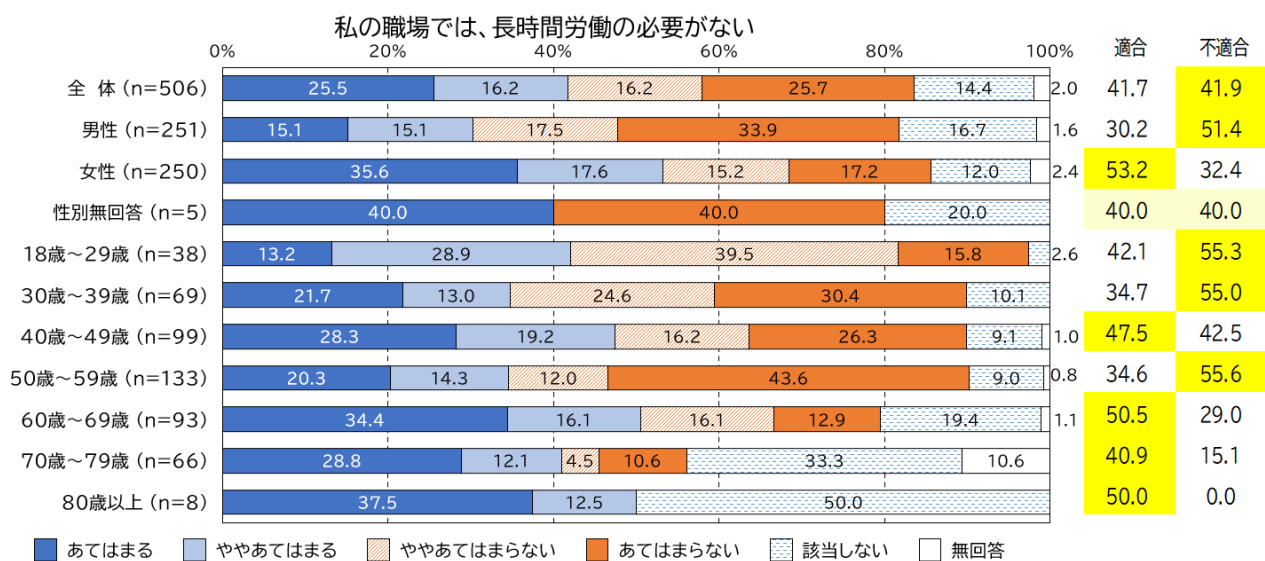


(ウ) 「私の職場では長時間労働の必要がない」

全体では、「適合」が41.7%、「不適合」が41.9%となった。

性別でみると、「適合」と回答した人が男性 30.2%、女性 53.2%となり、男性では「あてはまらない」(長時間労働の必要がある)と回答した人が 39.9%と、女性で「あてはまらない」と回答した人を上回った。

年齢別では、「不適合」が 30 歳代以下と50歳代で5割を超えた。

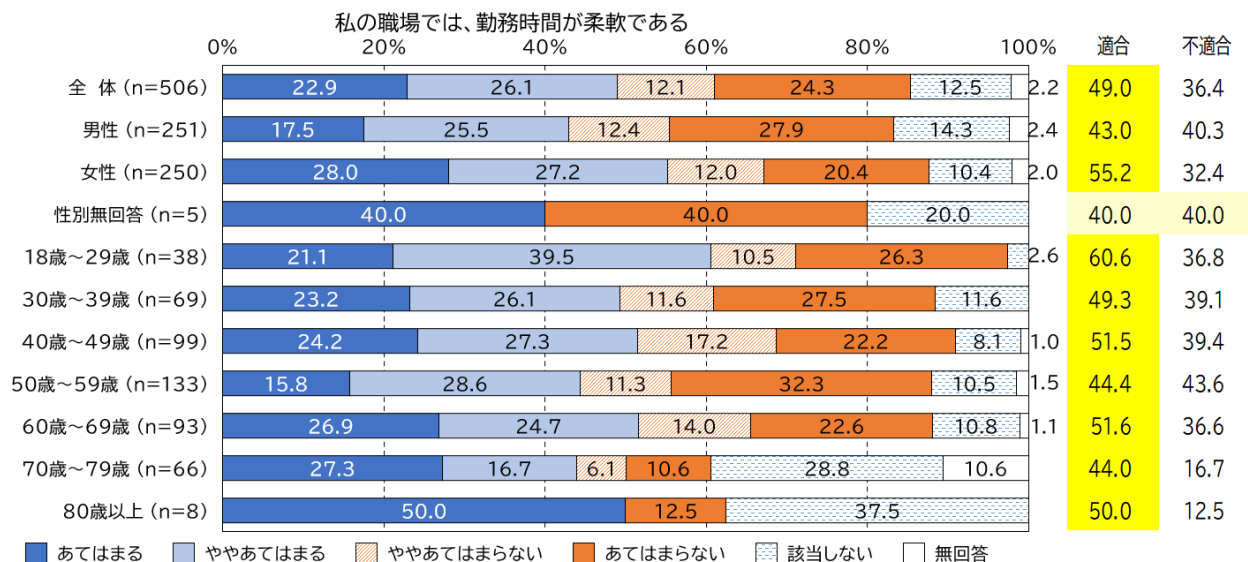


(エ)「私の職場では、勤務時間が柔軟である」

全体では、「適合」が49.0%、「不適合」が36.4%となった。

性別で見ると、「適合」と回答した人が男性43.0%、女性55.2%となった。

年齢別では、「適合」は、29歳以下で60.6%と最も多かった。

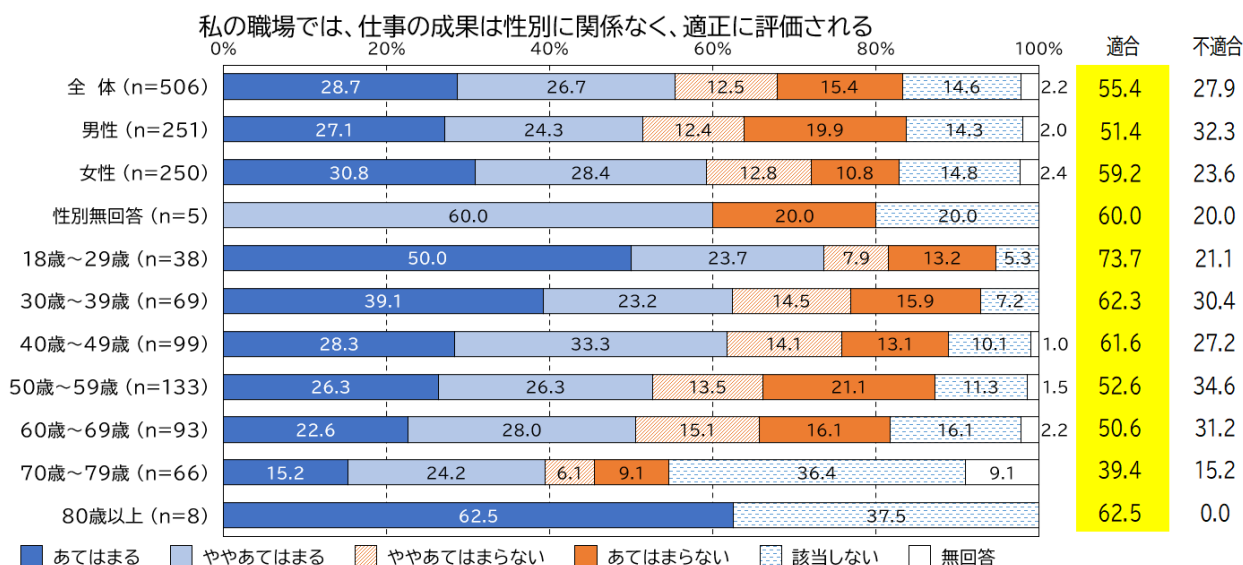


(オ)「私の職場では、仕事の成果は性別に関係なく、適正に評価される」

全体では、「適合」が55.4%、「不適合」が27.9%となった。

性別で見ると、「適合」と回答した人が男性51.4%、女性59.2%となった。

年齢別では、80歳以上を除けば、年代が下がるほど「適合」(仕事の成果は性別に関係なく、適正に評価される)と回答する率が高く、29歳以下では73.7%が「適合」と回答した。

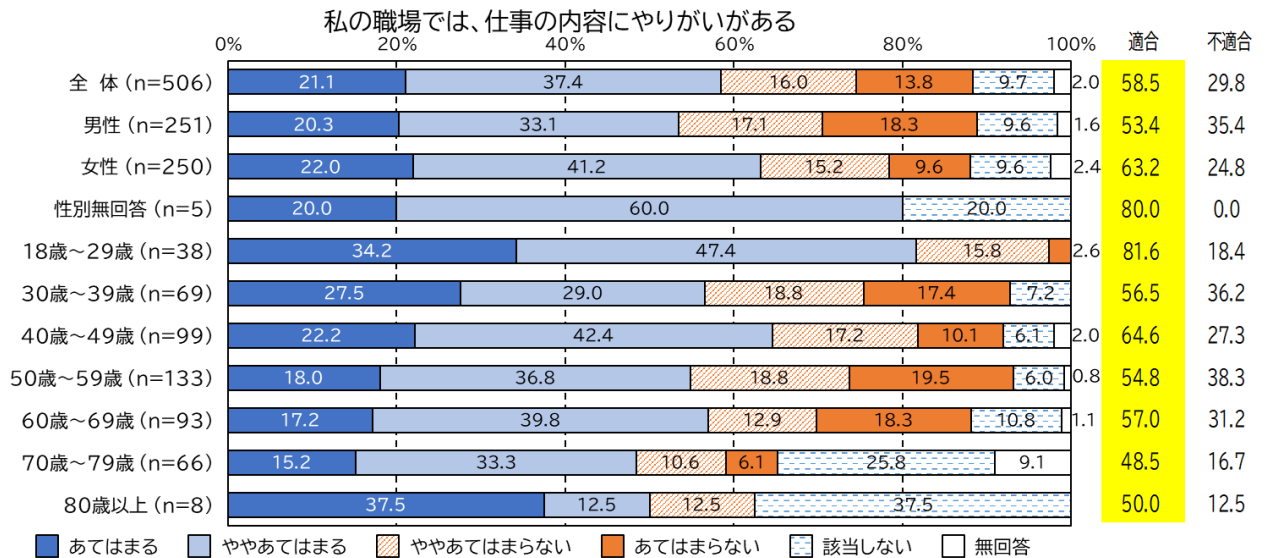


(カ)「私の職場では、仕事の内容にやりがいがある」

全体では、「適合」が58.5%、「不適合」が29.8%となった。

性別で見ると、「適合」と回答した人が男性53.4%、女性63.2%となった。

年齢別では、29歳以下で「適合」が81.6%と最も多かった。

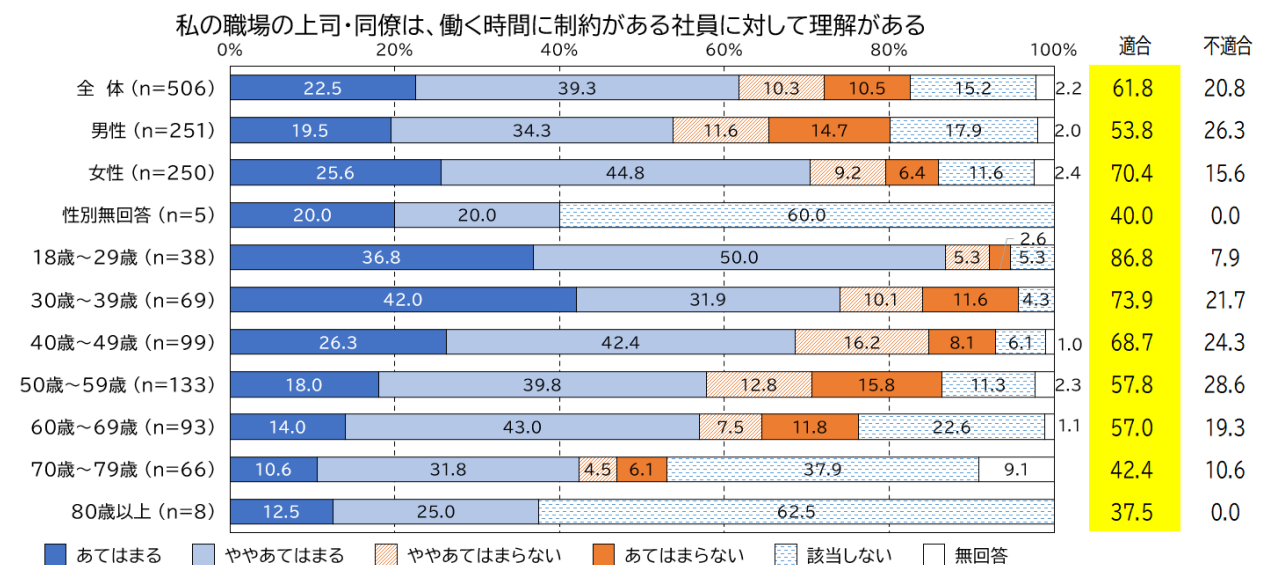


(キ)「私の職場の上司・同僚は、育児や介護などで働く時間に制約がある社員に対して理解がある」

全体では、「適合」が61.8%、「不適合」が20.8%となった。

性別で見ると、「適合」と回答した人が男性53.8%、女性70.4%となった。

年齢別では、29歳以下で「適合」が86.8%と最も多かった。



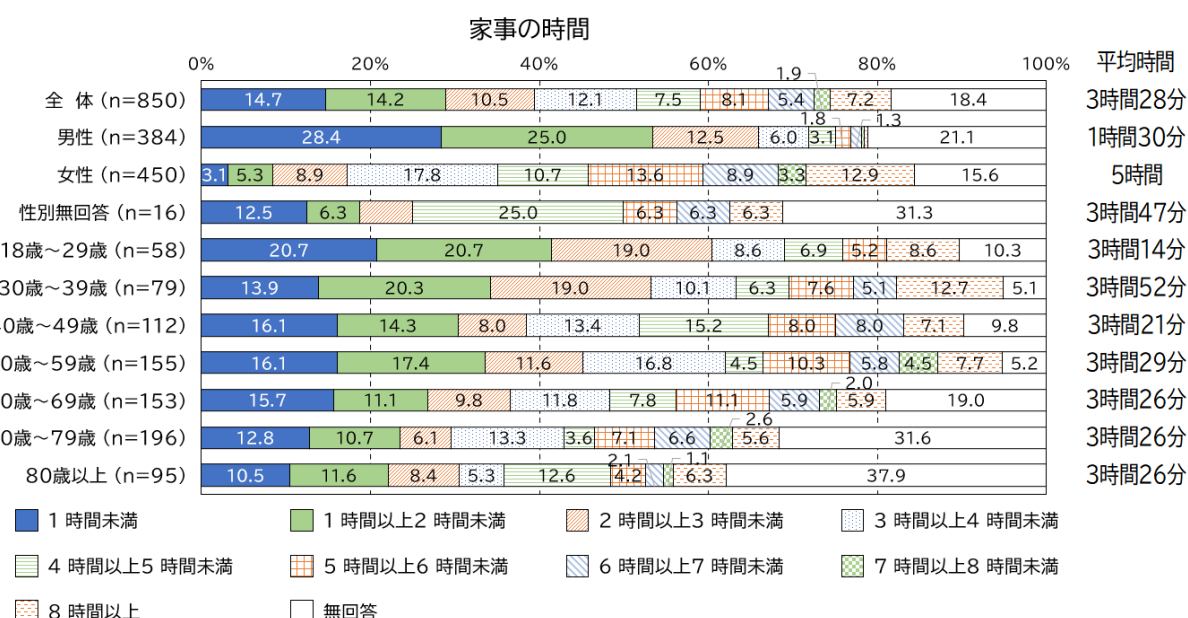
(6)「1日に行う家事(育児や介護を含む)の平均時間」について

〔問 10〕あなたが1日に行う家事（育児や介護を含む）の時間は、平均どの位ですか。
 （ ）内に時間をお書きください。（数値を記入）

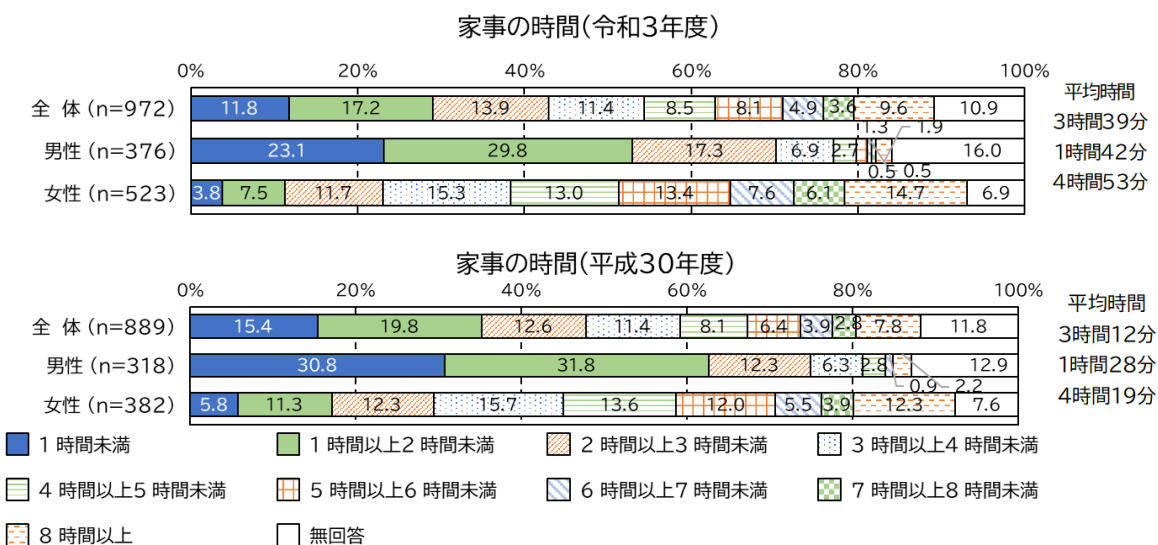
全体では、無回答を除けば、「1時間未満」が 14.7%と最も多く、次いで、「1時間以上2時間未満」が 14.2%となり、男女合わせた平均の家事時間は3時間28分となった。

性別で見ると、男性では「1時間未満」が 28.4%と最も多く、女性では「3時間以上4時間未満」が 17.8%と最も多かった。

平均の家事時間は、男性で 1 時間 30 分、女性で 5 時間となり開きがある。これは有職の場合でもほぼ変わらず、既婚・その他の有職男性の平均家事時間は 1 時間 32 分であるのに対し、女性の平均家事時間は、5 時間8分という結果となった。



【参考】令和3年度・平成30年度調査



【参考】家事の時間 結婚の状況・性別と既婚その他における性年齢別内訳

		調査数	家事の時間										平均時間
			1 時間未満	1 時間以上 ～2 時間未 満	2 時間以上 ～3 時間未 満	3 時間以上 ～4 時間未 満	4 時間以上 ～5 時間未 満	5 時間以上 ～6 時間未 満	6 時間以上 ～7 時間未 満	7 時間以上 ～8 時間未 満	8 時間以上	不 明	
合 計		850	14.7	14.2	10.5	12.1	7.5	8.1	5.4	1.9	7.2	18.4	3時間28分
性別・ 未既婚その他	男性未婚	71	31.0	26.8	15.5	12.7	-	1.4	1.4	-	-	11.3	1時間22分
	男性既婚その他	313	27.8	24.6	11.8	4.5	3.8	1.9	1.3	0.3	0.6	23.3	1時間32分
	女性未婚	68	8.8	17.6	20.6	16.2	8.8	5.9	1.5	1.5	1.5	17.6	2時間51分
	女性既婚その他	382	2.1	3.1	6.8	18.1	11.0	14.9	10.2	3.7	14.9	15.2	5時間23分
	既婚その他男性29歳以下	5	-	20.0	20.0	-	20.0	20.0	-	-	20.0	-	5時間6分
既婚他の 内訳 性年 齢別	既婚その他男性30歳代	20	20.0	30.0	25.0	5.0	10.0	-	5.0	-	-	5.0	1時間52分
	既婚その他男性40歳代	41	29.3	29.3	9.8	7.3	7.3	4.9	4.9	-	2.4	4.9	2時間5分
	既婚その他男性50歳代	56	35.7	32.1	16.1	7.1	1.8	-	-	1.8	-	5.4	1時間18分
	既婚その他男性60歳代	59	35.6	18.6	13.6	1.7	3.4	1.7	-	-	-	25.4	1時間7分
	既婚その他男性70歳代	90	26.7	22.2	5.6	2.2	1.1	2.2	1.1	-	-	38.9	1時間15分
	既婚その他男性80歳以上	42	14.3	21.4	11.9	7.1	4.8	-	-	-	-	40.5	1時間37分
	既婚その他女性29歳以下	8	25.0	-	-	12.5	-	12.5	-	-	50.0	-	9時間48分
	既婚その他女性30歳代	32	3.1	-	15.6	18.8	9.4	9.4	9.4	-	31.3	3.1	6時間55分
	既婚その他女性40歳代	44	-	4.5	4.5	15.9	25.0	13.6	15.9	-	15.9	4.5	5時間6分
	既婚その他女性50歳代	77	-	6.5	6.5	20.8	6.5	20.8	10.4	7.8	14.3	6.5	5時間24分
	既婚その他女性60歳代	75	1.3	2.7	6.7	18.7	10.7	21.3	10.7	2.7	10.7	14.7	4時間53分
	既婚その他女性70歳代	100	1.0	1.0	6.0	23.0	6.0	11.0	12.0	5.0	11.0	24.0	5時間1分
	既婚その他女性80歳以上	46	6.5	4.3	6.5	4.3	19.6	8.7	2.2	2.2	13.0	32.6	4時間54分

【参考】家事の時間 結婚の状況・性・職業有無別

		調査数	家事の時間										平均時間
			1 時間未満	1 時間以上 ～2 時間未 満	2 時間以上 ～3 時間未 満	3 時間以上 ～4 時間未 満	4 時間以上 ～5 時間未 満	5 時間以上 ～6 時間未 満	6 時間以上 ～7 時間未 満	7 時間以上 ～8 時間未 満	8 時間以上	不 明	
合 計		850	14.7	14.2	10.5	12.1	7.5	8.1	5.4	1.9	7.2	18.4	3時間28分
性別未既婚他・ 有職無職	男性未婚有職	47	38.3	29.8	14.9	6.4	-	2.1	-	-	-	8.5	1時間6分
	男性未婚無職	24	16.7	20.8	16.7	25.0	-	-	4.2	-	-	16.7	1時間58分
	男性既婚その他有職	204	33.3	28.9	14.2	4.4	3.9	2.5	1.5	0.5	1.0	9.8	1時間32分
	男性既婚その他無職	109	17.4	16.5	7.3	4.6	3.7	0.9	0.9	-	-	48.6	1時間33分
	女性未婚有職	46	8.7	21.7	23.9	19.6	8.7	6.5	-	2.2	-	8.7	2時間27分
	女性未婚無職	22	9.1	9.1	13.6	9.1	9.1	4.5	4.5	-	4.5	36.4	4時間6分
	女性既婚その他有職	204	2.5	4.4	8.3	23.5	14.2	17.6	9.3	2.9	13.7	3.4	5時間8分
	女性既婚その他無職	178	1.7	1.7	5.1	11.8	7.3	11.8	11.2	4.5	16.3	28.7	5時間46分

5. 男女共同参画に関わることがらや経験について

(1) 次のことがらについての認知度

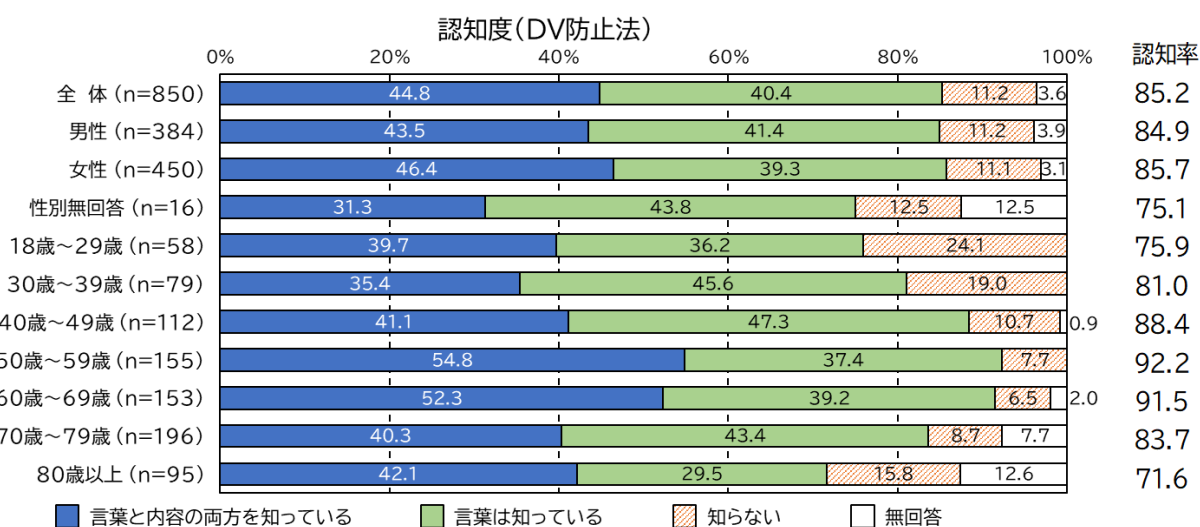
〔問 11〕 あなたは次のことがらについて、どの程度知っていますか。（項目ごとに○は1つずつ）

(ア) DV 防止法(配偶者暴力防止法)

全体では、「言葉と内容の両方を知っている」が 44.8%と最も多く、「言葉は知っている」も合わせた認知率は 85.2%となった。

認知率では男性、女性に大きな差はなかった。

年齢別では、50 歳代の認知率が 92.2%と最も高かった。

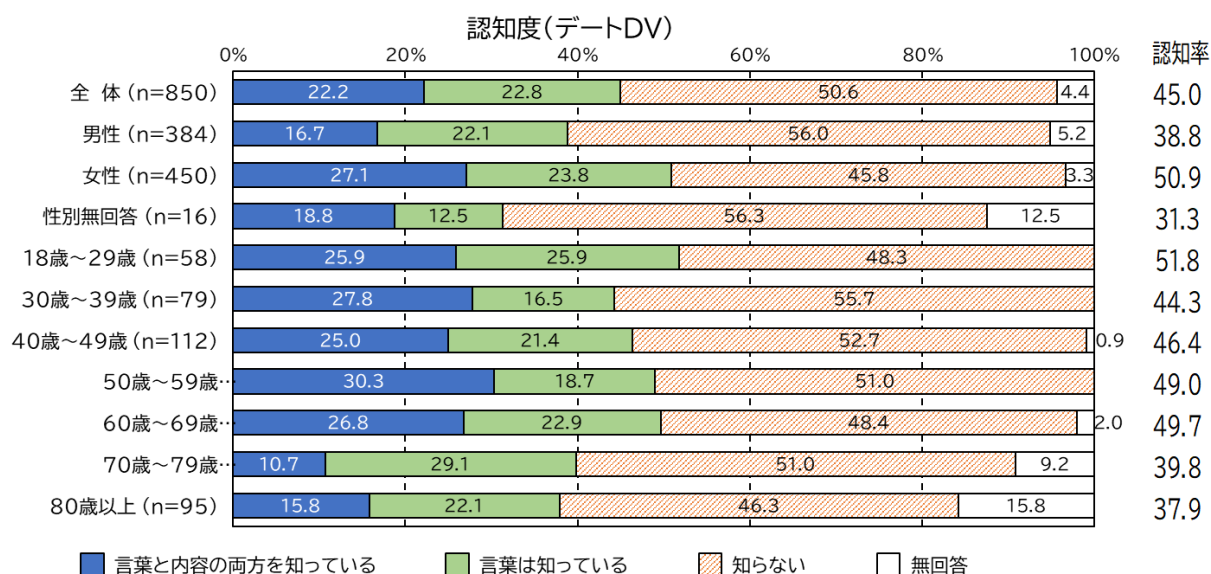


(イ) デートDV

全体では、認知率は 45.0%にとどまり、「知らない」という回答の方が多かった。

性別でみると、女性の認知率が約 5 割なのに対し、男性の認知率は4割にとどかなかった。

年齢別では、29 歳以下の認知率が 51.8%と最も多かった。

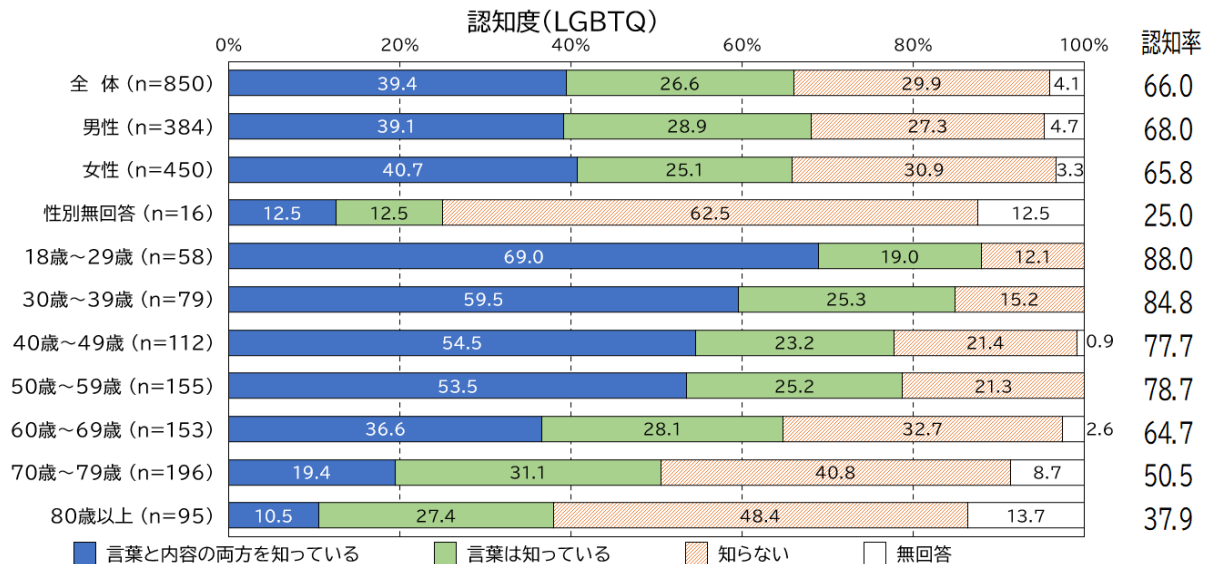


(ウ) LGBTQ

全体では、認知率は 6 割を超えた。

男女で認知率に大きな差はなかった。

年齢別では、年齢が下がるほど認知率は高くなり、特に 29 歳以下では、7 割に近い人が「言葉と内容の両方を知っている」と回答した。

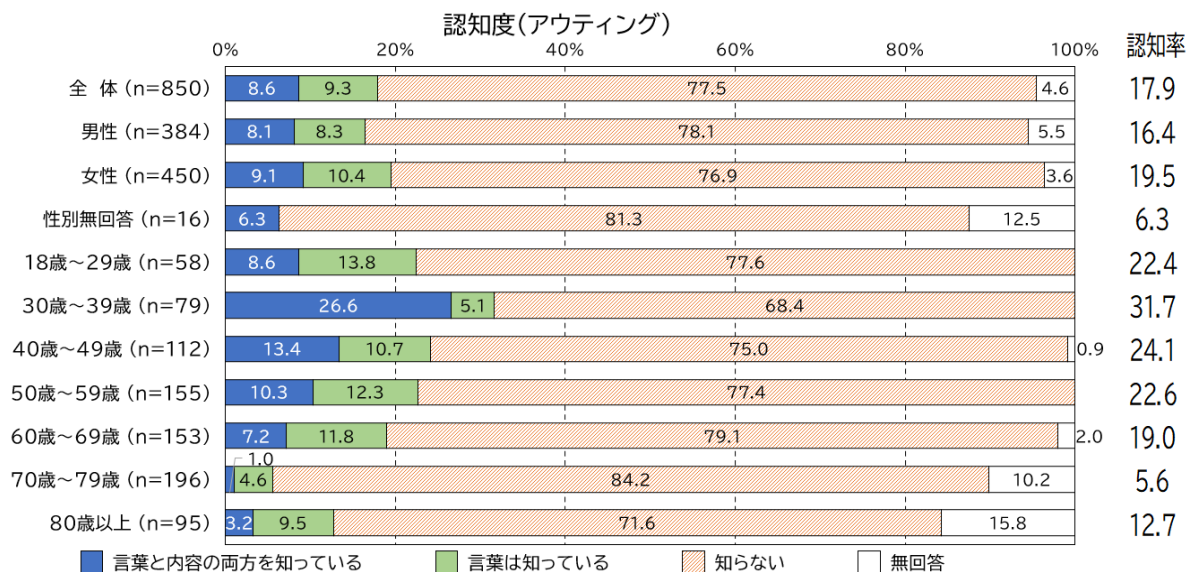


(エ) アウティング

全体の認知率は 17.9%にとどまり、「知らない」と回答した人が 77.5%となった。

性別でみると、女性の認知率が男性に比べやや高いものの、2 割にとどかなかった。

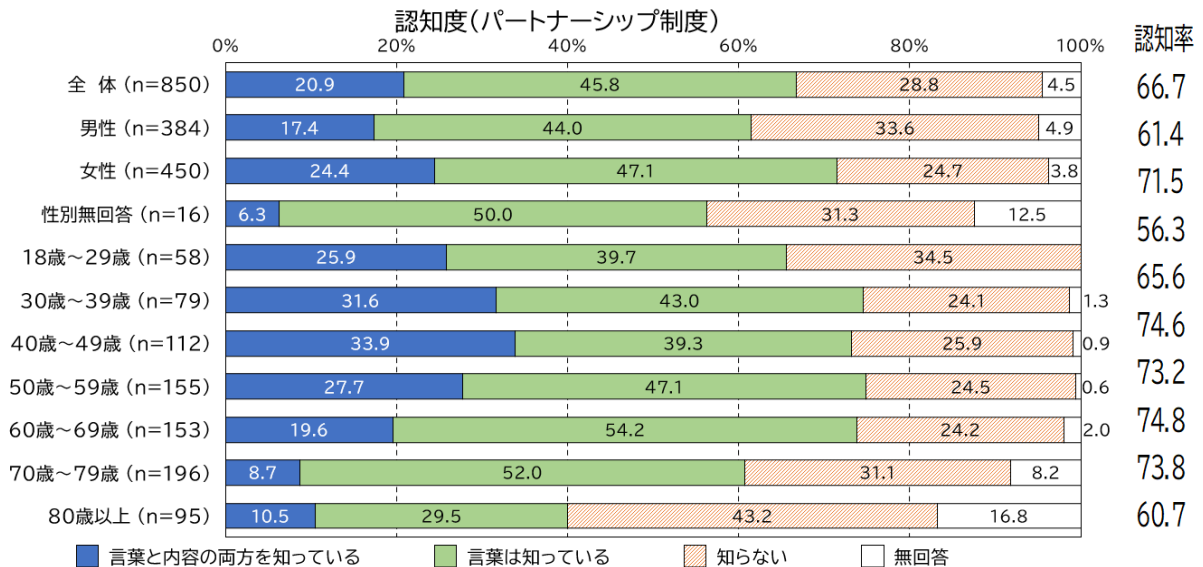
年齢別では、30 歳代の 31.7%が最も高かった。



(オ) パートナーシップ制度

全体では、認知率が6割を超えた。

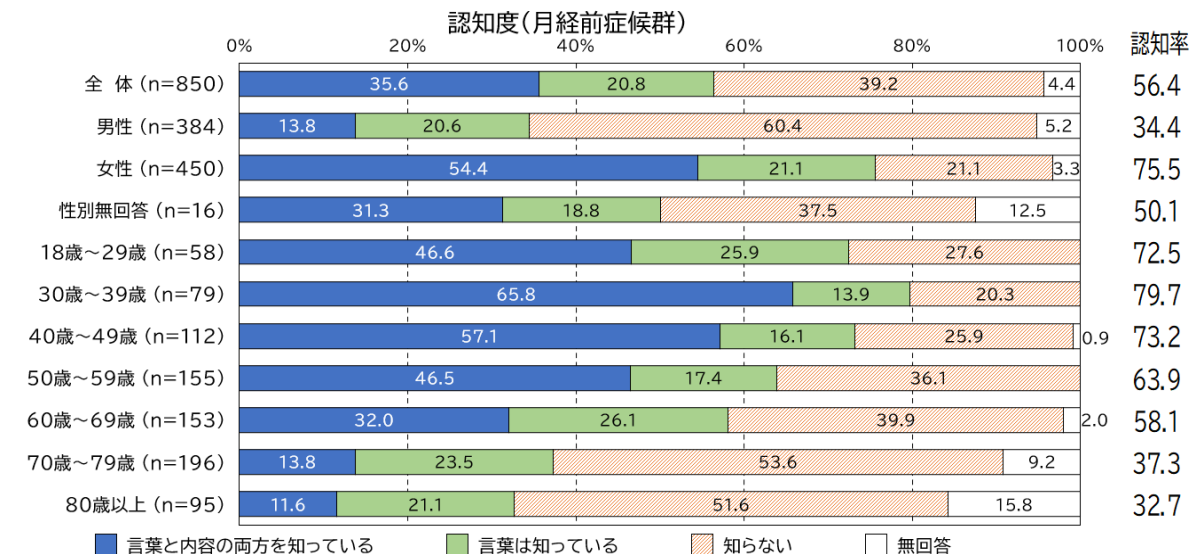
性別で見ると、男性より女性の認知率が高く、7割を超えており、年齢別では、全ての年代で認知率は60%以上となったが、「言葉と内容の両方を知っている」とした割合は、最も高い40歳代でも33.9%となった。



(カ) 月経前症候群(PMS)

全体の認知率は56.4%であったが、男女で認知率に差があり、男性の認知率33.4%は、女性の半分以下であった。

年齢別では、認知率が最も高いのは30歳代で、79.7%となった。

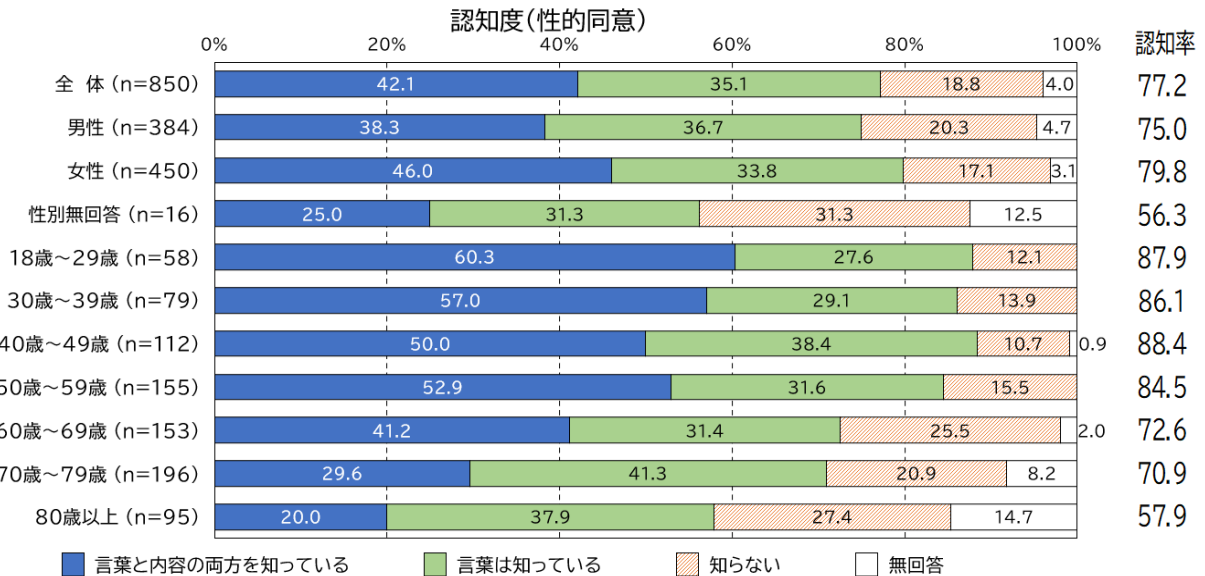


(キ) 性的同意

全体では、認知率は 7 割を超えた。

性別でみると、男性の認知率が 75.0%、女性は 79.8%であり、女性の認知率の方が高かった。

年齢別では、50 歳代以下の全ての年代で認知率が 80%以上となった。

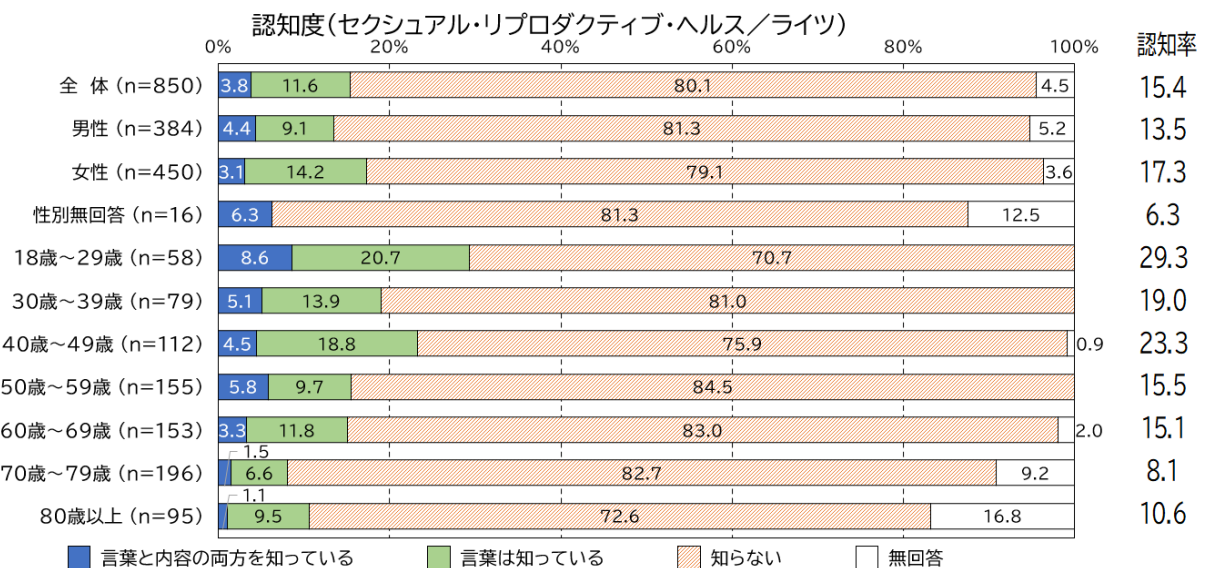


(ク) セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

全体の認知率は 15.4%にとどまり、「知らない」と回答した人が 8 割を超えた。

性別でみると、女性の認知率の方が男性に比べやや高いものの、2 割にとどかなかった。

年齢別では、29 歳以下の認知率が他の年代に比べ高いものの、全ての年代で「知らない」が 7 割を超えた。



(2) 回答者の経験

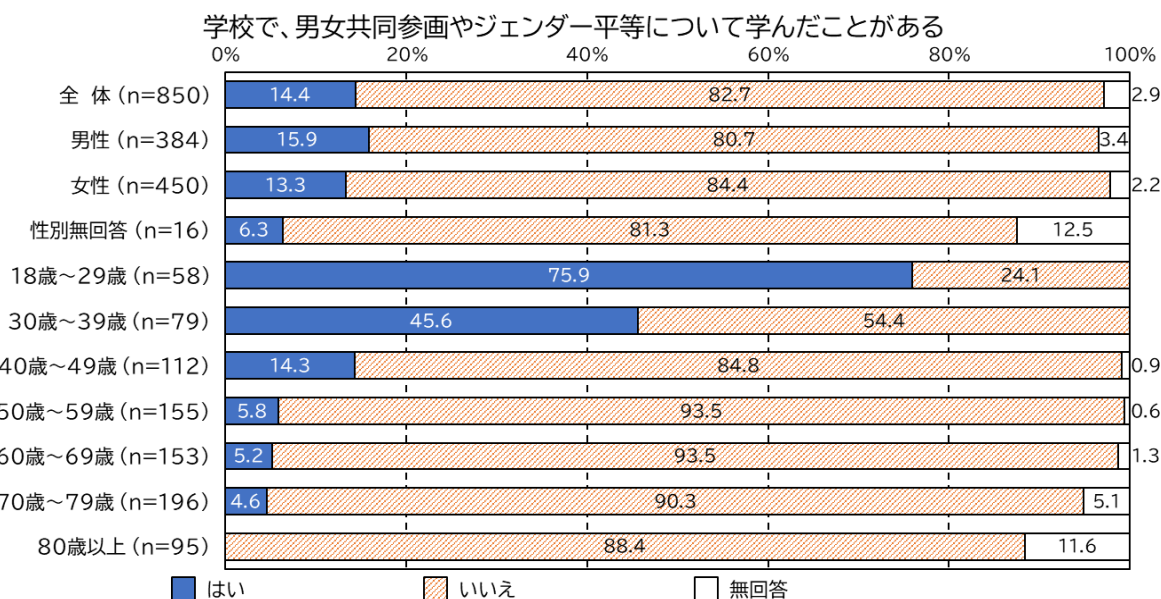
〔問 12〕 下記について、あなたの経験を教えてください。（それぞれ、あてはまる方に○）

(ア) 学校で、男女共同参画やジェンダー平等について学んだことがある

全体では、「はい」が 14.4%、「いいえ」が 82.7%となった。

男女別での回答に大きな違いはなかった。

年齢別では、「はい」が 29 歳以下で 75.9%と突出して高い割合で、次いで 30 歳代の 45.6%となった。

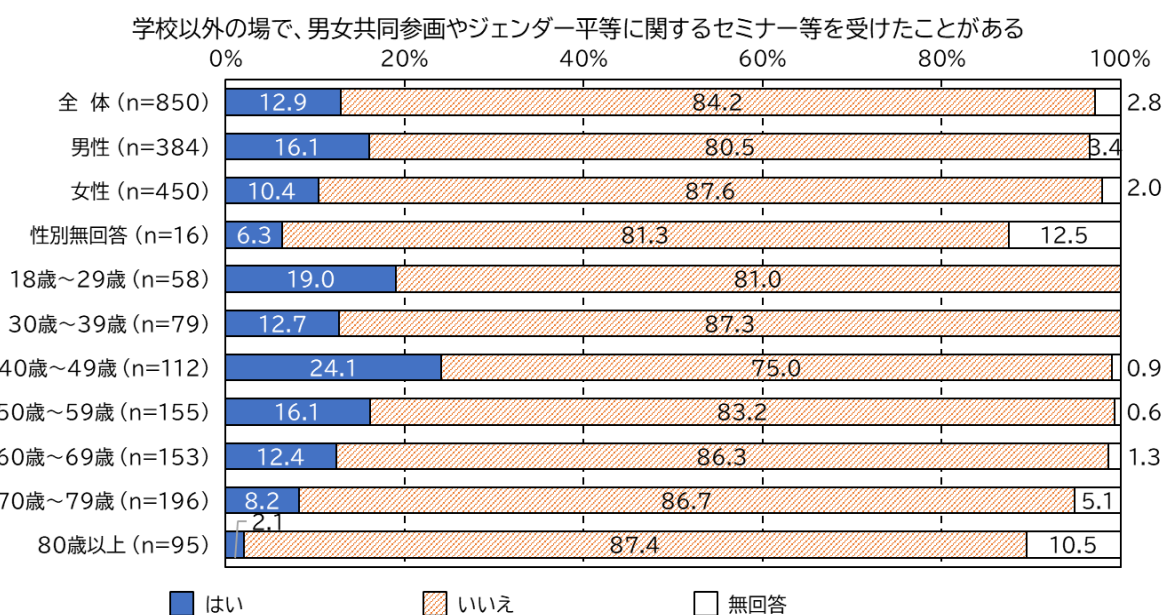


(イ) 学校以外の場合、男女共同参画やジェンダー平等に関するセミナー、研修等を受けたことがある

全体では、「はい」が 12.9%、「いいえ」が 84.2%となった。

性別でみると、「はい」が男性 16.1%、女性 10.4%で男性の方がやや受講傾向が高かった。

年齢別では、40 歳代が 24.1%で割合が最も高かった。

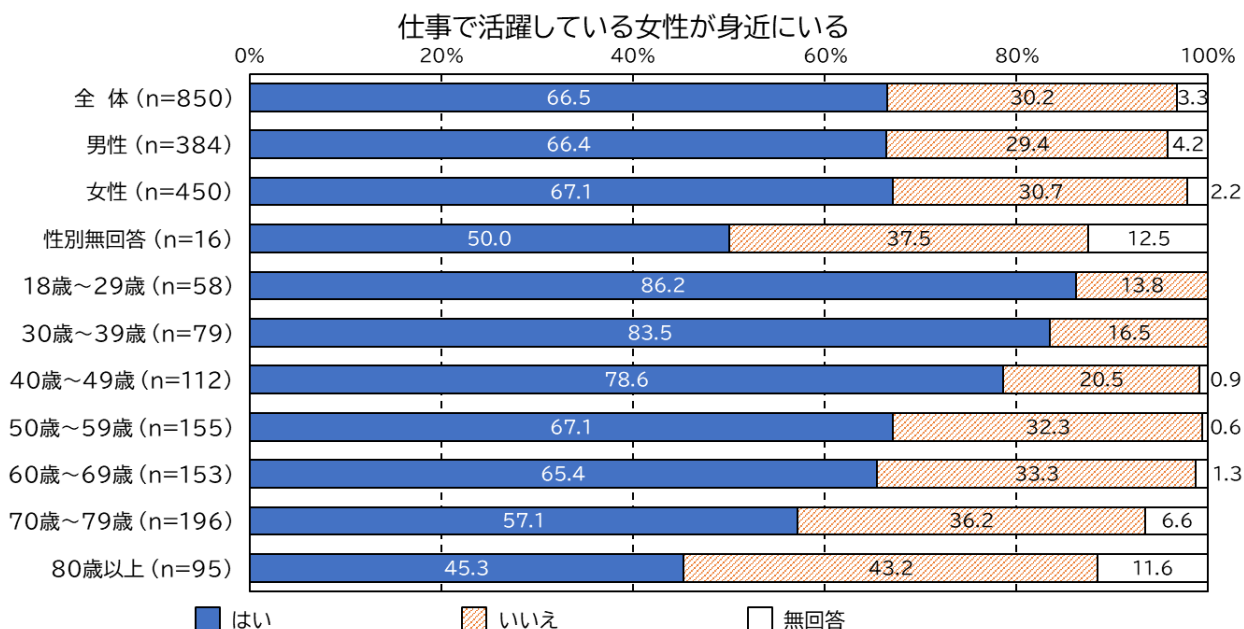


(ウ) 仕事で活躍している女性が身近にいる

全体では、「はい」が66.5%、「いいえ」が30.2%となった。

男女別での回答に大きな違いはなかった。

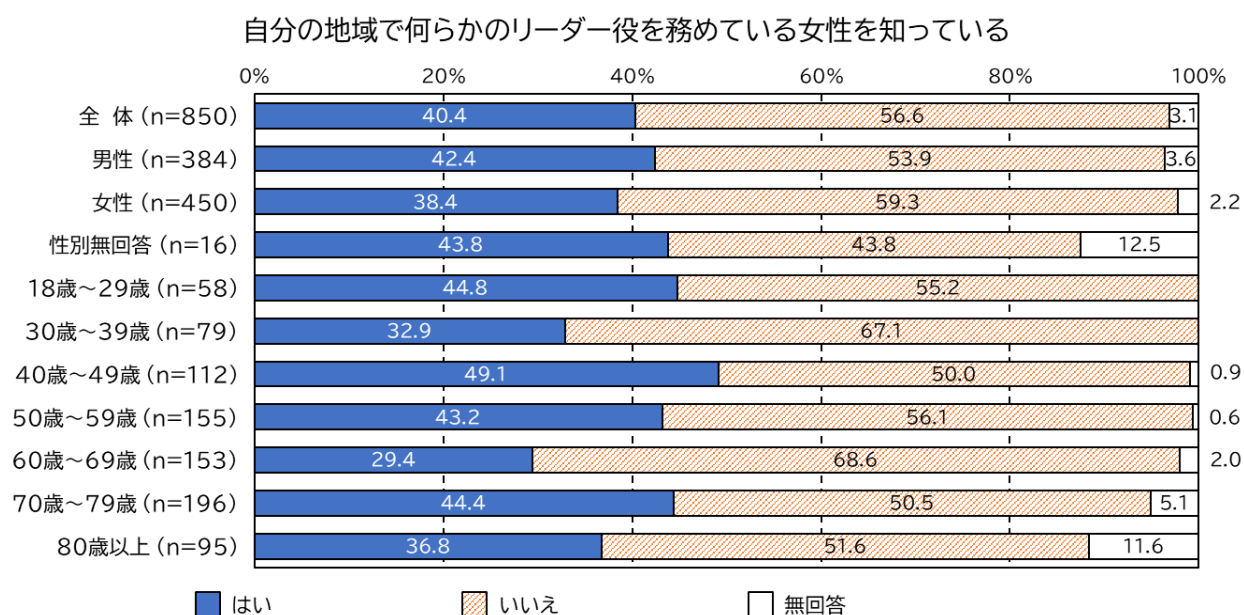
年齢別では、29歳以下で「はい」が86.2%と最も多く、年代が上がるにつれ「はい」と回答した人の割合が減少した。



(エ) 自分の地域で何らかのリーダー役を務めている女性を知っている

全体では、「はい」が40.4%、「いいえ」が56.6%となった。性別で見ると、「はい」が男性 42.4%となった。

年齢別では、「いいえ」が全ての年代で 50%以上となり、特に 30 歳代、60 歳代で「いいえ」と回答した人が 7 割近い結果となった。

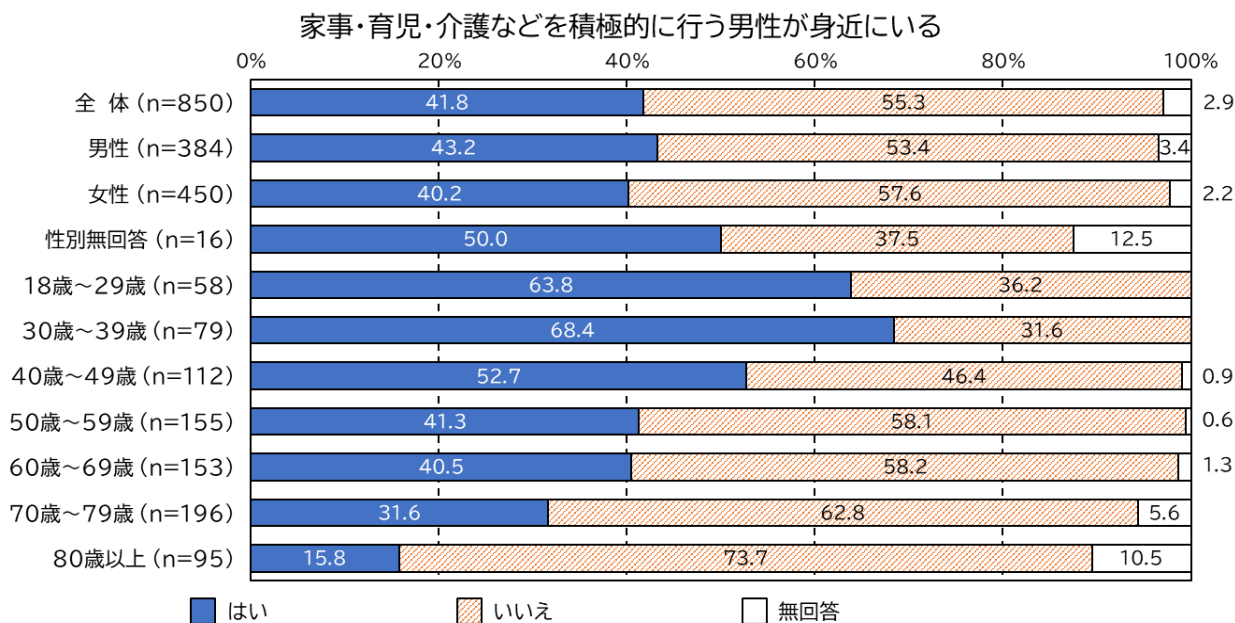


(オ) 家事・育児・介護などを積極的に行う男性が身近にいる

全体では、「はい」が41.8%、「いいえ」が55.3%となった。

性別でみると、「はい」が男性43.2%、女性40.2%となった。

年齢別では、30歳代で「はい」が68.4%と最も多かった。

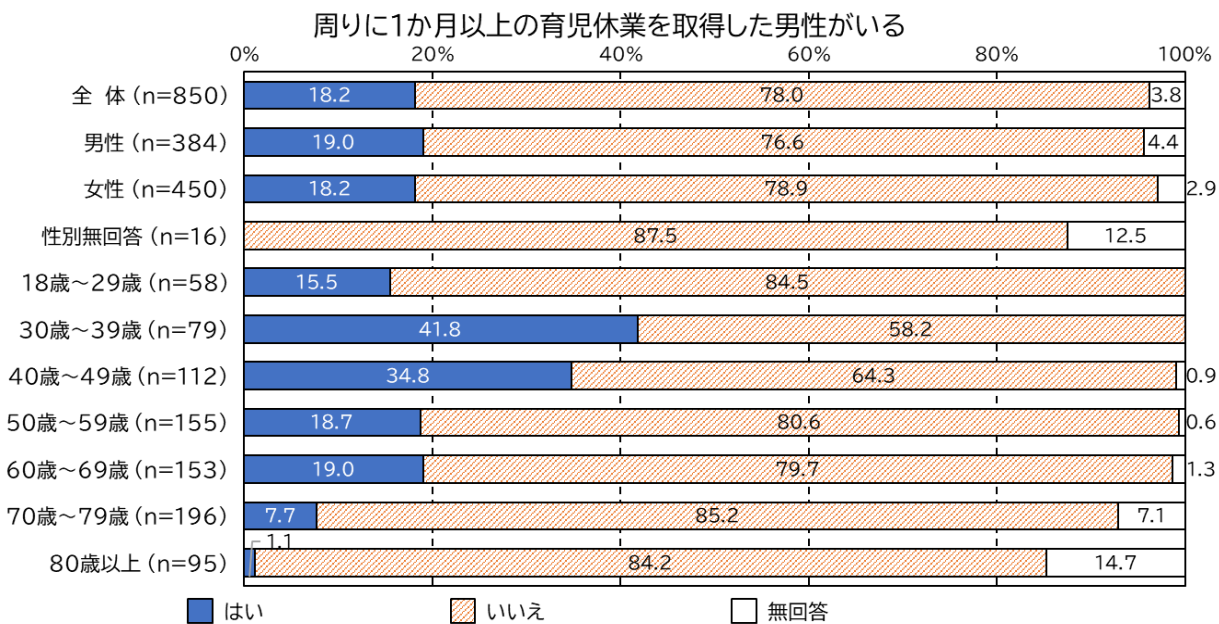


(カ) 周りに1か月以上の育児休業を取得した男性がいる

全体では、「はい」が18.2%、「いいえ」が78.0%となった。

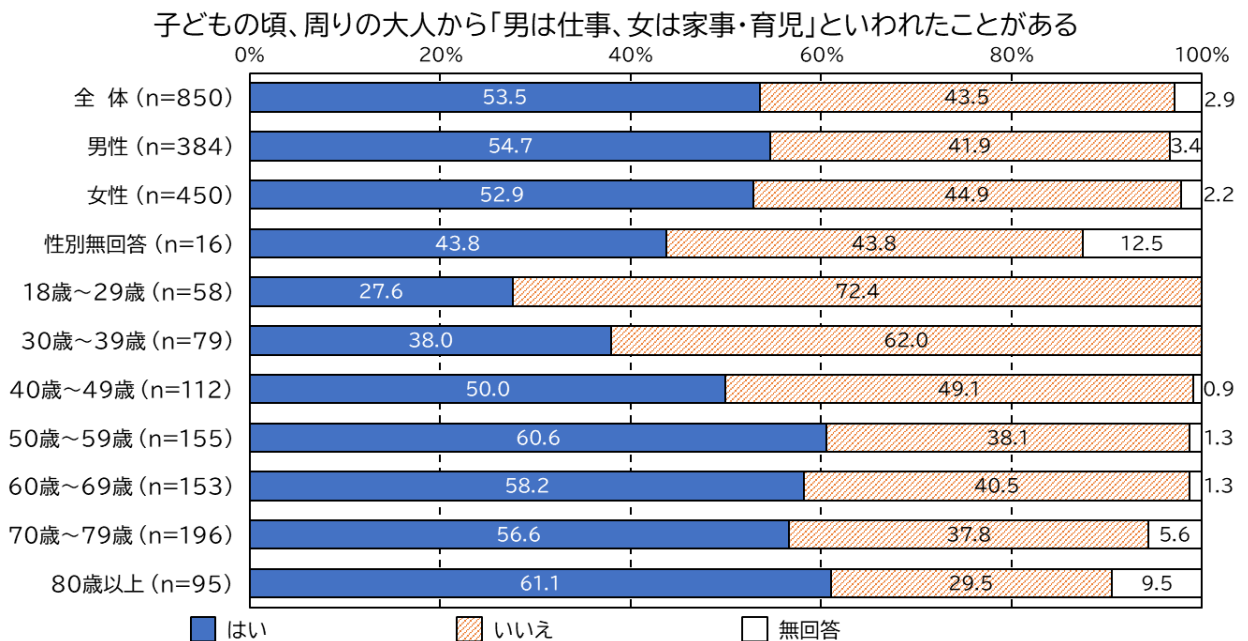
男女別での回答に大きな違いはなかった。

年齢別では、30歳代で「はい」が41.8%と最も多かった。



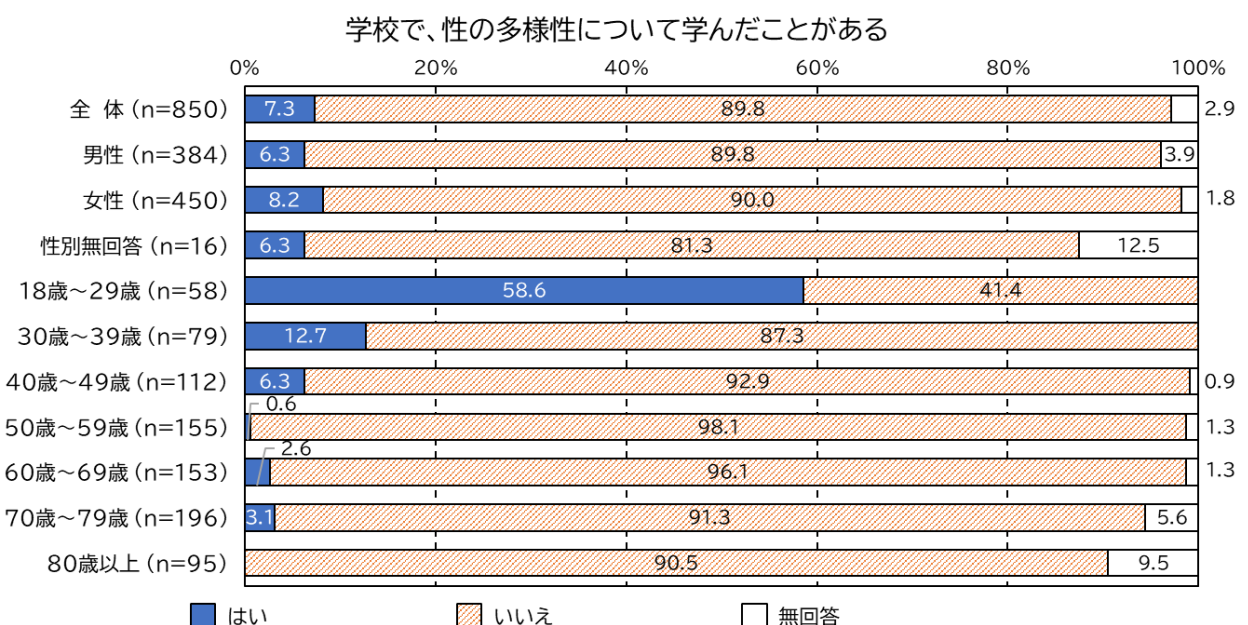
(キ) 子どもの頃、親や教師など周りの大人から「男は仕事、女は家事・育児」というようなことを言われたことがある

全体では、「はい」が 53.5%、「いいえ」が 43.5%となった。男女別での回答に大きな違いはなかった。年齢別では、「はい」(言われたことがある)が 29 歳以下で 3 割程度だった一方、50 歳代以上は全ての年代で 6 割程度の人が「はい」と回答している。



(ク) 学校で、性の多様性(LGBTQ など)について学んだことがある

全体では、「はい」が 7.3%と 1 割に満たなかった。男女別では、女性 8.2%で男性よりもやや多いものの、大きな違いはなかった。年齢別では、「はい」が29歳以下で 58.6%となり、他の年代との経験の差が大きくなった。

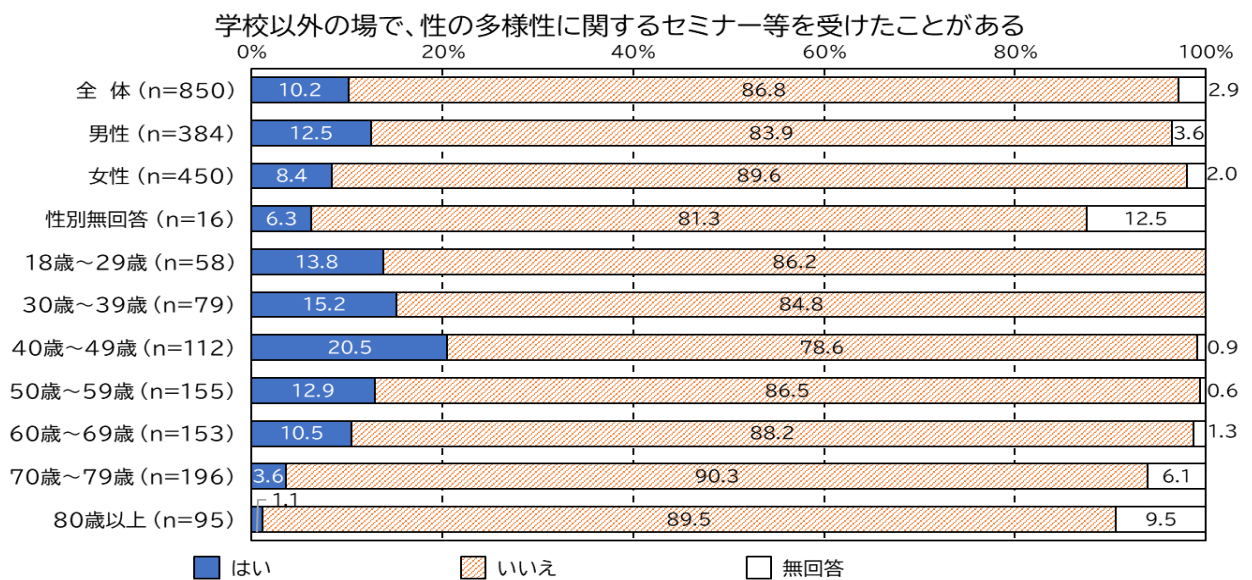


(ケ) 学校以外で、性の多様性(LGBTQ など)に関するセミナー、研修を受けたことがある

全体では、「はい」が10.2%、「いいえ」が86.8%となった。

性別で見ると、「はい」が男性12.5%、女性8.4%で男性の方がやや受講傾向が高かった。

全体的に(イ)の男女共同参画やジェンダー平等に関するセミナー、研修等の受講経験と同じ回答傾向となったが、本設問の性の多様性に関するセミナー、研修の受講経験の方が「はい」(受講したことがある)と回答した人の割合は低かった。



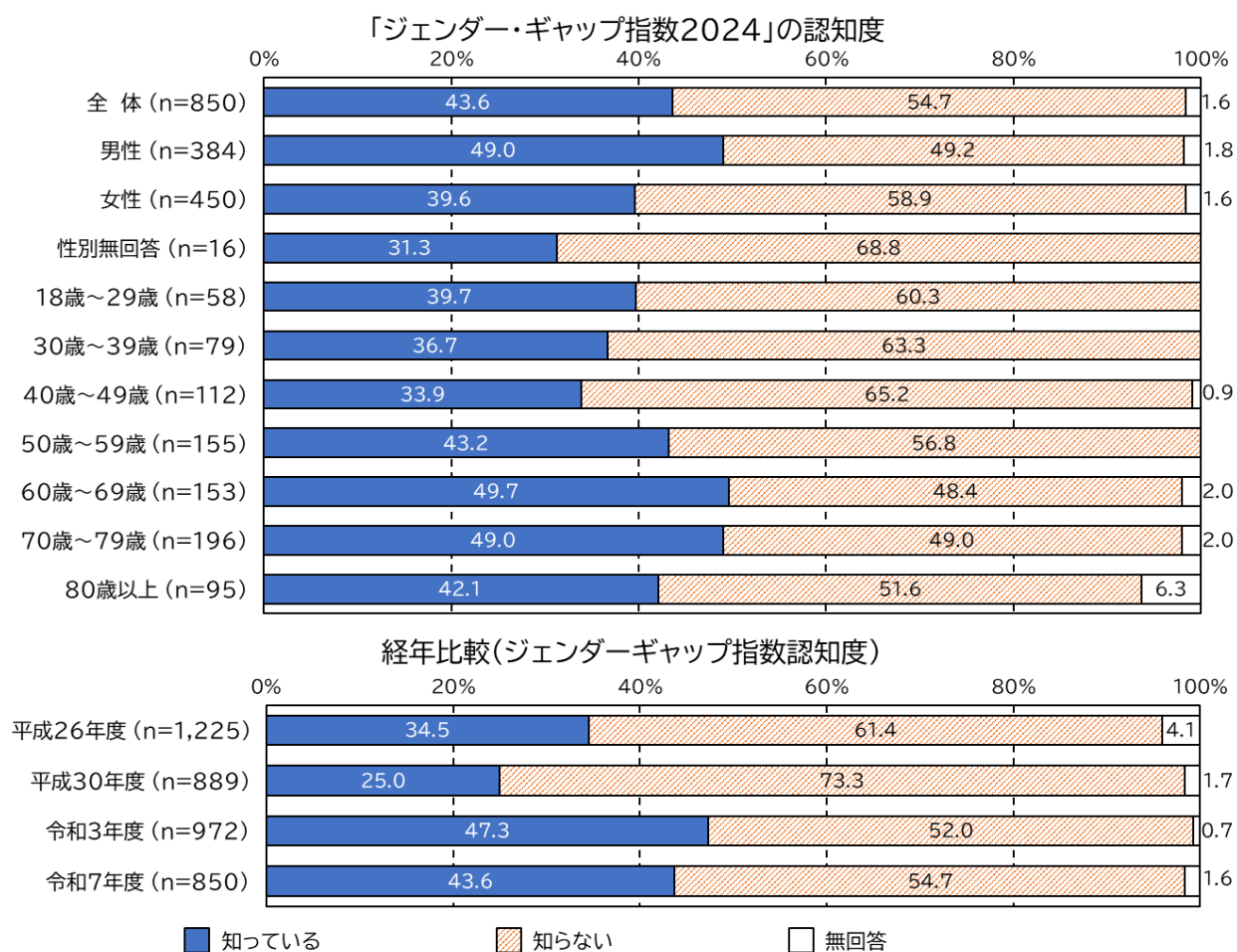
(3)「ジェンダー・ギャップ指数2024」の認知度

〔問 13〕あなたは、世界経済フォーラムが、社会における男女格差の大きさを国別に比較した「ジェンダー・ギャップ指数 2024」で、日本が世界 146 カ国中の 118 位（主要 7 か国中最下位）であったことを知っていますか（格差が少ないほど順位が高くなります）。（○は1つ）

全体では、「知らない」が 54.7%となり、「知っている」の 43.6%を上回った。

男女別では、男性の「知っている」割合が 49.0%で、女性の割合を 10 ポイント程度上回った。

年齢別では、60 歳代の認知率が 49.7%と最も高く、一方、40 歳代の認知率は 33.9%と最も低い。



(注)平成 30 年度以前の調査ではジェンダー・ギャップ指数そのものを知っているか聞いた(令和 3 年度は今回の調査と同様に日本の順位についての認知を聞いた)。

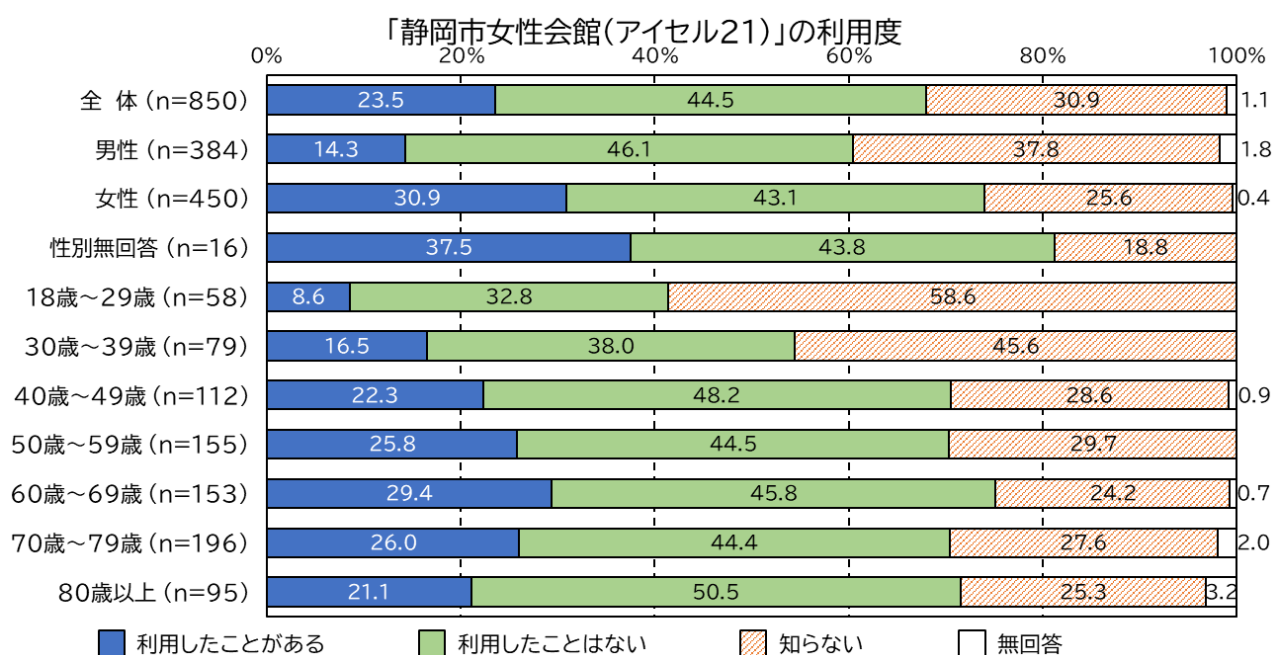
(4) 静岡市の男女共同参画推進の拠点施設「静岡市女性会館(アイセル21)」の利用

〔問 14〕 静岡市の男女共同参画推進の拠点施設「静岡市女性会館（アイセル 21）」（葵区東草深町）を利用したことがありますか。（○は1つ）

全体では、「利用したことがある」が 23.5%、「利用したことはない」が 44.5%、「知らない」が 30.9%となった。

性別で見ると、「利用したことがある」男性は 14.3%にとどまり、女性の約半数となった。

年齢別では、60 歳代で利用したことがある人が最も多く、一方、29 歳以下の人では、利用したことがある人は、1 割以下で最も少なかった。



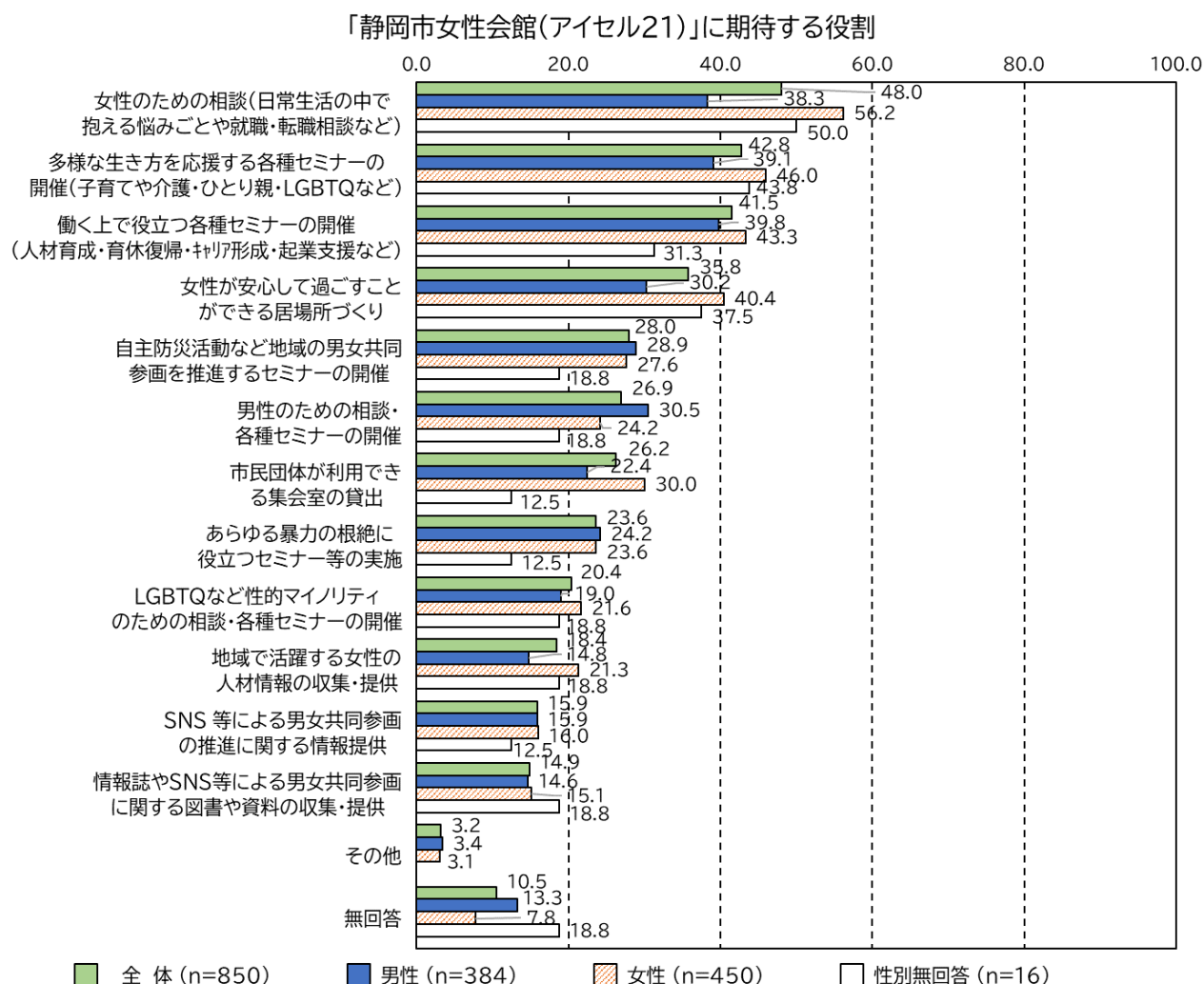
(5)「静岡市女性会館(アイセル21)」に期待する役割

〔問 15〕 あなたは「静岡市女性会館（アイセル 21）」に、どのような役割を期待しますか。
 (○はいくつでも)

全体では、「女性のための相談」が 48.0%、「多様な生き方を応援する各種セミナーの開催」が 42.8%、「働く上で役立つセミナーの開催」が 41.5%と上位となった。

男女別では、男性が最も期待する役割は「働く上で役立つセミナーの開催」(39.8%)で、女性は「女性のための相談」(56.2%)を期待する割合が最も高かった。

「その他」の意見では、「高齢者になるとアイセル 21 まで出かけることが困難。その前の年代に、高齢者になった時のための勉強会は必要だと思う」「セミナーなどは時間のある人しか行けないので、そういったものは期待していない。直接的な支援が必要なのではないか」などがあつた。



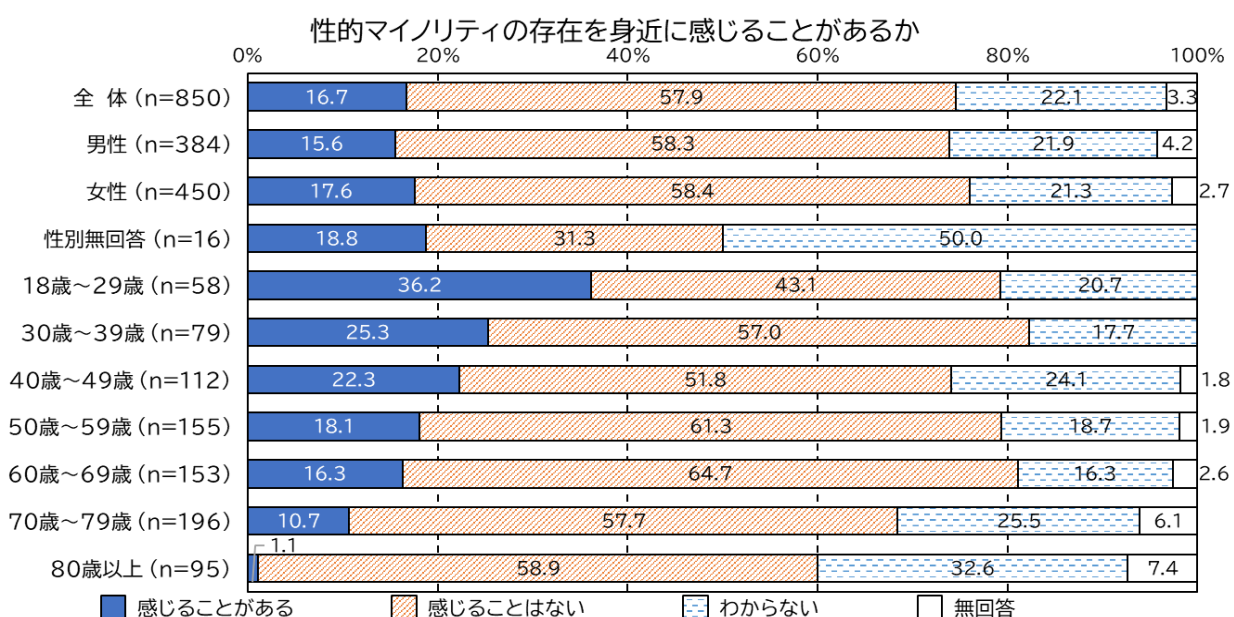
6. 性の多様性に関することについて

(1) 性的マイノリティの存在を身近に感じたことの有無

〔問 16〕 あなたはL G B T Qなどの性的マイノリティの存在を身近に感じるがありますか。
(○は1つ)

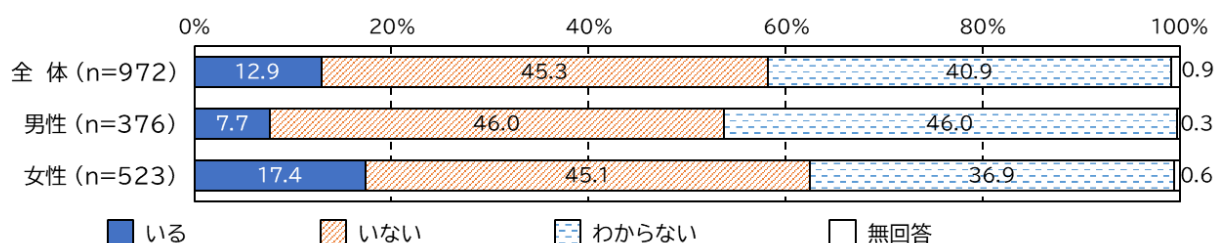
全体では、「感じることもある」が16.7%、「感じることはない」が57.9%となった。

男女別で回答に大きな違いはなかったが、年齢別では、29歳以下で「感じることもある」と回答した人が最も多かった。年代が上がるほど「感じることもある」人の割合は低くなる結果となった。



【参考】令和3年度調査

あなたの周りにL G B T Qなどの性的少数者の方はいますか。(○は1つ)

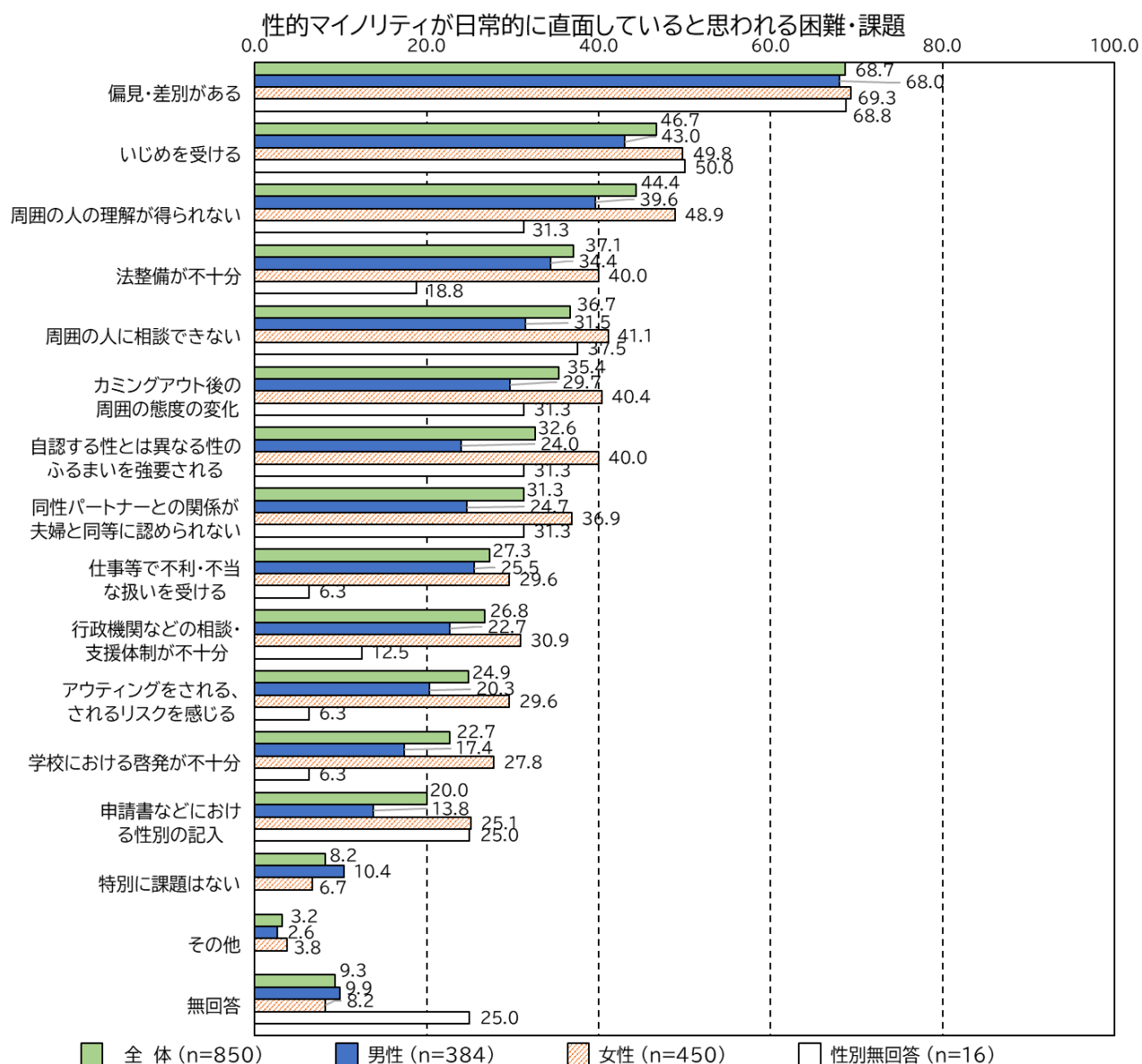


(2) 性的マイノリティが日常生活で直面している困難・課題だとと思われるもの

〔問 17〕 L G B T Qなどの性的マイノリティが日常生活で直面している困難・課題だとと思われるものを選んでください。（〇はいくつでも）

全体では、「偏見・差別がある」と回答した人が最も多く 68.7%、次いで「いじめを受ける」が 46.7%、「周囲に理解が得られない」が 44.4%で上位となった。

性別でみると、女性の方が男性に比べ、性的マイノリティが日常で直面している困難・課題の項目を選択する人が多かった。

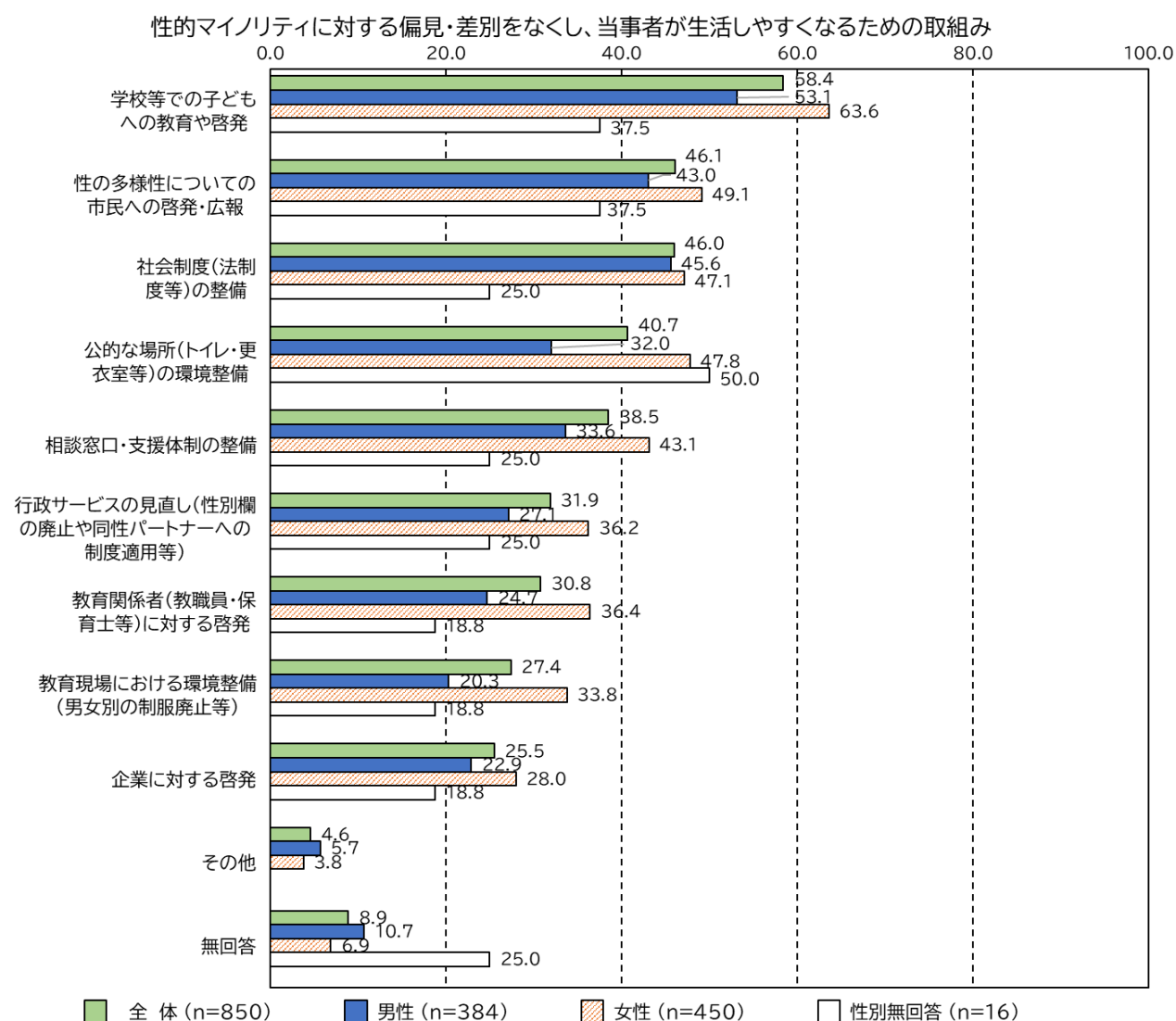


(3) 性的マイノリティに対する偏見や差別をなくし、生活しやすくなるために必要だと思う取組み

〔問 18〕 L G B T Qなどの性的マイノリティに対する偏見や差別をなくし、当事者が生活しやすくなるためにはどのような取組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

全体では、「学校等での子どもへの教育や啓発」と回答した人が最も多く 58.4%、次いで「性の多様性についての市民への啓発・広報」が46.1%、「社会制度(法制度等)の整備」が46.0%となった。

「その他」の意見では、「当事者との語らいの場やイベント」「公的な場所について、ジェンダーレス〇〇などのあからさまなものではなく、男女関係なく気軽に利用できるものであればいいと思う」などがあつた。



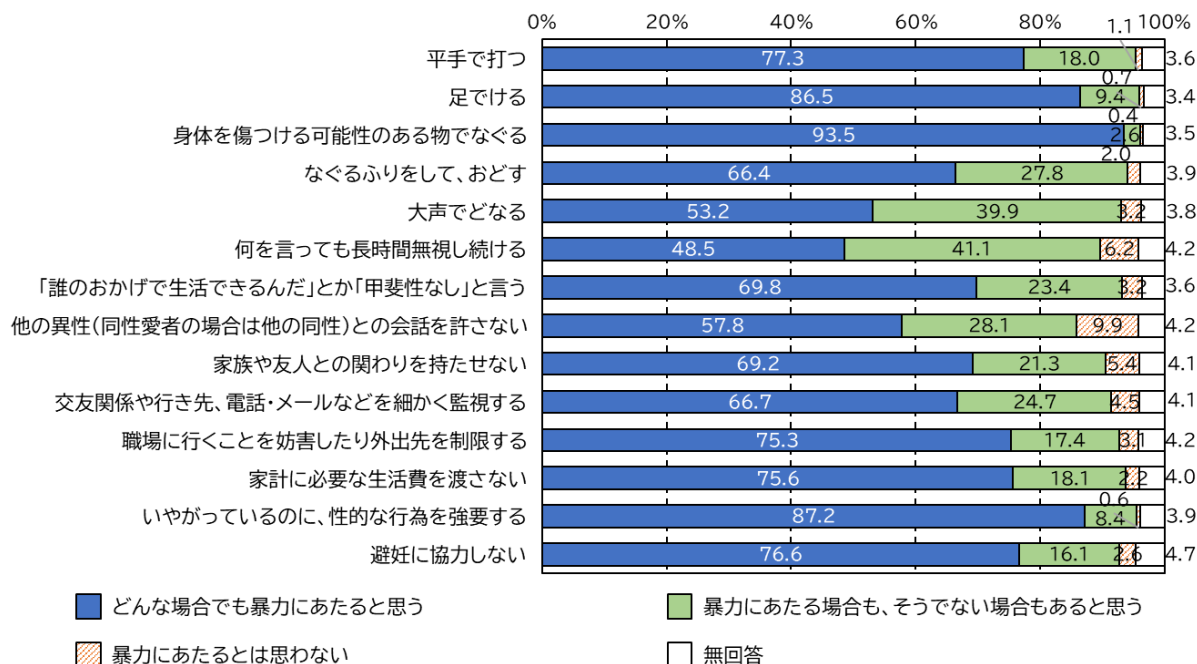
7. ドメスティック・バイオレンス(DV)に関することについて

(1) 次のようなことが配偶者間で行われた場合、暴力と思うか

〔問 19〕あなたは、次のようなことが配偶者間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものをお答えください。（項目ごとに○は1つずつ）

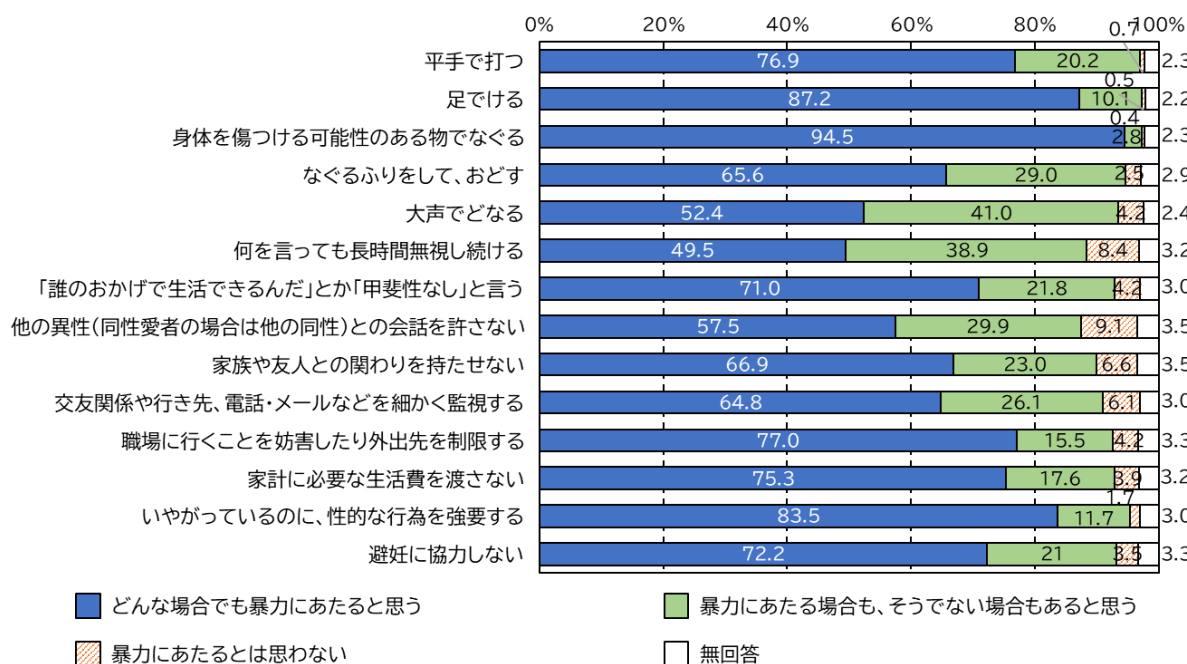
※〔問 19〕〔問 20〕での「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や同性パートナー、別居中の夫婦も含みます。

令和7年度(全体 n=850)



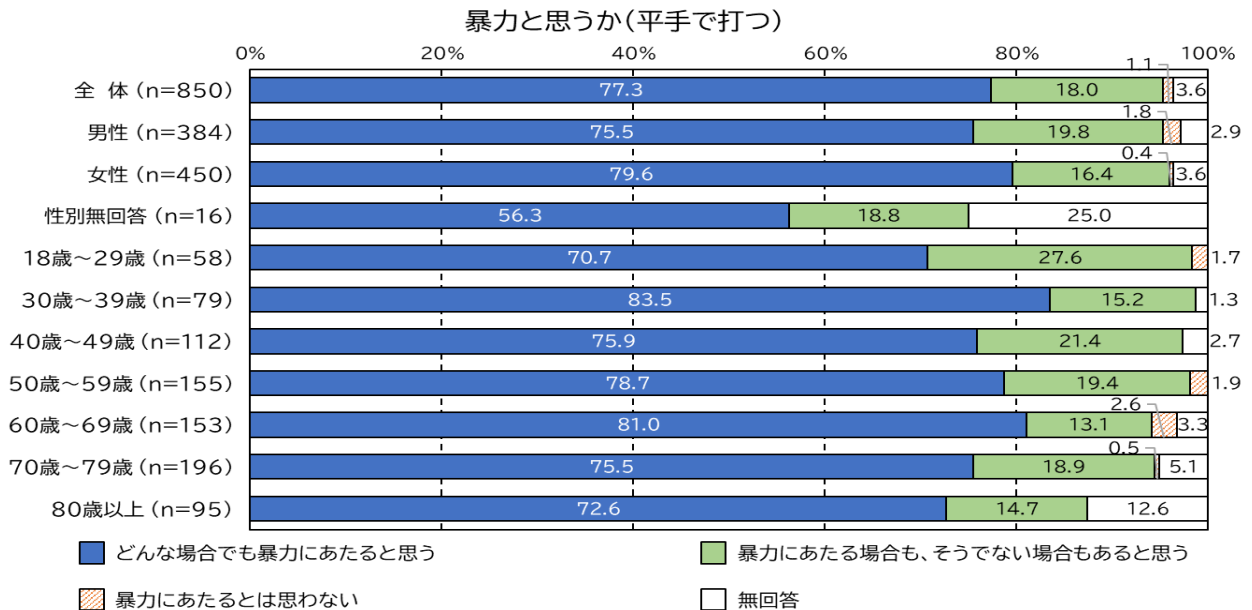
【参考】令和3年度調査

令和3年度(全体 n=972)



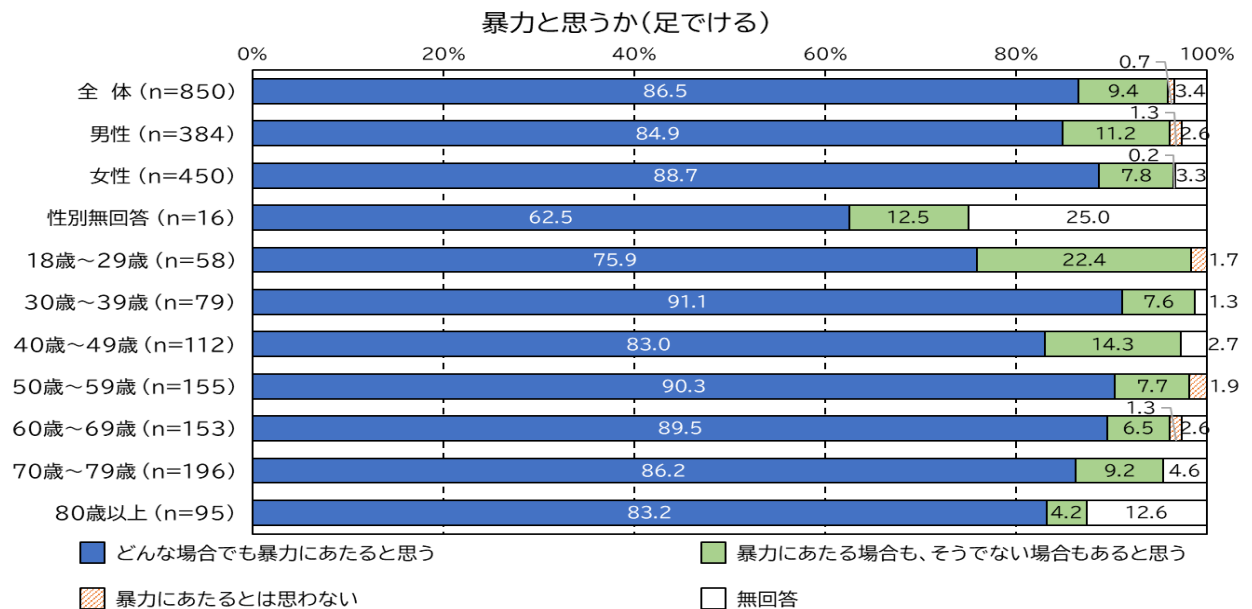
(ア) 平手で打つ

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が77.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が18.0%となった。



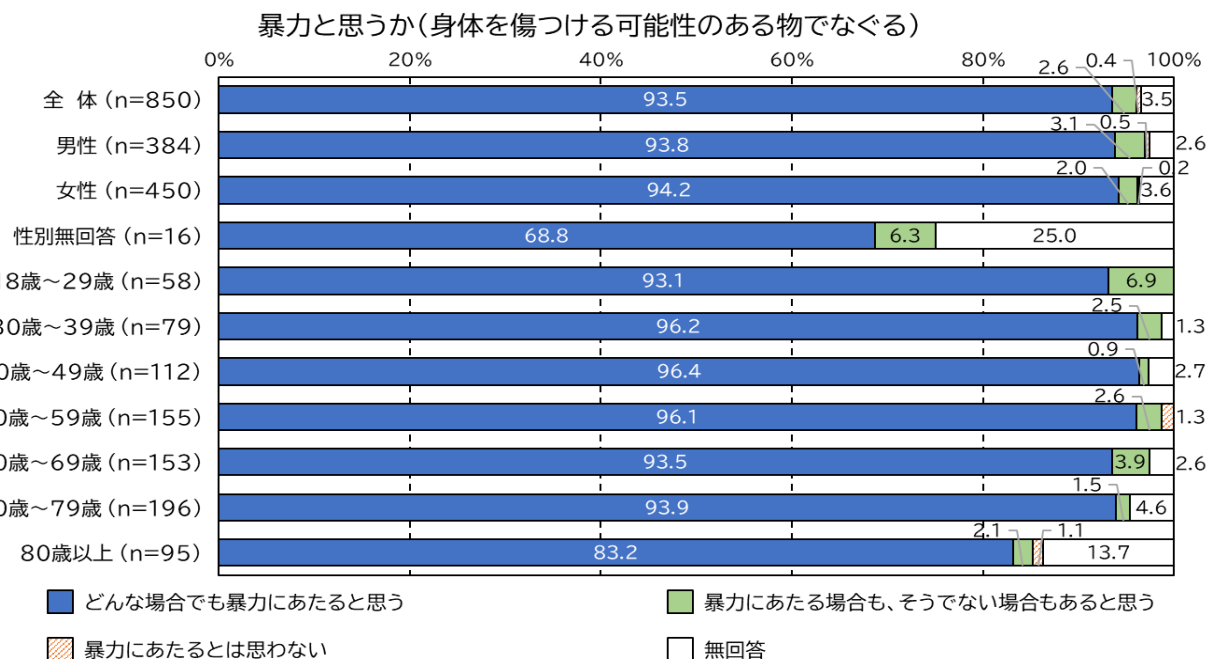
(イ) 足でける

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が86.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が9.4%となった。



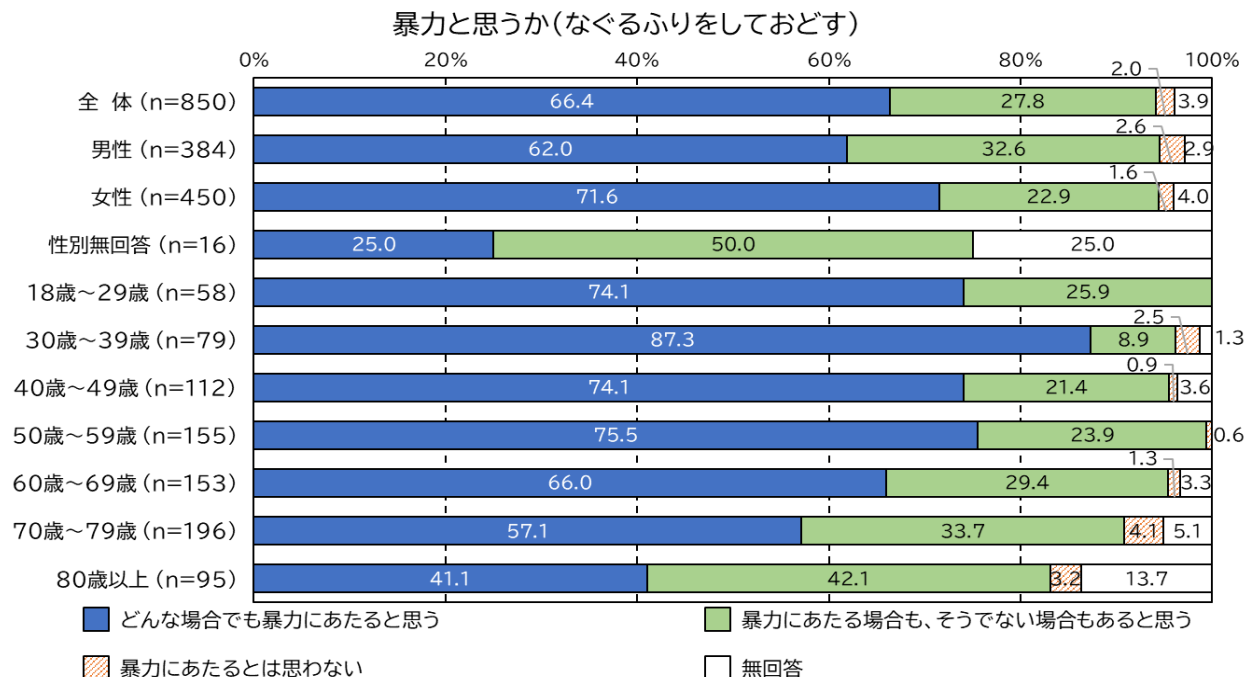
(ウ) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が93.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が2.6%となった。



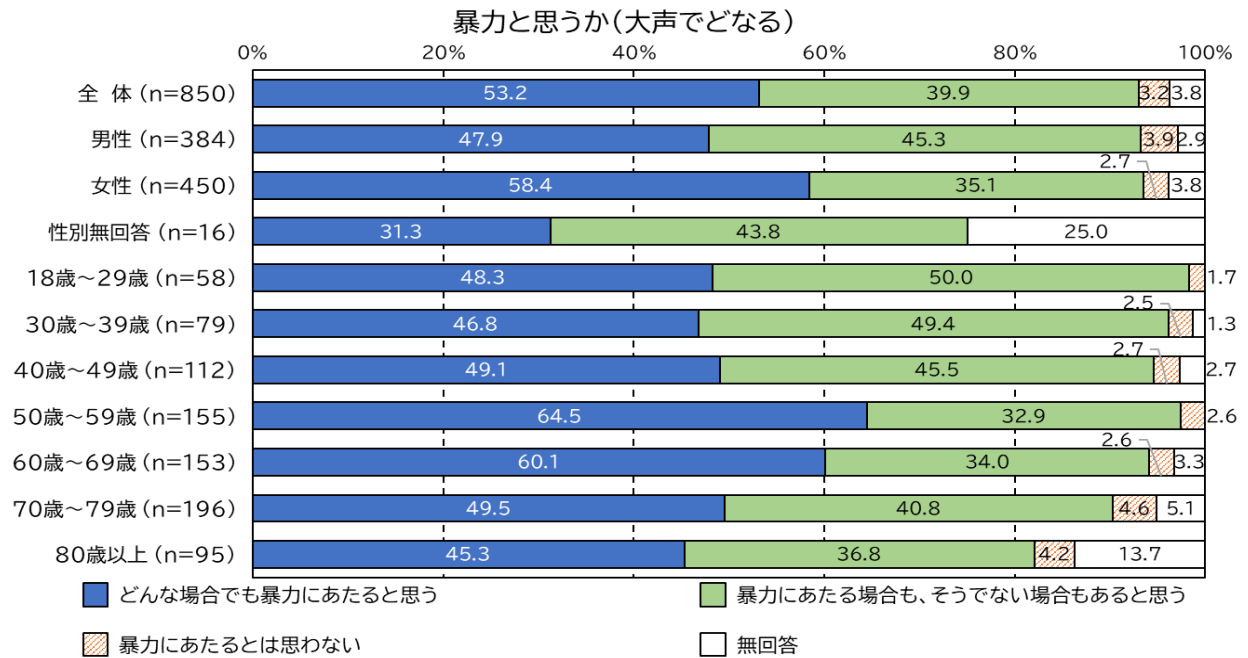
(エ) なぐるふりをして、おどす

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が66.4%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が27.8%となった。



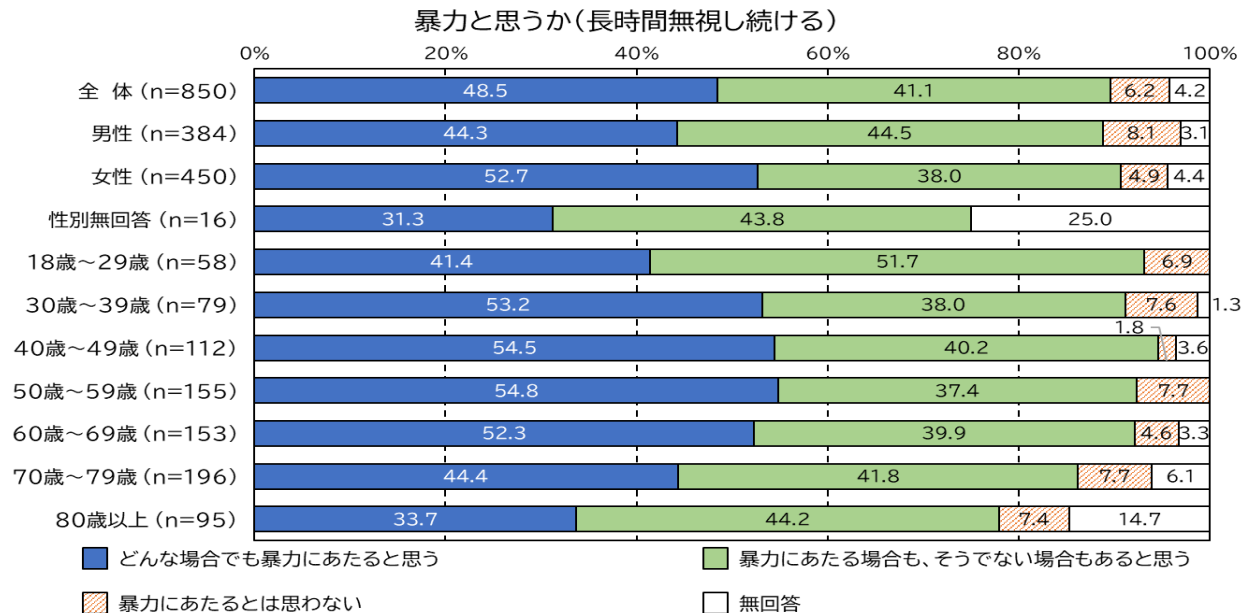
(オ) 大声でどなる

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が53.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が39.9%となった。



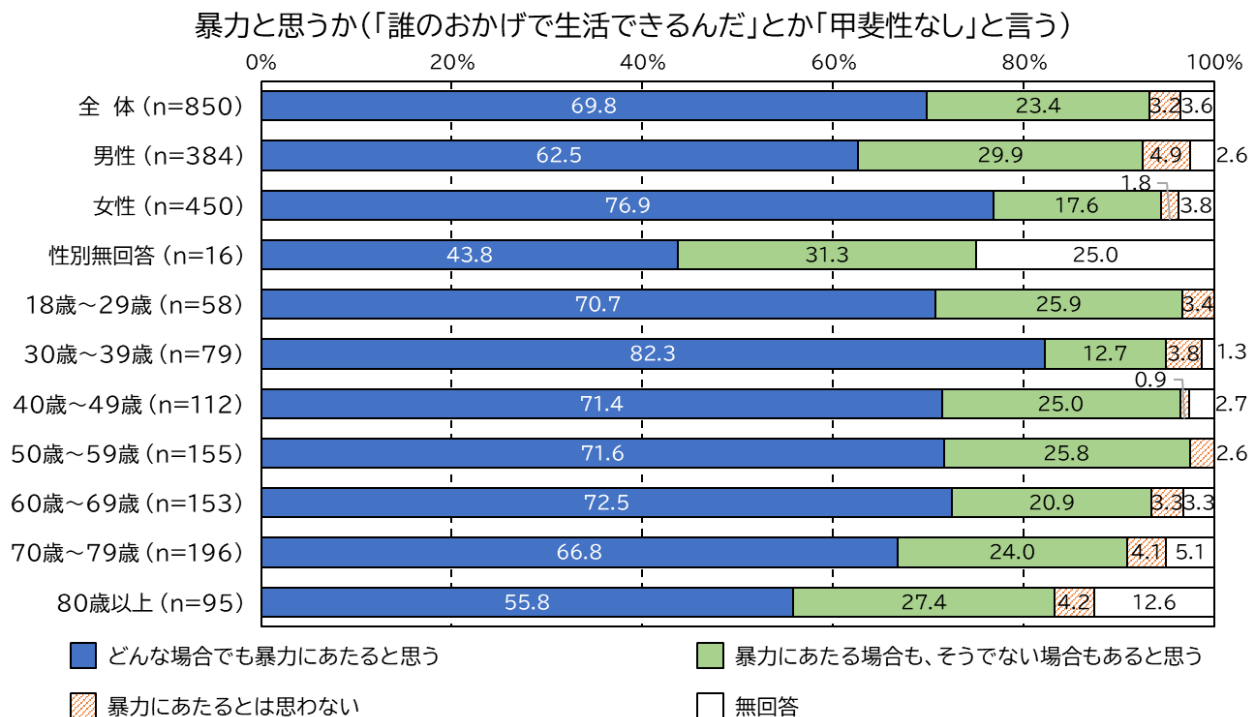
(カ) 何を言っても長時間無視し続ける

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が48.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が41.1%となった。



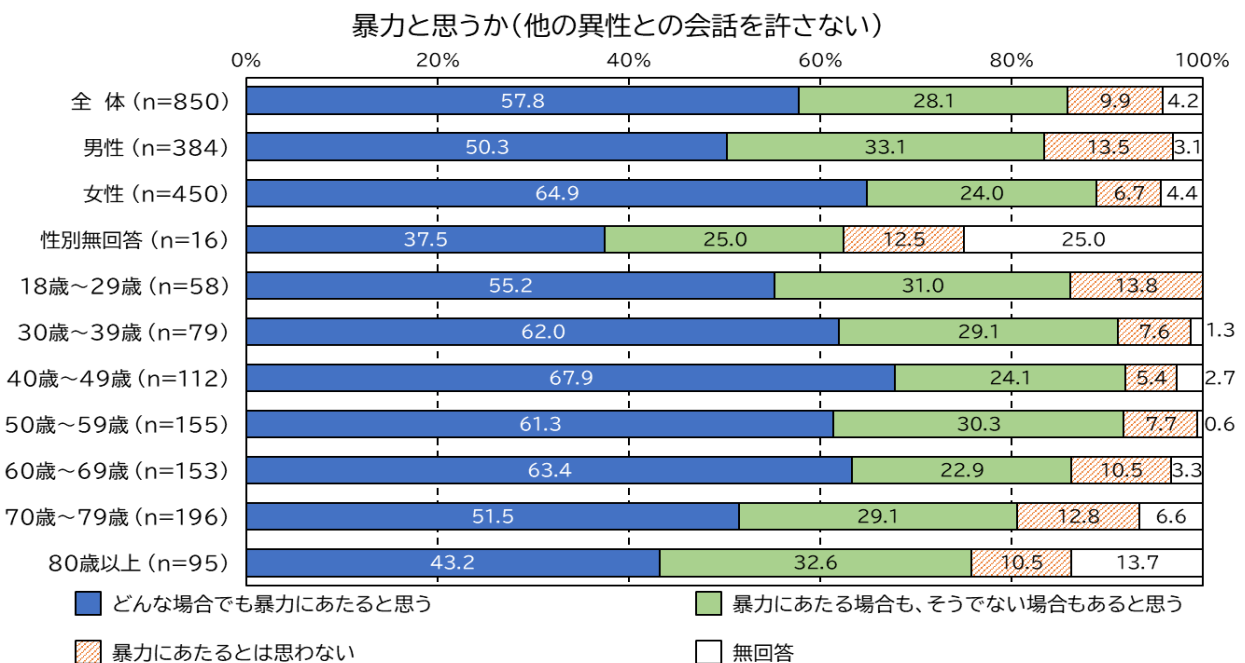
(キ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が69.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が23.4%となった。



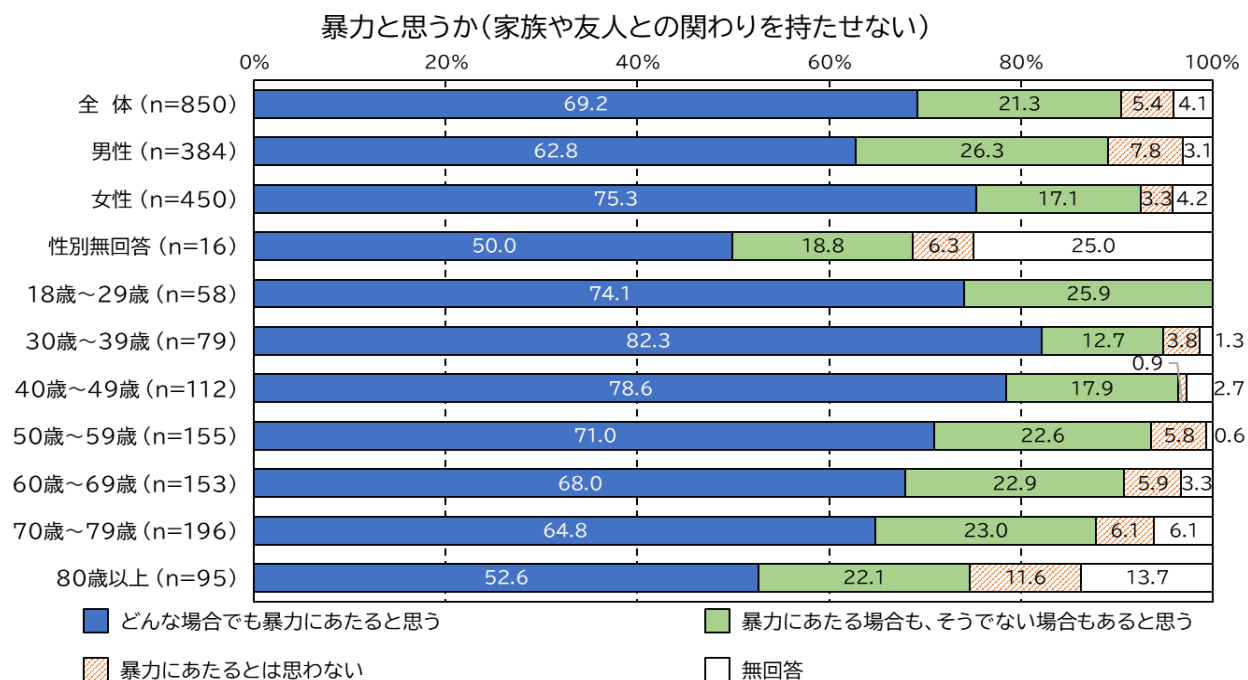
(ク) 他の異性(同性愛者の場合は他の同性)との会話を許さない

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が57.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が28.1%となった。



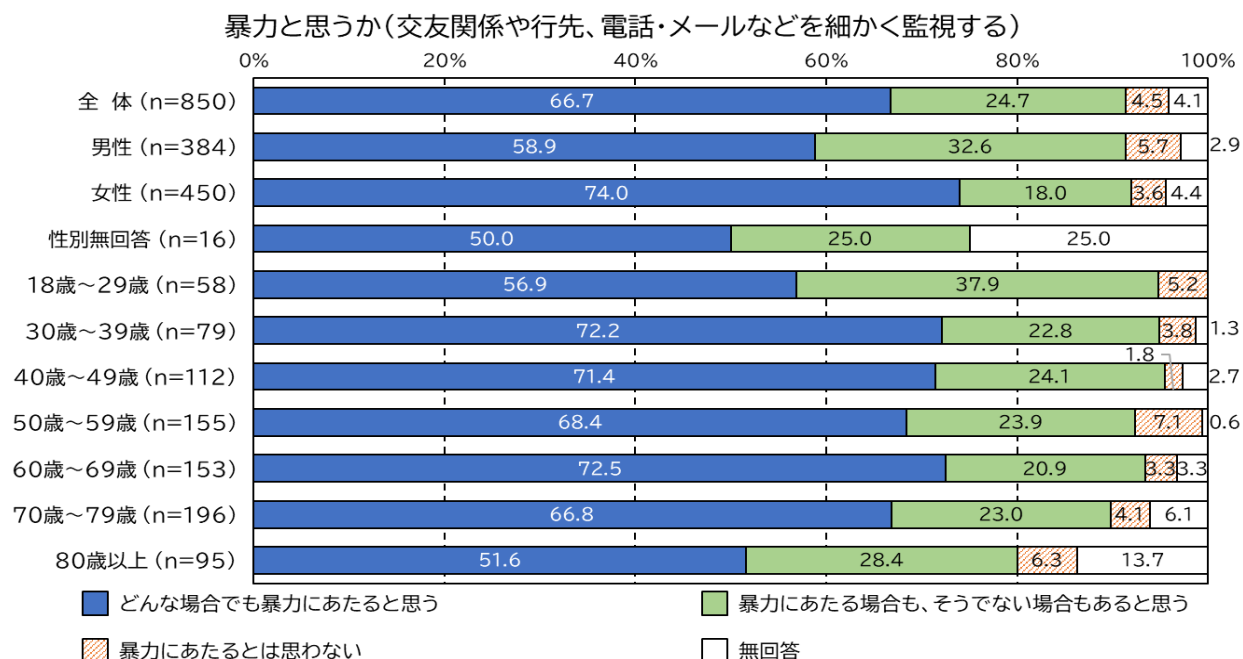
(ケ) 家族や友人との関わりを持たせない

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が69.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が21.3%となった。



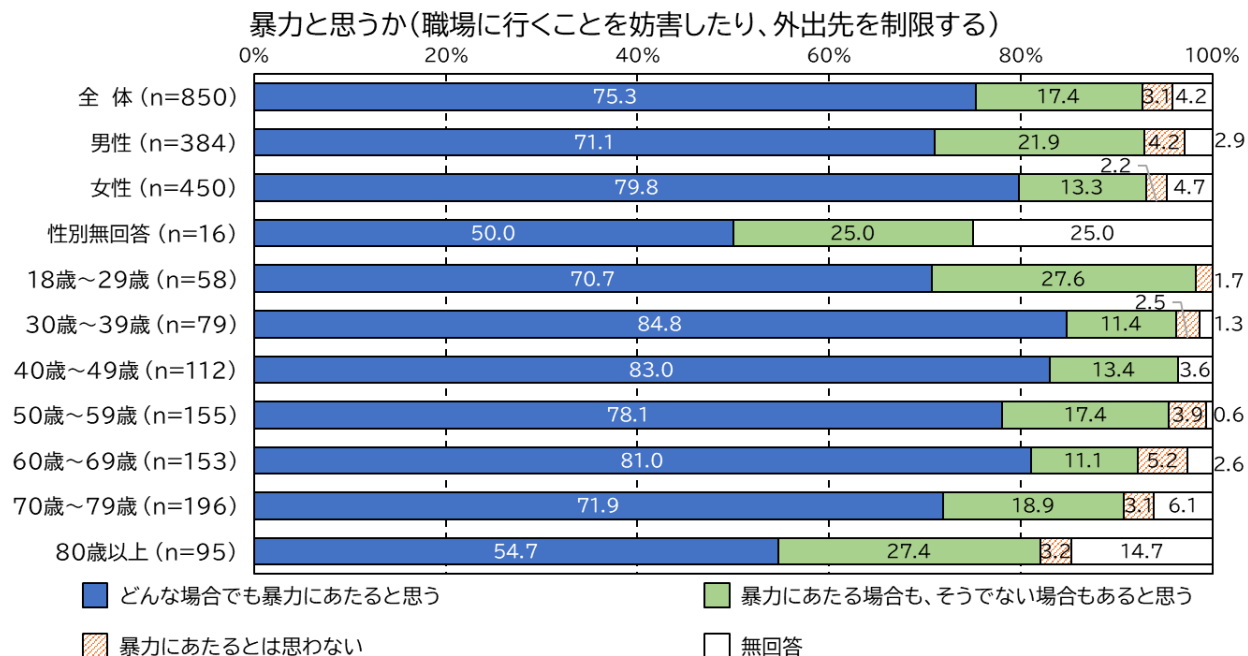
(コ) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が66.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が24.7%となった。



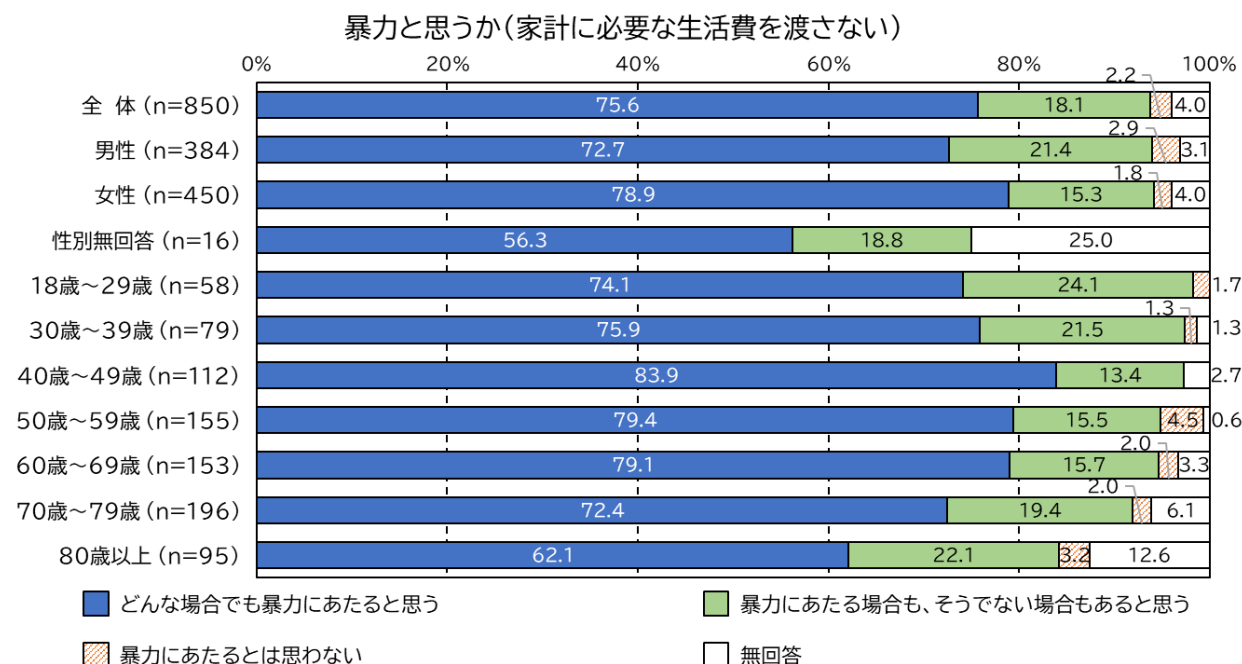
(サ) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が75.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が17.4%となった。



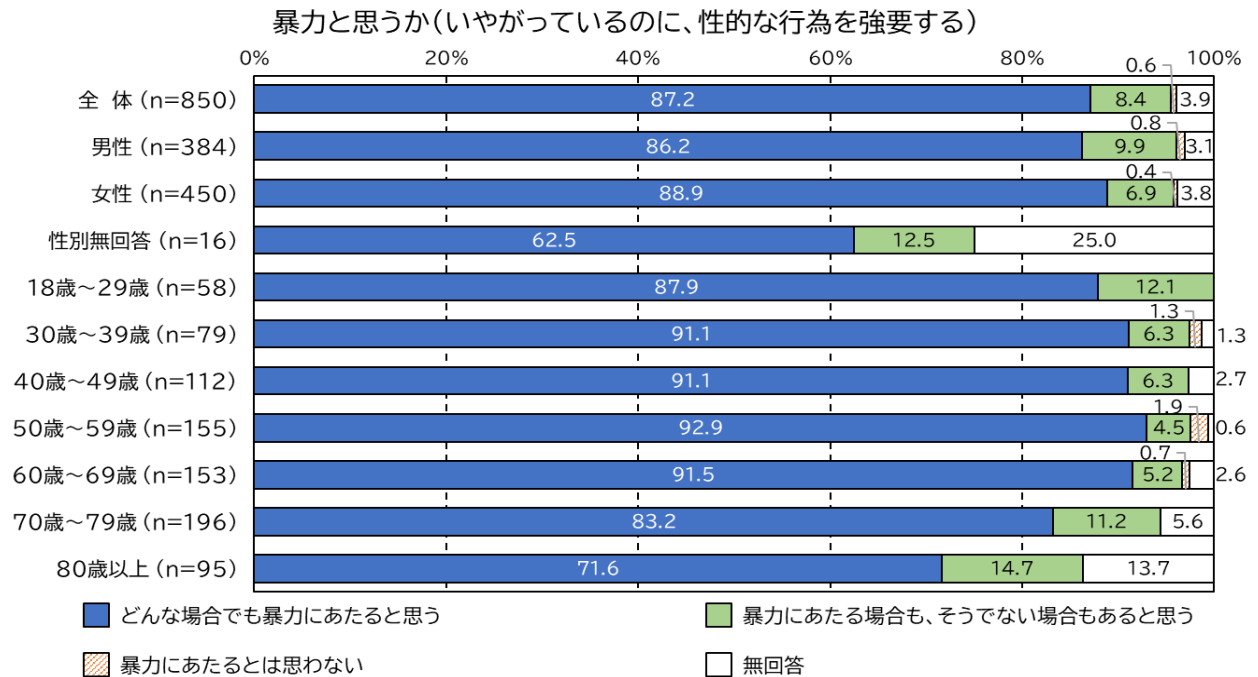
(シ) 家計に必要な生活費を渡さない

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が75.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が18.1%となった。



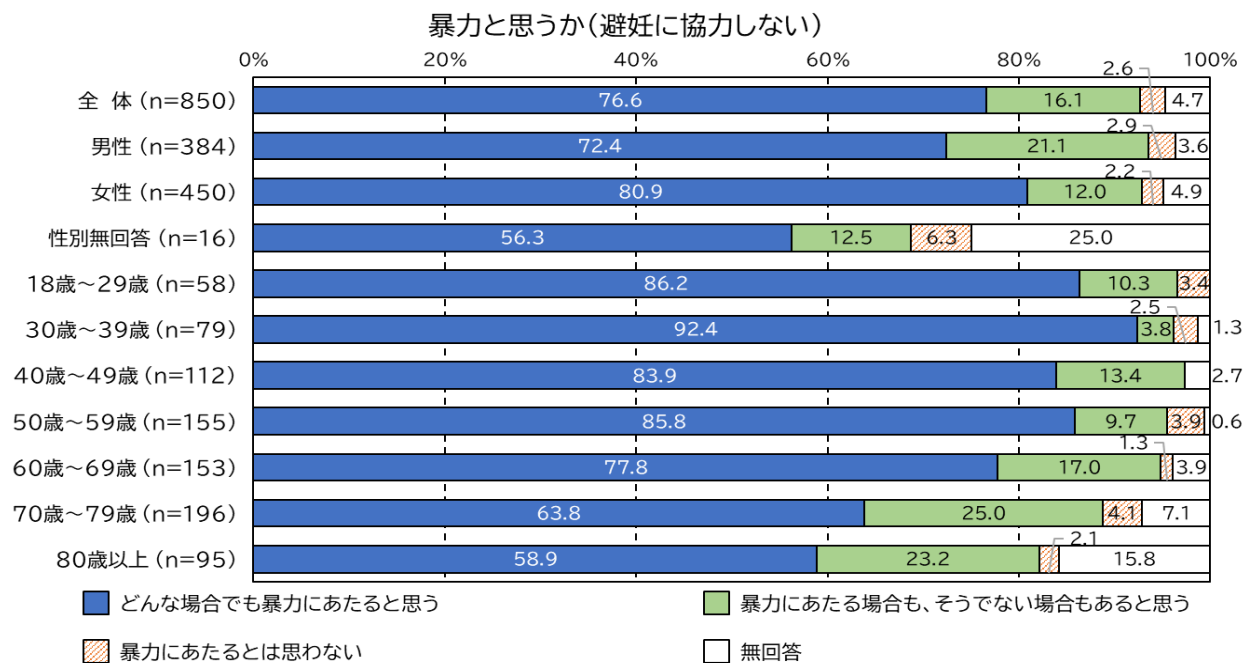
(ス) いやがっているのに、性的な行為を強要する

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が87.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が8.4%となった。



(セ) 避妊に協力しない

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が76.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が16.1%となった。

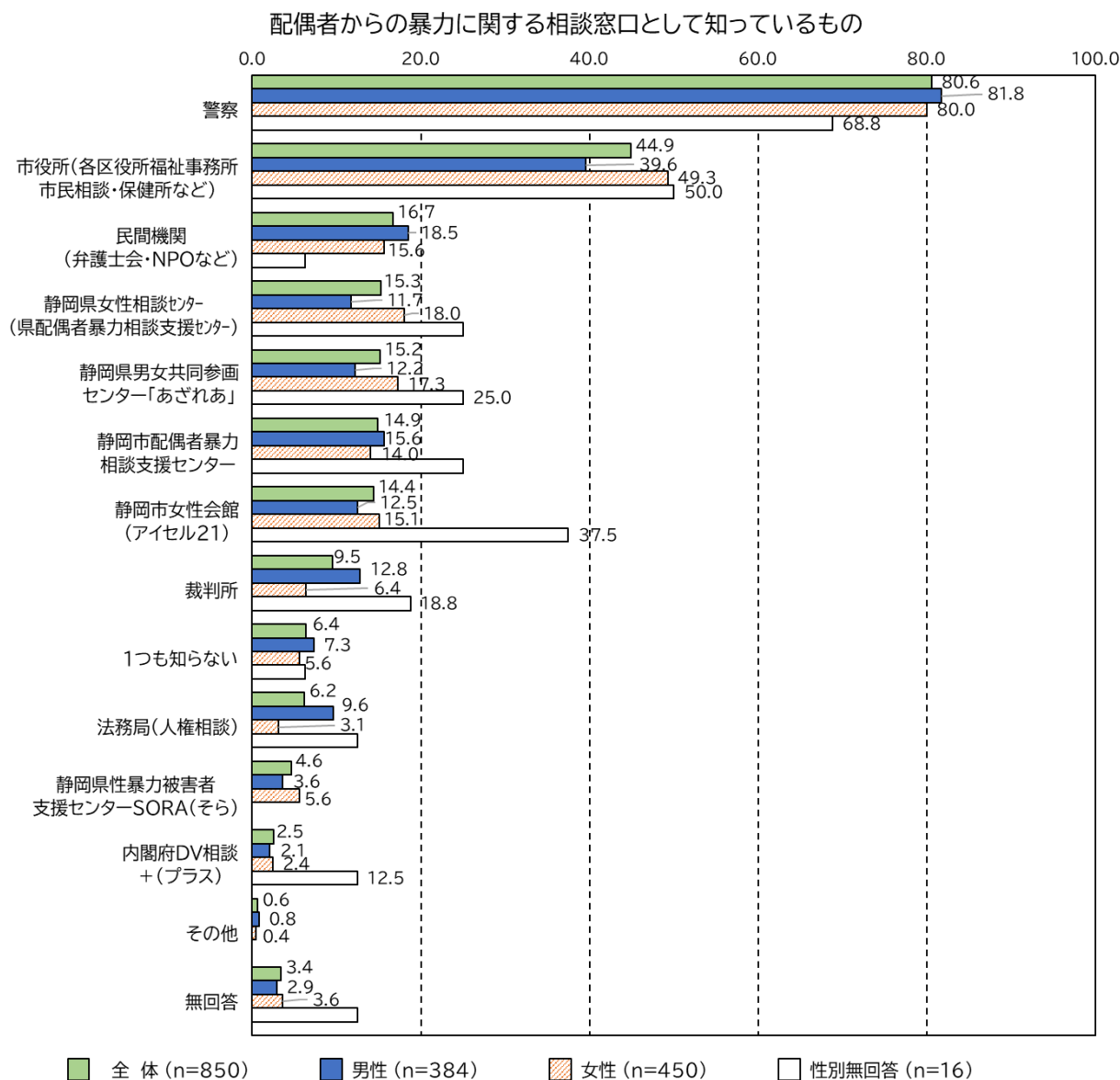


(2) 配偶者からの暴力に関する相談窓口として知っているもの

〔問 20〕 配偶者からの暴力に関する相談窓口として知っているものを教えてください。
(〇はいくつでも)

全体では、「警察」と回答した人が 80.6%と最も多く、次いで「市役所(各区役所福祉事務所・市民相談・保健所など)」が 44.9%、「民間機関(弁護士会・NPO など)」が 16.7%となった。

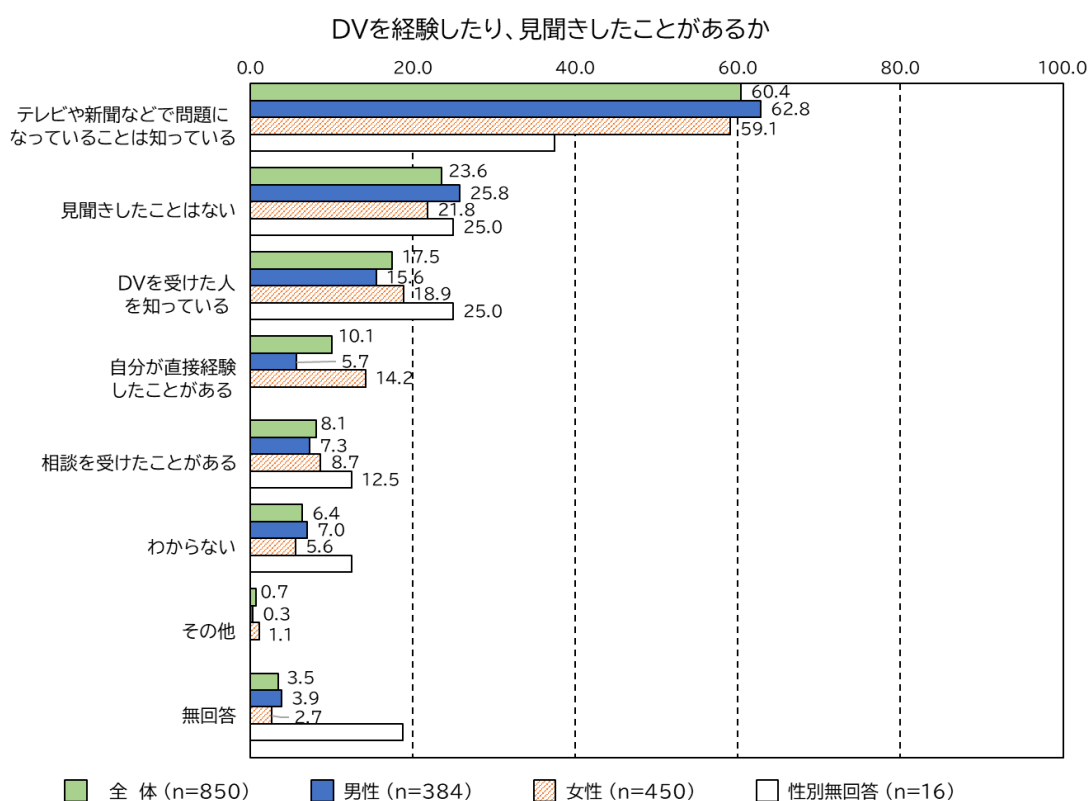
「1 つも知らない」という回答は、全体で 6.4%、男女別では、男性 7.3%、女性 5.6%となった。



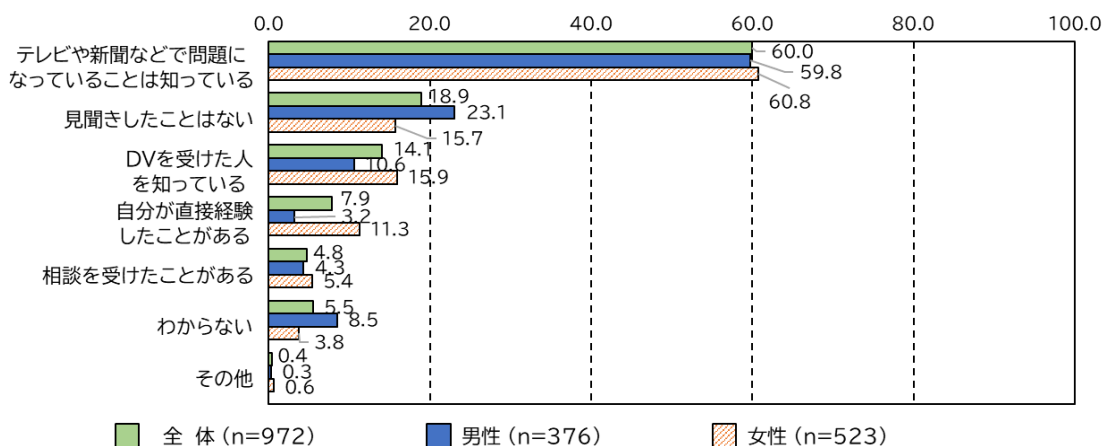
(3)「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について、経験や見聞きしたことの有無

【問 21-1】あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人々からの暴力、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、経験したり、見聞きしたりしたことはありますか。（〇はいくつでも）

全体では、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」と回答した人が60.4%と最も多く、次いで「見聞きしたことはない」が23.6%、「DVを受けた人を知っている」が17.5%となった。
また「自分が直接経験したことがある」と回答した人は、全体では10.1%で、男女別では、男性5.7%、女性14.2%となった。



【参考】令和3年度調査

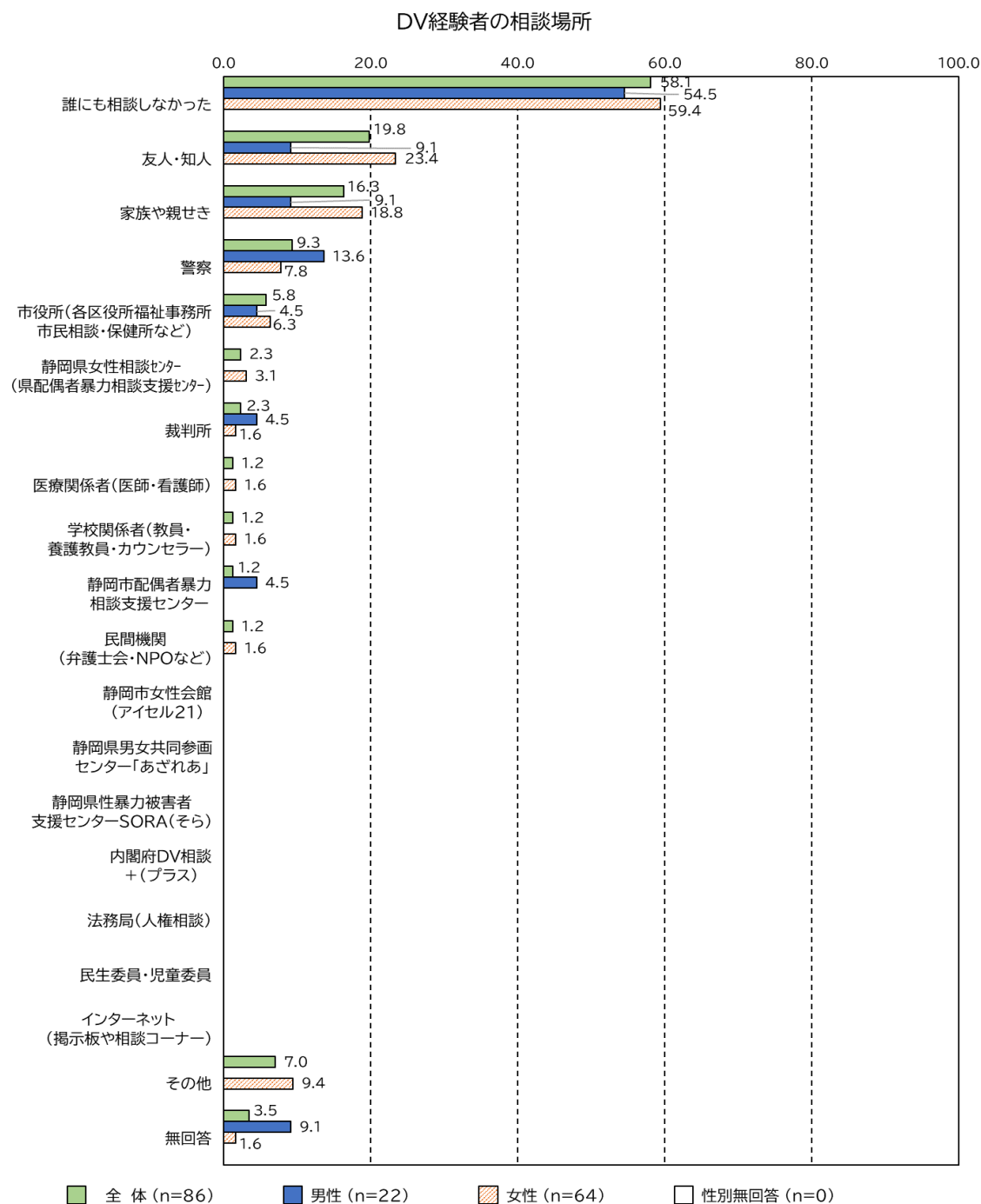


(4)「ドメスティック・バイオレンス(DV)」の相談先

〔問 21-2〕 前の問いで、「1 自分が直接経験したことがある」と答えた方にお伺いします。
あなたは「ドメスティック・バイオレンス (DV) 」について、どこかに相談しましたか。
(○はいいくつでも)

全体では、「誰にも相談しなかった」が 58.1%、次いで「友人・知人」が 19.8%となった。

性別でみると、男性では相談先として最も多かったのは「警察」で 13.6%、女性では「友人・知人」が 23.4%、次いで「家族や親せき」の 18.8%となった。「その他」では、「弁護士」「病院」「両親」などがあつた。



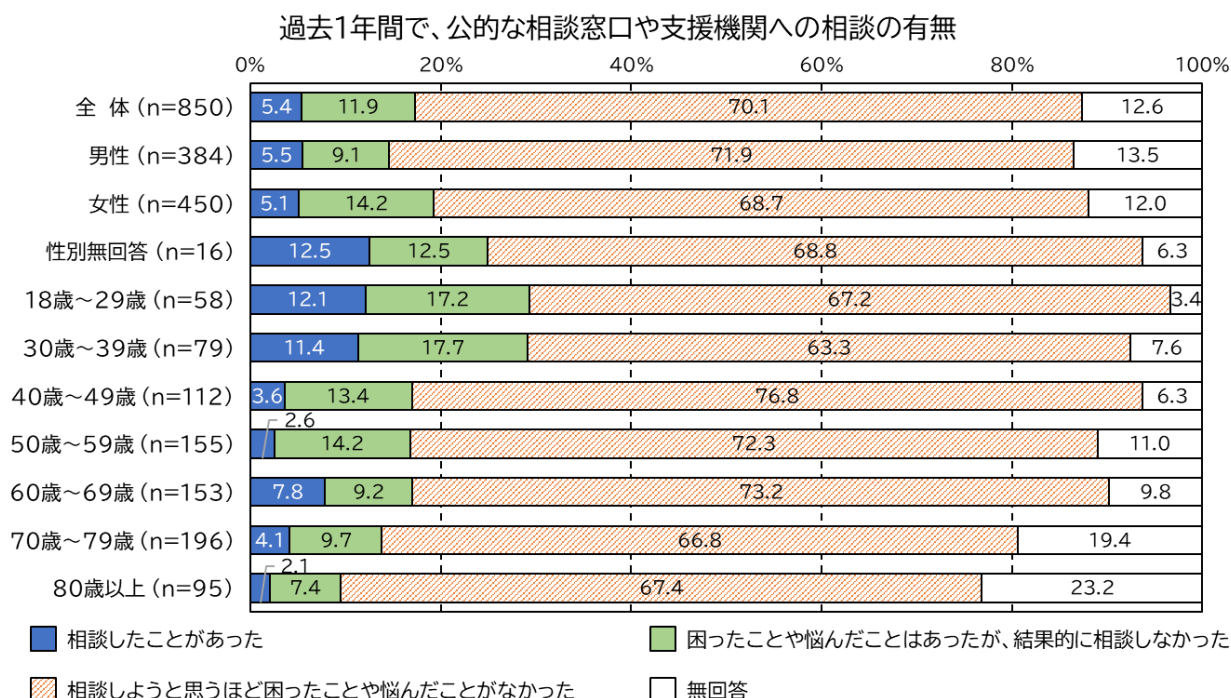
8. 困難を抱える人に対する支援について

(1) 過去1年間で、困ったり悩んだりした場合の公的な相談窓口や支援機関への相談の有無

〔問 22-1〕 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）に限らず、過去1年ほどの間に、何かとて困ったことがあったり、悩んだりして公的な相談窓口や支援機関へ相談したことがありましたか。（○は1つ）

全体では、「相談しようと思うほど困ったことや悩んだことがなかった」と回答した人が70.1%であった一方、「相談したことがあった」が5.4%、「困ったことや悩んだことはあったが、結果的に相談しなかった」との回答も11.9%と、約1割あった。

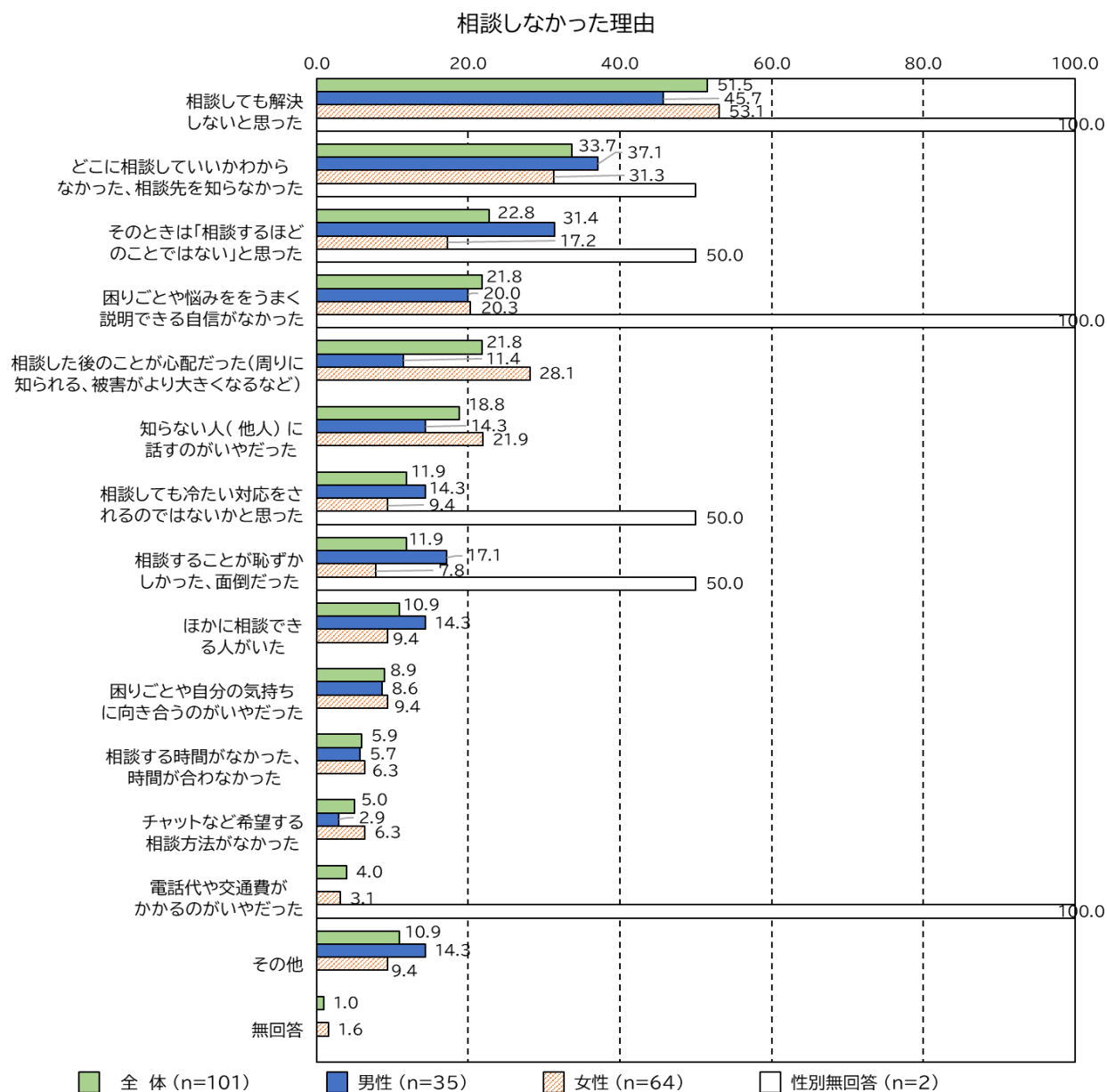
年齢別でも、「相談しようと思うほど困ったことや悩んだことがなかった」が全ての年代で60%以上となったが、30歳代以下の年代では、困ったことや悩んだことがあった人は約3割と、他の年代より高かった。



(2) 相談しなかった主な理由

〔問 22-2〕 前ページ最後の問い(※問 22-1)で、「2 困ったことや悩んだことはあったが、結果的に相談しなかった」と答えた方にお伺いします。相談しなかった主な理由は何ですか。
(〇はいくつでも)

全体では、「相談しても解決しないと思った」と回答した人が最も多く 51.5%、次いで「どこに相談していいかわからなかった、相談先を知らなかった」が 33.7%、「そのときは『相談するほどのことではない』と思った」が 22.8%となった。「その他」の意見では、「相談しても仕方がないとあきらめていた。子どもに話す事で解消していた」「子どものころ(の)こと」で、それが相談して解決できることだと思ってなかった」「過去に相談し、ひどい対応をされた為」などがあつた。

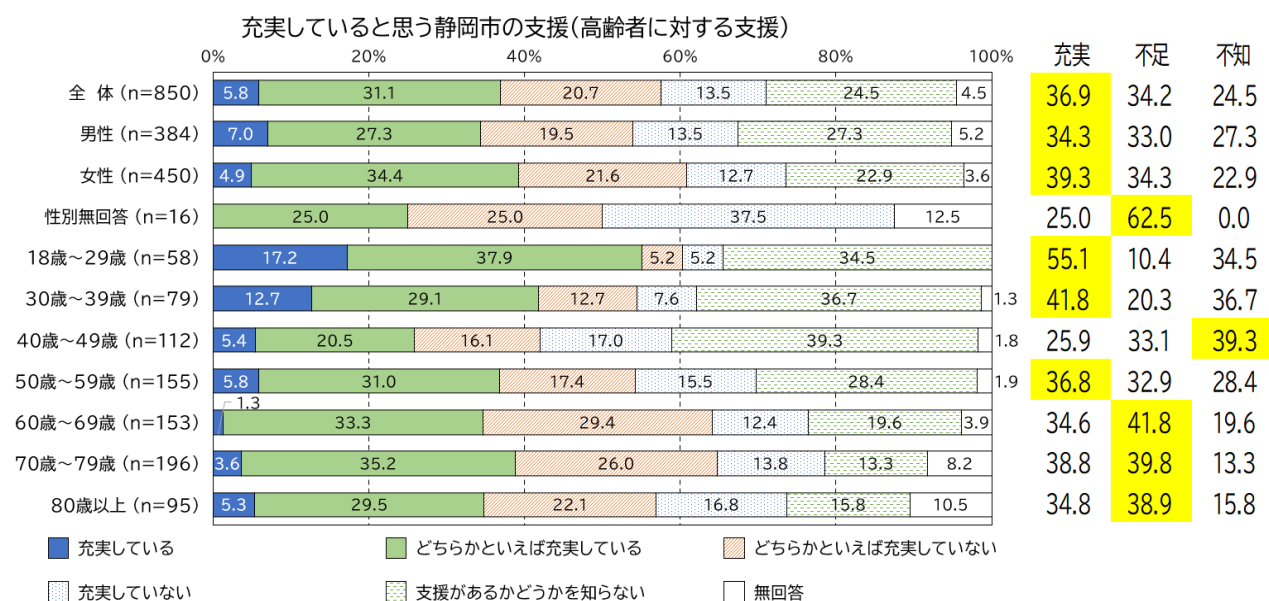


(3) 静岡市は困難な問題を抱える人や抱えやすい人に対する支援が充実している、と思うか

〔問 23〕 あなたは、静岡市は次のような困難な問題を抱える人、また抱えやすい人たちに対する支援が充実していると思いますか。（項目ごとに○は1つずつ）

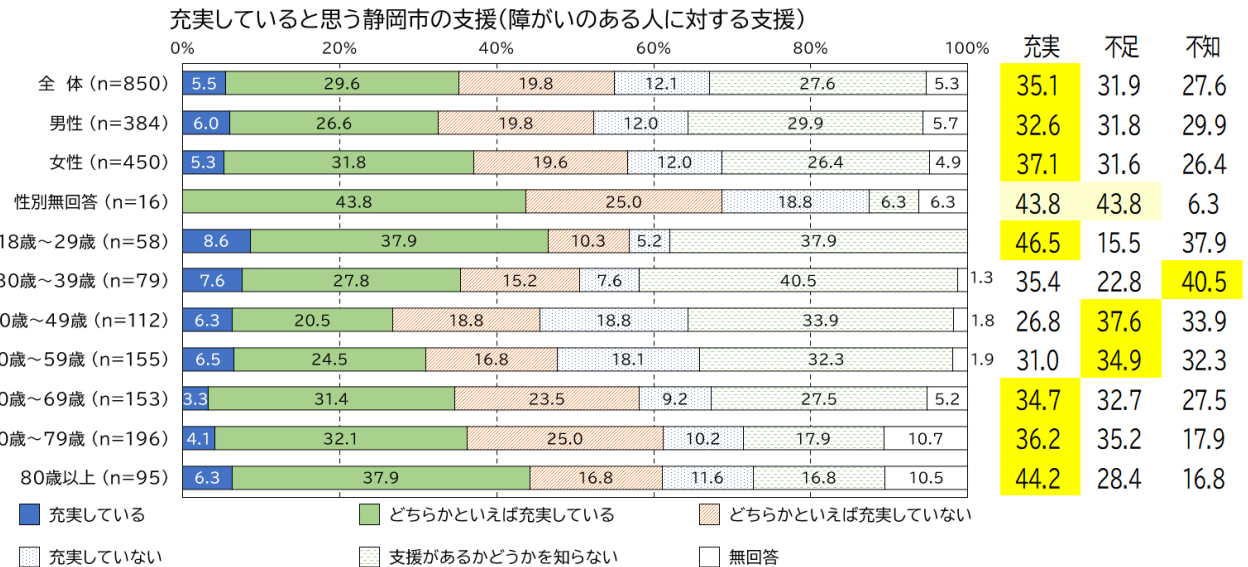
(ア) 高齢者に対する支援

全体では、「充実している」5.8%、「どちらかといえば充実している」31.1%と、「充実」が 36.9%となり、「どちらかといえば充実していない」20.7%、「充実していない」13.5%と、「不足」が 34.2%となった。一方、「支援があるかどうかを知らない」の「不知」は 24.5%となった。



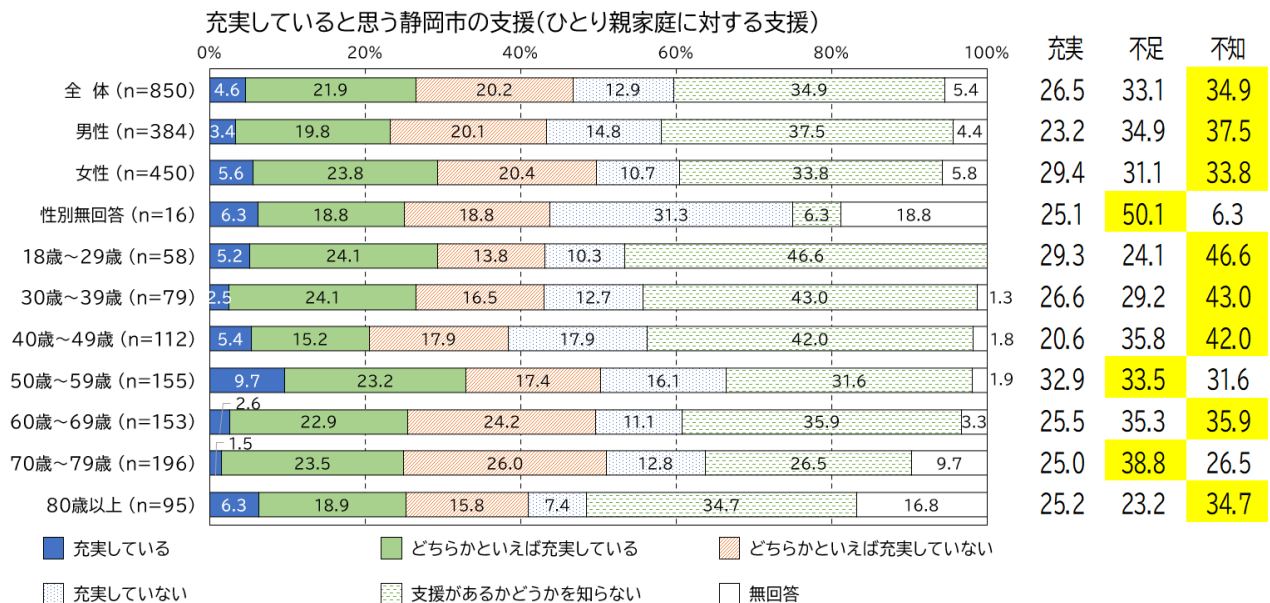
(イ) 障がいのある人に対する支援

全体では、「充実している」5.5%、「どちらかといえば充実している」29.6%と、「充実」が 35.1%となり、「どちらかといえば充実していない」19.8%、「充実していない」12.1%と、「不足」が 31.9%となった。「支援があるかどうかを知らない」の「不知」は 27.6%となった。



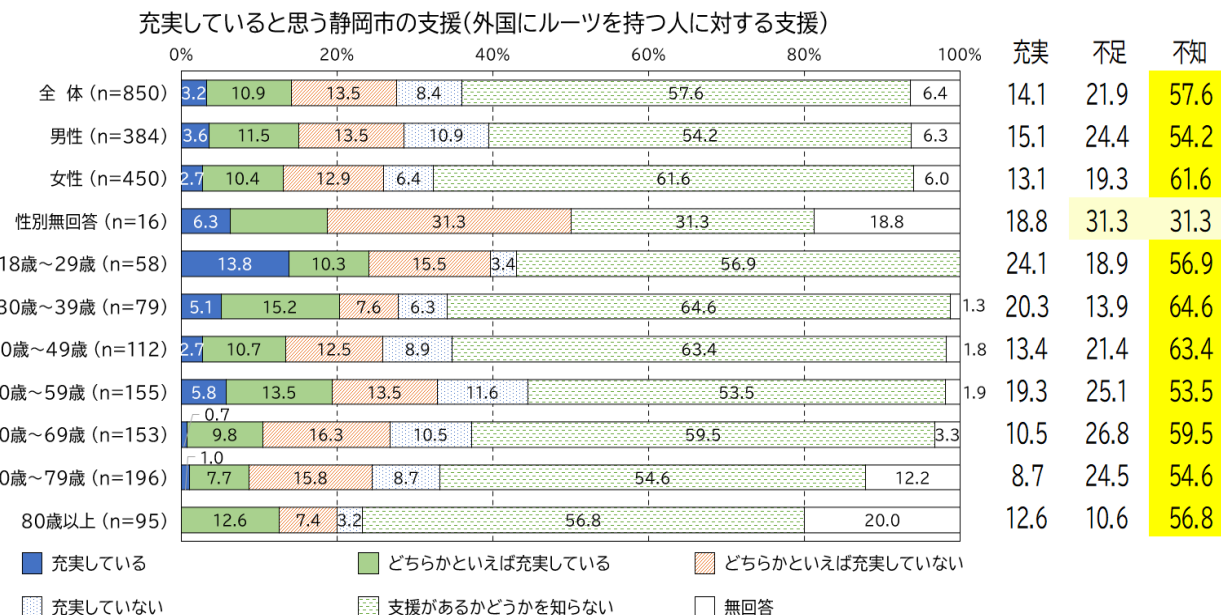
(ウ) ひとり親家庭に対する支援

全体では、「充実している」4.6%、「どちらかといえば充実している」21.9%と、「充実」が 26.5%となり、「どちらかといえば充実していない」20.2%、「充実していない」12.9%と、「不足」が 33.1%となった。「支援があるかどうかを知らない」の「不知」が最も多く、34.9%となった。



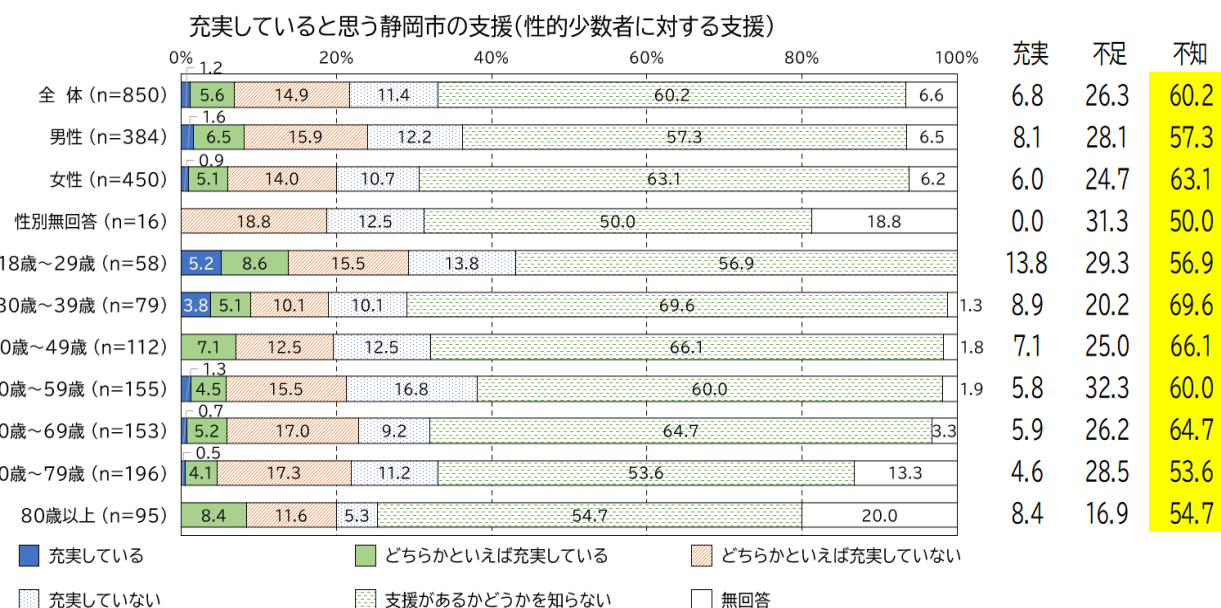
(エ) 外国にルーツを持つ人に対する支援

全体では、「充実している」3.2%、「どちらかといえば充実している」10.9%と、「充実」が14.1%となり、「どちらかといえば充実していない」13.5%、「充実していない」8.4%と、「不足」が21.9%となった。「支援があるかどうかを知らない」の「不知」が最も多く、57.6%となった。



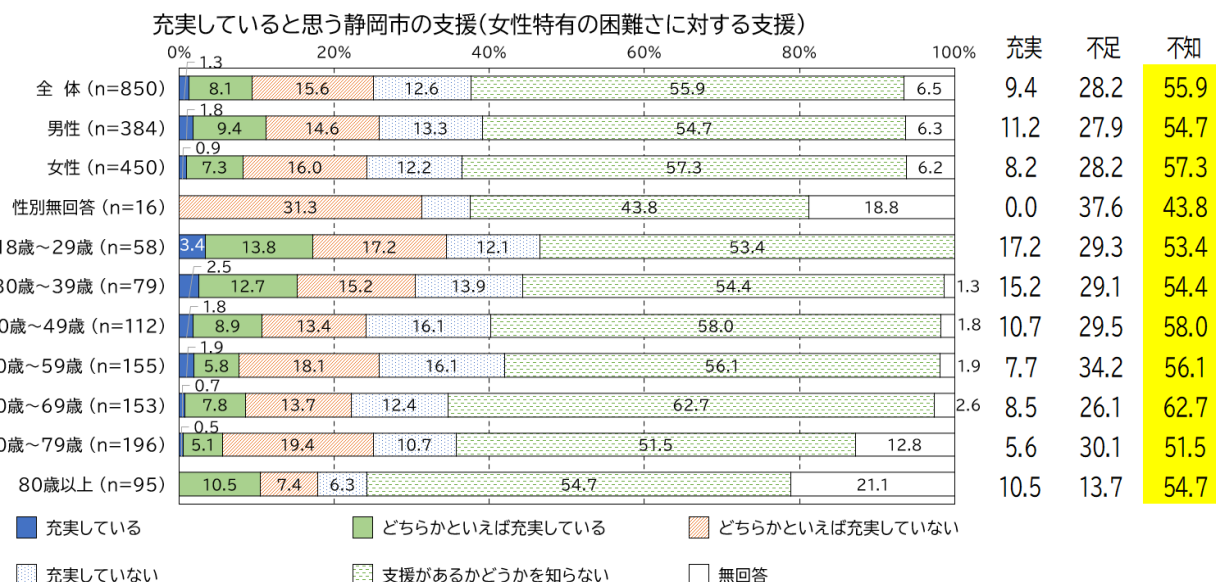
(オ) 性的少数者に対する支援

全体では、「充実している」1.2%、「どちらかといえば充実している」5.6%と、「充実」が6.8%となり、「どちらかといえば充実していない」14.9%、「充実していない」11.4%と、「不足」が26.3%となった。「支援があるかどうかを知らない」の「不知」が最も多く、60.2%となった。



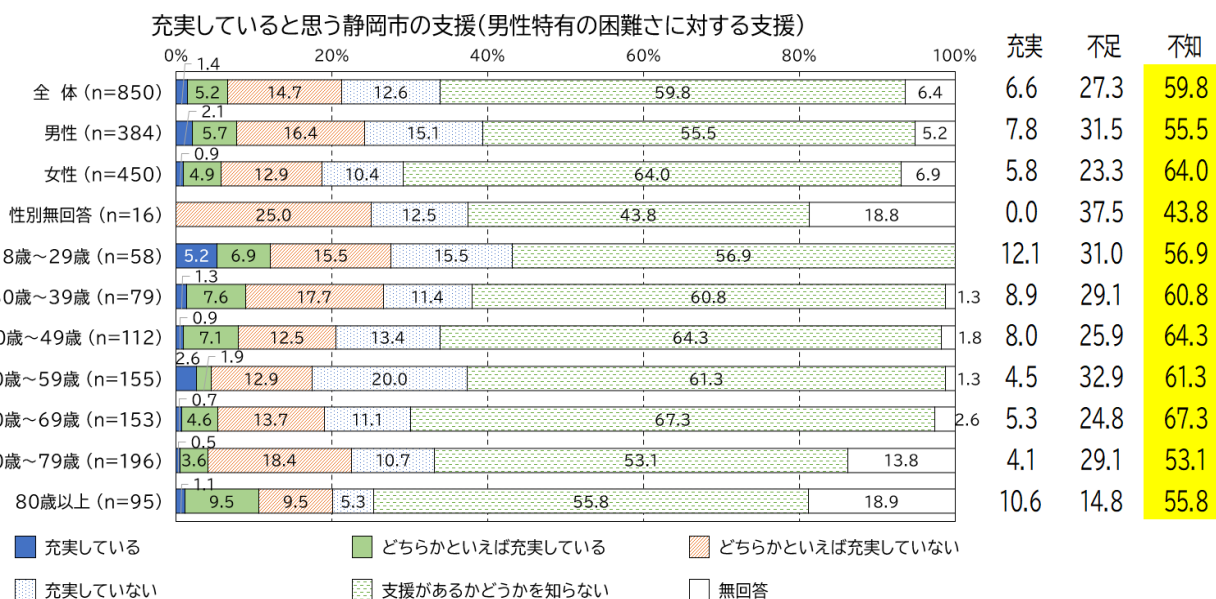
(カ) 女性特有の困難さに対する支援

全体では、「充実している」1.3%、「どちらかといえば充実している」8.1%と、「充実」が 9.4%となり、「どちらかといえば充実していない」15.6%、「充実していない」12.6%と、「不足」が 28.2%となった。「支援があるかどうかを知らない」の「不知」が最も多く、55.9%となった。



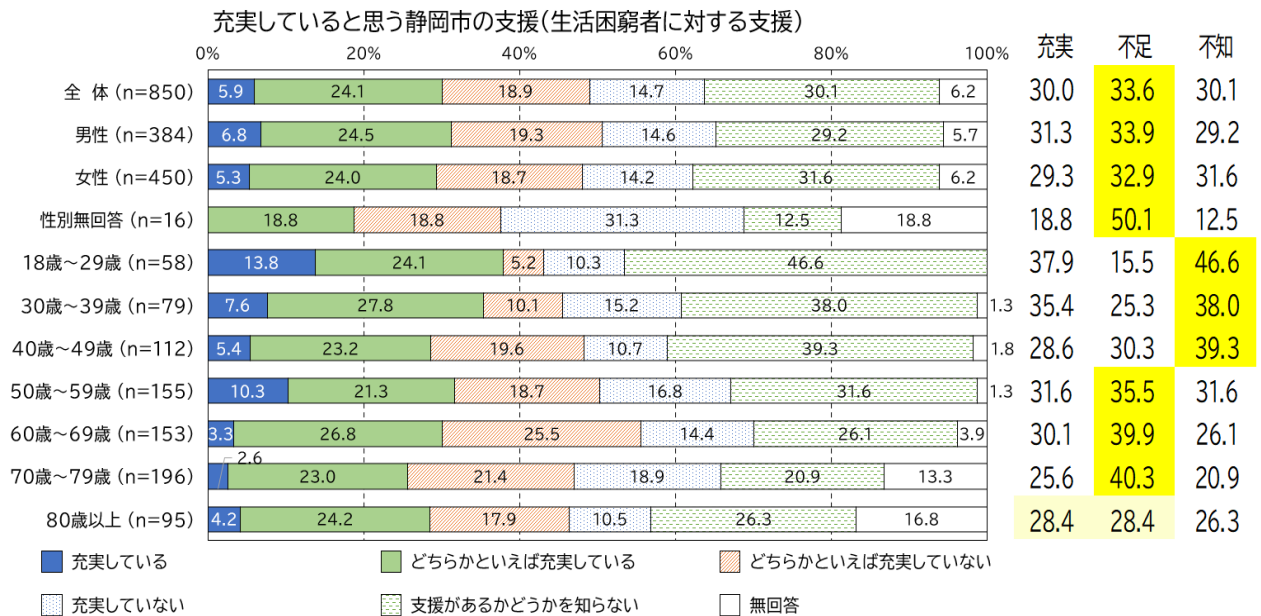
(キ) 男性特有の困難さに対する支援

全体では、「充実している」1.4%、「どちらかといえば充実している」5.2%と、「充実」が 6.6%となり、「どちらかといえば充実していない」14.7%、「充実していない」12.6%と、「不足」が 27.3%となった。「支援があるかどうかを知らない」の「不知」が最も多く、59.8%となった。



(ク) 生活困窮者に対する支援

全体では、「充実している」5.9%、「どちらかといえば充実している」24.1%と、「充実」が 30.0%となり、「どちらかといえば充実していない」18.9%、「充実していない」14.7%と「不足」が 33.6%となり、「支援があるかどうかを知らない」の「不知」は 30.1%となった。



III 自由記載

1. 男女共同参画等に関して

- ・男女共同参画については、年齢層や家庭環境、個人によっても意識が異なる。男女共同参画に限らず、家庭環境や教育力の低下によって社会的な様々な問題が生じているが、親の教育がおざなりにされながらも地域や社会で何とかしようとしている。基本は家庭がしっかりしていれば意識も変わる。親の教育こそが今一番大切だと感じている。政治がリーダーシップをとってほしい。男女共同参画については、老人が多い今の政治家では変わることは難しいと思う(女性、60歳代、無職・退職)
- ・男性が優遇されている、というよりも女性の負担が多く感じます。育児家事は女性の仕事という固定観念が古くから根付いており、男女共同参画の意識はまだまだ低いと思います。すべての人が平等である社会に少しでも近づくことを願っています(女性、29歳以下、正規の社員・職員)
- ・性別に関わりなく、一人一人が個性と能力を出せる環境、そしてその責任を分かち合える社会が実現するために、家庭・学校・すべての社会で人を育てることに重点をおいてくれたらと願います(女性、60歳代、家事専業)
- ・静岡新聞に時々掲載されている女性が働きやすく業績が急伸している企業のコンセプトやアイデアを、市内の企業に周知し、それを実践し始めた企業をハローワークに印をつけて載せたり生涯学習施設を使ったりしてイベントやセミナーをして周知する(女性、50歳代、正規の社員・職員)
- ・男子が大事にされる時代にどっぷり生きてきたので、頑張らないで楽に年取るまで長らえてきました。無駄に頑張らない。無駄だと案外穏やかな気持ちで日々をつなぐことができました。非常に回答するのが難しい(女性、60歳代、自営・家族従業)
- ・時代が変化し、昔の様な差別的な言動は、今もあるかもしれないが、時代が求める男女共同参画が必要と思う(男性、70歳代、無職・退職)
- ・社会で男女が対等に働けるのはとても良い事だ。ただ日本人の意識がまだ追いつけていないので困難や障害が多い。制度をつくるのも良いが、応援(働く女性達を)し続けることが大事ではないのか(女性、50歳代、無職・退職)
- ・少子化の現在、子育て中の家庭に金銭面での支援も大切だが、母親が子育てしながらも働きやすい職場が増えると良い。仕事との両立が生きがいを持ち、身体に無理の無い様な支援をして欲しい(女性、60歳代、無職・退職)
- ・日々の経済的ゆとり・精神的な心のゆとりのない人は、この参画に意識が向きにくいと思う。根気よく啓蒙することが大切だと感じる(女性、60歳代、家事専業)
- ・政策が国民の意識や要望と乖離していることがあって、この調査の質問内容を通して男女共同参画事業には、そういう点が多く見られるのではと感じた。私たちが望んでいなくても、すでに決定事項だから予定通りに進める。調査は一応形だけやっている感を出すためのものでしかないように感じた。このような疑った見方をしているのは自分だけなのだろうか。違和感と気持ちの悪さだけが多く残った。是非男女共同参画局がなくなって、中抜き業者を排除し、銭金の無駄使いを減らしてほしいです。静岡市にも無駄をなくして事業の規模を縮小してほしい(女性、50歳代、自営・家族従業)
- ・女性が男性並みに収入を得られない限り難しい問題だと思う(女性、40歳代、非正規の社員・職員)
- ・男女共同参画に関して、今の状況や制度仕組みをよく知っているわけではないが、今が充実しているとは

- 思わない(女性、29 歳以下、学生)
- ・男性は男性らしく、女性は女性らしく生活してもらいたい(男性、70 歳代、自営・家族従業)
 - ・問 1(男女の平等感についての質問)について、力仕事は協力しない女性が多い。平等であるべき(女性、70 歳代、家事専業)
 - ・軽い鬱や、精神不安定になって働けなくなった場合のカウンセリングなどもあったらいいと思います。障害者などは充実してるが、障害者にまではならない人、LGBTQ とはっきり判断できない人たちが、病名がわからない原因不明の病のように、一番辛かったりするのかなど。そのような人たちを見つけるのが大変なので、とても難しい問題ですね(女性、40 歳代、非正規の社員・職員)
 - ・男女どちらも子育てしやすい生活を送れるようにしてほしい(女性、30 歳代、正規の社員・職員)
 - ・とても難しい課題だと思う。50 代の私にとっては男女共同参画とは逆方向の中で大人になったので、言ってみれば考え方も「古い」のかもしれない。この調査をしたり、この課題に取り組んでいる方の中にも、正直世代間ギャップみたいなものがあると思う。静岡市民が皆幸せな未来のために、柔軟な考え方を持つ若い世代の方に、積極的にこの課題に取り組んでいただきたい(女性、50 歳代、家事専業)
 - ・まだまだ男女同じ仕事をしていても賃金は男性の方か上。学校の役員も長になる人は男性という風習がまだある(女性、50 歳代、正規の社員・職員)
 - ・私が結婚した50年前は、「仕事はやらせてやるが家庭の事も完璧にやれ」と言われ、家事・仕事・子育て・長男の嫁としての親の世話など、一人で何役もやらなければならなかった。今は、夫婦で家事も分担したり、若者たちはそれなりにうまく生活しているように見えるが、更に社会的に色々応援してあげないと、子供を産むことも出来ない。勤務先での男性優遇はまだまだあると思う(女性、70 歳代、無職・退職)
 - ・いろいろと対策を練ってくれるので有難いです。今後もよろしくお願いします(女性、50 歳代、非正規の社員・職員)
 - ・「男女共同参画」と名のつくの場は、行政のミッション遂行のために無理矢理つくられた環境、というイメージがあり、不自然で、あえて避けたくります。すでに時代から遅れていると思います(女性、60 歳代、非正規の社員・職員)
 - ・介護施設(デイサービス)の付き添いで、50~60 人ぐらいが、同じ部屋で指の体操等をしていたが、9 割ぐらいが女性(おばあさん)、1 割が男性(おじいさん)だった。生き残っているのは、女性で、男は早く死んでしまって、この世にはいない。結果これが平等ですか。私はそう思わない(男性、60 歳代、無職・退職)
 - ・若い人たちの意識がこのような問題に柔軟になるように、長い目でみていろいろやってほしい。数十年もしたら考え方も変わっていくのではないかな(男性、40 歳代、正規の社員・職員)
 - ・男女共同の前にそもそも人間としてどう生きるか。今の日本は全ての世代で生きづらいと思う(女性、50 歳代、正規の社員・職員)
 - ・男女共同参画がこれからも充実することを願います(女性、80 歳以上、家事専業)
 - ・私は 70 歳になりますので、若い頃から男は男らしく女は女らしくと育てられてきました。当たり前のこととと思っていましたので、今のジェンダーや LGBTQ などについてなかなか理解できませんが、理解しなければならないのかな?(女性、70 歳代、非正規の社員・職員)
 - ・男女平等を謳う時代に育ったと認識していますが、社会に出ると決してそうではないことを痛感します。とはいえ、それを強く主張する層が増えるほど、子供は減り、子育ての環境が改善されることはありません。ほんの少しの補助金をもらったところで、子供を産む人はふえないでしょう。なぜ政治家、役所は、政策が

失敗し続けていると認めないのでしょうか。当人たちの声を聞かないのでしょうか。中国人留学生に簡単に補助金をだすのなら、日本の子供たちになぜ援助ができないのでしょうか。国を支える子供は増えないです。子供を育てながら仕事も、社会の中で頑張ることが当たり前だと強いられている気がします。であるならば、男女の役割をきちんと分けていた時代の日本のほうが、幸せに見えます。女性が平等をと声をあげるほど、家庭でも社会でも、幸せだと感じる割合は男女ともに減るのではないかと思います(女性、40 歳代、正規の社員・職員)

- ・家事・育児は全て自身でやってきたし、不満はない。男女共同参画等という、この状況は納得できない(女性、60 歳代、家事専業)
- ・男性と女性は違う特性があるので、一概に平等だけで語るのは無意味。国際的な女性の活躍ランキングも全く意味が無い。男女共同参画や子ども家庭庁のくだらない予算があったら市民税を減税をして、すべての静岡市民の生活に還元して、経済の活性化に役立てた方が意味があります(女性、50 歳代、非正規の社員・職員)
- ・女性の社会進出が進むと少子化につながると思う。少子化に対して男性を育児・介護に参加させることにより、業務上の優位性を下げることで平等になっていくと思う(男性、40 歳代、正規の社員・職員)
- ・静岡市は意識高い系の職員さんが多く、セミナーで話していても上から目線を感じます。選民意識がある中で、男女共同参画が推進できるかは疑問です(男性、40 歳代、自営・家族従業)
- ・私の家族は、公務員でフルタイムなので結婚時より共稼ぎで、男・女なく生活の協力を共にしてきた。その為か男だから～、女だから～という話にとっても違和感がある。子供が成人し妻と二人生活になったが、いつでも協同生活の延長(男性、70 歳代、無職・退職)
- ・可決された LGBTQ 法案は非常に危険。アメリカ等でも弊害が起きている。日本は他国と比べても女性の立場が尊重されていると思う。世界経済フォーラムの調査は片寄っている。性差、個人差を認めた上で改革すべき。何でもかんでも同じにする、という風潮がみられる (男性、70 歳代、正規の社員・職員)
- ・男女共同参画の考えには賛成です。ただ、現実とずれていると思うことが多くあります。「平等」や「女性活躍」という言葉が一人歩きしていて、実際の職場や社会では無理が出たり、逆に当事者が気を使って何も言えなくなっている場面もあります。結果をそろえることを重視しすぎて、本人の意志や向き不向きが置き去りにされているように感じます。これから先、日本という国が持ちこたえていくためには、きれいごとではなく、現実合った政策が必要です。男だから、女だからではなく、それぞれができることを活かせる社会をつくることの方がずっと大事だと思います。能力や考え方に違いがあるのは当然です。そこに無理やりリフタをして同じにするのではなく、不利にならないように調整すれば十分です。それぞれが役割を果たし、支え合える社会を目指すべきです。今やるべきことは、「平等という言葉を使い続けること」ではなく、現実をよく見て制度や運用を考え直すことです。これからの市政運営に期待しています(男性、29 歳以下、正規の社員・職員)
- ・近所に大声で母親をどなりつける家庭がある。どこまでが言葉の暴力なのか…普通に話せばいいのにと思う。母親 90 歳くらい子供は 65 歳くらい(男性、60 歳代、無職・退職)
- ・長時間労働や過度な責任を役職者に強いる環境下では、男性が役職に就く風習は男性優遇の要素だけでなく女性側からも役職に就かなくてすむといった意識になってしまう(男性、40 歳代、正規の社員・職員)
- ・アイセル 21 女性会館という名称からして、性差別を感じていましたが、未だに女性会館とは静岡市の考

え方が不平等と思われる(男性、50 歳代、正規の社員・職員)

- ・昔に比べれば、女性に対する事は変化していると思う。自分が思うのは、結局育ちで決まる気がする。父親が母親と平等に生活していれば、子供達も同じようになると思う(男性、50 歳代、正規の社員・職員)
- ・男女は元々作りも違うし得手不得手も其々。殊更平等とか共同参画という必要は無い。自然に任せれば良い(男性、60 歳代、正規の社員・職員)
- ・条例の緩和。プラスする政策や整備ではなく、マイナスしていく活動を希望します。まずは静岡で働く人の世帯収入を増やしたい。どんなに表面上美しい制度だとしても収入が上がらない限り男女共同参画すらいきつかないと感じます。せめてどちらか、例えば男性の収入が上がればその分女性もやりたい職につけて、生活のためでなく、自分の為に働ける環境になるのではないかと。今の職場環境や生活環境の中での制度改善ではなく、新たな活躍の場や環境をつくることを望みます(男性、30 歳代、正規の社員・職員)
- ・男女における差を区別することをなんでも「差別」ととらえる者が多い以上、男女共同参画は不可能だと思う。こういった層の意識を変革できるよう教育制度から考えてください(男性、30 歳代、正規の社員・職員)
- ・男女共同参画には旧来の考え方や、今社会の上に立っている人たちがみな年配の男性であるということが大きな障害になっていると思いますが、女性の経済的な土台が弱すぎるのが発言権や行動力を奪っているとも思います(男性、50 歳代、無職・退職)
- ・男女共同参画とは DV 問題になっている時点で失敗なのでは？むしろ女性用護身術というか戦闘訓練の方が実利や解決するのでは？と思えてくるのですが、どうでしょうか？10年位前にも同じ様な質問を県政モニター経由でされた気がするので進んでいないって事です。大きくやり方変える時期に来ているのだと思います(男性、50 歳代、無職・退職)
- ・出産の関係で女性と男性を全て平等にするのは不可能なため、出産を担う女性が家庭や職場で感じる負担をできるだけ和らげることができるように、周囲の人たちが配慮できるような社会になれば男女共同参画が進み、少子化問題にも良い影響が出るのではないかと思います(男性、50 歳代、正規の社員・職員)
- ・私達の幼少期は、学校でも家でも「男性は男らしく、女性は女らしく」と言われて育ちました。社会全体がそんな風潮の中でそれが当たり前だと特に違和感なく生活しておりました。現在は、男女平等について学校でも教育されていると考えますが、更に社会全体が、男女平等が当たり前になる様、いつでも話し合うことが必要だと考えます。今やっと男女平等の下地ができ上がり、みんなで話し合う事も増えたけど、これを維持していくことが大事だと考えます。社会全体が、男女平等が当たり前の考えになると良いですね(男性、70 歳代、無職・退職)

2. 静岡市について

- ・静岡市民のため、このような取り組みをしていただいていること、感謝申し上げます。一市民の目線から見ると、まだまだ目に見える風景、テレビでの政治の様子、市や企業のトップと言われる方々は男性中心であることを感じてしまいます。そんな中、若い世代の変化を感じております。皆様の粘り強い活動の成果ではないでしょうか(女性、50 歳代、無職・退職)
- ・静岡市は女性が活躍できる環境が少ないと思います。若い女性が静岡市から出ていくのが納得できる労働環境、社会だと思います。アイセル 21 に面白そうな講習があっても遠くて行けません(女性、40 歳代、

正規の社員・職員)

- ・どんな人でも暮らしやすい静岡市になればいいですね(性別無回答、50 歳代、非正規の社員・職員)
- ・他市よりも支援がない(女性、70歳代、無職・退職)
- ・高齢者が自立して動けるように身近に身体に応じて運動(リハビリ)できるような施設があればと思う。公民館でも良い。公共で運営してくれればと思う(女性、70 歳代、非正規の社員・職員)
- ・Facebook ではなく、Instagram や X、Tik Tok 等若い人にも目につきやすい媒体など、もっと SNS を活用して、支援の内容やセミナーの開催などを周知させた方が良いと思う。それと、静岡市のホームページは探したい事柄が探し辛い構造になっているので、もっと簡単になれば嬉しいと思う(女性、29 歳以下、非正規の社員・職員)
- ・静岡市は閉鎖的なところがある。他県から来た人から見ると、静岡市はイジわるな人が多いと口を揃えて言われる。考え方も幼いところがある。他県の人たちの積極性を学んだ方がいい(女性、30 歳代、非正規の社員・職員)
- ・人間誰しも年をとります。退職後も安心して暮らすことができるよう、北欧のように幸せいっぱい的人生を送らせてくださるよう、静岡市も今動くべきです(女性、60 歳代、無職・退職)
- ・静岡市では、最近の選挙で多くの女性議員が誕生しましたが、そういった方々がベテラン男性議員から嫌な思いをさせられていたり、何かしらの妨害にあたりしていないか、我々市民は知ることができません。ぜひ、そちらの調査もしていただきたいです(女性、40 歳代、家事専業)
- ・自分が困難に直面しないと、どのような支援があるか調べないため、市でどのような支援がされているか存じません。困る前に支援策を知っておくことは身を守るために大切だとは思っています(女性、30 歳代、正規の社員・職員)
- ・私自身、出産を機に仕事を辞めたが、当時は周りも結婚や妊娠のタイミングで離職する人が多かった。その後も配偶者の転勤や不妊治療の通院等があり、就活すらなかなかできず、女性の再就職の難しさを痛感した。今も働きたいけど、就職するには下の子の保育園が決まってないと、保育園に入るには就職先が決まってないと、というジレンマや上の子の学童の問題もあってなかなか難しいと感じる。子育てする女性の就職サポートが市であると有難い(女性、30 歳代、家事専業)
- ・生活困難の有無にかかわらず、その方に合った法律やその他支援を切り開くことを推進してほしい(女性、29 歳以下、学生)
- ・私自身今現在支援を必要としていない為、市がどのような支援をしているのか分からないが、いざ必要とする時に分かりやすく案内してくれる場所や部があれば良いと思う。もっと市民にアナウンスするのも大事。また高齢者については、本人がどのようにすれば良いか分からないと思うので、信頼できる方が手続等をしてくれると良いと思う(女性、40 歳代、家事専業)
- ・いろいろな分野での相談・支援があることがわかりました。民生委員をやらせていただいています、知らないことも多い。もっと広報を充実させ、市民生活が安全・安心に過ごせる手助けにしたいと思います。市内の人口減少を防ぐためにも、子育て支援をもっともっと充実させていただきたいと思います(女性、70 歳代、家事専業)
- ・Wellbeing 社会の実現に向けた市の施策を積極的に進めてほしい。市民への PR も更に積極的に行い、市民への意識向上を図ってほしい(男性、70 歳代、無職・退職)
- ・担当者は一生懸命やっているといます。だけど市民の皆様がどこまで理解しているか？たくさん力をい

れず、一つ一つコツコツと頑張ってください(男性、70 歳代、無職・退職)

- ・高齢者への具体的な施策を充実してほしい 何をすれば良いか分からない(男性、80 歳以上、無職・退職)
- ・困難な問題を抱える人の対応として、まず第一に行政への相談となるが、市のホームページで「困りごと相談」と入力しても検索できない それらしきものに「市民相談」があるが、窓口等の案内すらない。高齢化社会の進展と生活困窮者の増加する中で、組織的に対応する部署や、内容をもっと明確にして相談できる体制の強化を望みます(男性、70 歳代、無職・退職)

3. 質問票について

- ・調査票の、(4)の主な仕事の選択肢に 4 家事専業とあることが正しくないと思う。6 無職との違いは何か？無職であることにかわりないのでは。【問 9】仕事＝(収入を得るための労働)と定義しているが？4 家事専業は収入が得られるのか？この調査票が十分な準備がされていないことがわかる(女性、70 歳代、自営・家族従業)
- ・自分自身が問題に直面しなければ支援があるかどうかとも知らない。現実社会には、多くの問題が日々起こっている。市民として、様々な支援が行われている事を知っていなければいけないことを、この調査で学ばせてもらった(女性、70 歳代、自営・家族従業)
- ・問4-1(仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活についての希望する優先度)について、「地域活動」と「個人の生活」は正確なデータは得られないと思う。特に単身者は「地域活動」に取り組む人の差が大きいと思う(女性、40 歳代、正規の社員・職員)
- ・問23(静岡市の困難さに対する支援の充実度)について 具体的にどのような支援があり、まず最初の窓口がどこなのか分からない(女性、60 歳代、非正規の社員・職員)
- ・この調査？アンケート？の質問、選択がしっくりこないものが多かった(女性、70 歳代、無職・退職)
- ・私自身が 80 代ですので、今回の調査(男女共同参画)に充分に答えることが出来ませんでした。調査対象をしぼった方がよかったのでは？(女性、80 歳以上、無職・退職)
- ・問 23(静岡市の困難さに対する支援の充実度)に関して、①(高齢者に対する支援)②(障がいのある人に対する支援)については同居者が支援を受けているので答えられるが、その以下の質問については、充実・不充実の程度は答えることができない(女性、70 歳代、家事専業)
- ・私も85才という高齢となり、持ち家や土地、多少の預金等の多少の財産を子供二人にどのように配分するとかの方法を、真剣に考えなければならなくなった(問 22-2[悩みや困難なことを相談しなかった理由]で考えさせられた)(男性、80 歳以上、無職・退職)
- ・問 23(静岡市の困難さに対する支援の充実度)については、知らないというより、成果が身の回りから聞くことがありません(男性、50 歳代、正規の社員・職員)
- ・良くわからないアンケートだった(男性、80 歳以上、無職・退職)
- ・アンケートに書面等での回答では、本当に心からの生の声は届かないと思う。行政マン自身が困難な現場を直接に目や足で問題だと感じて市民の暮らし改善、向上に努めてほしい。日本の未来、男女共同参画の言葉すら意識しなくても安心して暮らせる社会になることを期待します(男性、70 歳代、自営・家族従業)
- ・知らない制度や支援について質問がありましたが、実際にはどのような制度や支援があるのかわからな

いため質問に対して答えにくい(男性、40 歳代、正規の社員・職員)

- ・私の家庭では、より高い収入を得ること、難しいこと、地域社会の面倒なこと、家事以外の家のことなどは、私が負担する場面が多く、私は妻が優遇されていると感じているが、この気持ちを今回のアンケートで伝えることができたか、よく分からない(男性、50 歳代、正規の社員・職員)
- ・言葉は時々聞く事がありますが、具体的にはわかりません。公からのアプローチを増やし、これからの学生・子供達に勉強してもらうことを強化して、少しずつ広げていけば(男性、70 歳代、自営・家族従業)
- ・このようなアンケートについて考えたことがないので、答えに困った(男性、80 歳以上、無職・退職)
- ・長かったです。もう少し簡潔をお願いします(男性、29 歳以下、学生)
- ・設問の方法を再検討する必要があると思う。答えにくいことが多々あり、誤解が生じる。男女共同ありきの質問になっている(男性、70 歳代、無職・退職)
- ・設問が高齢者に合わないものがある。昔と現在との差がある(男性、80 歳以上、無職・退職)
- ・こういったアンケートがたまにくるがそのあとどうなっているのかわからない。ただ、アンケートをとっているだけなら時間の無駄だからやめてもらいたい。アンケートをとっているなら、そのあとどういう行動を起こしたのかまで発信して貰いたい(男性、40 歳代、正規の社員・職員)

4. その他

- ・一人親家庭や生活困窮者への支援が充実しすぎている。ちゃんと納税している女性にも支援してほしい(女性、40 歳代、正規の社員・職員)
- ・本当に困っている方、うまく制度を利用しようとする方の見極めが甘いと思う。現在、保育料や教育費無償、子育てに関する支援金等、子ども家庭支援が厚く、高齢者介護、医療費等についての制度の方が薄いと強く感じる。子どもを産んで親になるということは、育児にお金がかかる事はあたりまえ。それを覚悟で親になっているのではないか。支援があるから子どもをたくさん産もうと考えている方はいないと思う。制度を良くすれば少子化問題が解決すると思っている政治家、行政の考え方が間違っていると思う。社会全体の誰もが不安なく生活できる世の中になる事を希望する(女性、80 歳以上、無職・退職)
- ・「人として尊われているか」という原点に返り、施策が立てられ行われることを望む。その為には教育が大事で、その教育現場に立つ人の教育が大事だと思う。現場にいる人はもちろん、トップに立つ人の意識が大事(女性、70歳代、家事専業)
- ・LGBTQ やパートナーシップなど個人のことでどうでもいい。そんなことより今、物価高騰で貧困の人が多く大変なので、そっちを対策するのが優先だと思う(女性、40歳代、家事専業)
- ・クォータ制など具体的な対策がないと、何十年たってもあまり変わらないような気がする(女性、70 歳代、家事専業)
- ・アンケート調査の設問項目に時代・社会背景を実感した。静岡で暮らし生活する人々が、安心できる環境整備を願っている(女性、70 歳代)
- ・息子がうつ病になり 2 年が過ぎた。就労支援センターにて受講し、障害者 3 級の認定(を受けた)。収入がゼロになってしまって、大好きな車も売り、外に出る回数も激減した。パソコンエクセルスペシャリストに合格しが、仕事を紹介してもらえず待機中。無言の毎日が続いている(女性、50 歳代、非正規の社員・職員)
- ・時代は変わってきていますが、まだまだ昔の考え方が根付いており、なかなか新しい意見を取り入れるま

では、大変失礼な言い方ですが、お役所仕事なので前にすすむにはたくさんの時間がかかることは何も変わっていない気がします。十人十色は当たり前ですが、良い事・悪い事をするのも皆、人です。勇気を持って前の進んで頂けたら幸せです。皆様の健康とポジティブであります事祈っております。そして笑顔も忘れないで(女性、70 歳代、家事専業)

- ・何か問題があったら相談したり、それを隠さなければいけない様な環境は無くしてほしい(女性、40 歳代、非正規の社員・職員)
- ・男女それぞれが不満に感じることはあると思います。ですが身体的特徴などから仕方ないこともあると思いますし、実際に相手の立場になってみないと分からないことも多いです。私は女性ですが、男性の意見を伺って女性の立場から改善できることがあるのなら教えて頂きたいです。アンケートの結果を活用して頂き、市民の生活に意見を反映し、さらに私達も実践できるような声掛けをして頂きたいです(女性、29 歳以下、正規の社員・職員)
- ・不平等なことが多く、相談すら出来ない人が多いと思う。周りにいる人の中でも困っている人がいた(性別無回答、50 歳代、無職・退職)
- ・戦後の生活でしたので、自分で何とかと思う気持ちで生活してきました。世の中の移り変わりには対応も難しく私の困ることは同年齢の知人に相談しています。相談窓口があることは素晴らしいことです(女性、70 歳代、家事専業)
- ・電車等、女性専用車両があればいいなと思います(女性、60 歳代、非正規の社員・職員)
- ・母子家庭の支援はあるが、父子家庭の支援はあまりないと思う。男性は働く為、子の面倒は他者(祖父母)になり、それとても大変。働きながら孫の面倒、男性は収入があるからと支援が少ない(女性、80 歳以上、非正規の社員・職員)
- ・自分が知らないだけで公的支援はたくさんして下さっていると思う。いざ自分が経験しないと情報を取りに行かないので、知らない事がたくさんだと思うが、周りにもし、困っている人がいたら、おせっかいでない程度に協力できたらいいなと思う(女性、40 歳代、非正規の社員・職員)
- ・私の世代はまだ「結婚したら退職してほしい」という感じだった。今は同じ会社で派遣ですが、私のような者の再雇用は難しく、派遣程度。せめて契約社員とか、福利厚生之恩恵を受けられる状態に戻りたかった。とにかく不利です(女性、50 歳代、非正規の社員・職員)
- ・まだまだ男性が育児・家事に参加してくれる人ばかりではなく、特にシルバー世代は全く手伝うことがなく、イライラしてしまうことが多い。色々なサービスが充実してほしい(女性、60 歳代、非正規の社員・職員)
- ・育休制度を充実して欲しいと思う。例えば父親、母親ともに育休が取りやすいような職場づくり、育児休業中でも収入を支給できるようにする、正社員でも残業をなくすなどの長時間労働の軽減などを行ってほしいと思う。これを実現することで男女平等にも少子化対策にもつながるのではないかと考える(女性、29 歳以下、学生)
- ・自分と関わりのないことにあまり興味をもていなかった 社会的に聞いたことはあっても、市がどのようなことを行っているかわからなかった(女性、50 歳代、正規の社員・職員)
- ・男女の賃金格差を感じる。私達の時代は大学に行く女性は少なく、短大に行ったが、現在、大学卒の人は給料が始めから高く専門短大は低い。経験値をもっと考慮して大卒男子と専門・短大の格差をなくしてほしい(女性、60 歳代、正規の社員・職員)
- ・男性が女子トイレや女子のお風呂に入ってくことに恐怖があります。男女の区別は公的機関で明言して、

- しっかりつけてほしいと思います。LGBTQ など時代の流れで、女性の安心する空間が脅かされるではないかと心配です(女性、30 歳代、非正規の社員・職員)
- ・長い結婚生活でも時々「これって DV? 」と感じたことがある 二人だけの生活なのでお互いの年齢を考えて、我慢することになっている。気軽に相談できない(女性、70 歳代、家事専業)
 - ・今、心配に思うことは、地域の病院でお産ができなくなっている所があるということです。少子化の波の中、こういう時こそ、公の資金を使って、せめて一つの市・町に一つお産ができる病院をどうか残してください。あと産後 21 日間、実母がいなかったり、実家と疎遠になっていたり、孤独な妊産婦の居場所がほしい。そこさえ乗り越えれば、育児はなんとかできます。高校無償化、教育費無償化などはナンセンス。教育はお金がかかって当然です。各家庭が、自分たちの身の丈ににあった教育をして、愛情を持って育て社会に送り出せばよいだけのことだと思います。全員が大学入試目指して競争する必要はないと思うものです(女性、50 歳代、家事専業)
 - ・外国人ファーストはやめてください。日本人の税金を外国人につかうことをやめてください。日本は日本人の国で、日本人が今苦しんでいるのに、外国人を優遇するのはおかしい。多大な奨学金という借金をかかえて進学する日本人学生。学費、生活費を日本の税金でまかなう留学生。ばかにするのもいいかげんにしてほしい(女性、40 歳代、非正規の社員・職員)
 - ・父の死後、母は国民年金のみで生活は困難。持ち家であっても物価高騰により更に生活が厳しい為、生活保護を充実して欲しい。また同居と簡単に言うが、生活リズムやプライベートに介入されて、結局出ていく羽目になった人が多かったので、高齢者の一人暮らしの支援も必要(女性、50 歳代、非正規の社員・職員)
 - ・性的マイノリティを尊重するのは大事だが、それにより生じる問題についても理解して欲しい。性自認が女性で身体的性別が男性の人が女子トイレに入ることが許されると、女性は強い恐怖感を抱く その配慮も忘れずに行ってほしい(男性、29 歳以下、学生)
 - ・足りないことを補うことは良いですが、数年毎にバランスを取るようにはっきり見直すことが大切だと思います(男性、30 歳代、正規の社員・職員)
 - ・1 人親、女性が子どもを持ちながら、働く事が難しい(男性、60 歳代、正規の社員・職員)
 - ・外国人の生活保護者が多いと聞く。生活保護は日本国民の為の対応策に法改正したらどうか(男性、50 歳代、正規の社員・職員)
 - ・女性保護の観点は叫ばれるものの、男性保護は後回しになり、男女ともに性別関係なく快適に過ごせるとは言えない状態のため、まずは国・自治体から「個人が自由に選択できる」法整備をしていただき、社会に浸透させていただきたいです(男性、30 歳代、正規の社員・職員)
 - ・一人一人が知らなければいけないことや、やってはいけないこと、口に出してはいけないこと、考え方として持たなければいけないことが多すぎるように感じる。言葉一つをとっても、以前日常生活で使っていた言葉がある時から不適切な表現になったりして、この分野だけ注目しているわけではないのでついていけないというのが本音(男性、60 歳代、正規の社員・職員)
 - ・性差に関係なく活躍できる世の中になるためには、人々の意識が最も重要だと思います。一定の年齢より上の世代(感覚としては 70 歳以上でしょうか)は、時代が変わってきたことを理解してはいても、「自分が若い頃は～だった」という意識が抜けず、男女平等という考え方を受け入れがたいのが現実のようです。また、独身の人は、パートナーや子供がいる人の生活(子供のお迎え、急病等)が分からないので、同僚と

して配慮することが難しいのでしょうか。環境としては、待ち時間の少ない病院や質の良い保育施設が近くにあれば、少し気が楽になるかもしれない、と思ったことはあります。自治会の件ですが、・婦人部という活動がどこの町内にもあるようです。敬老会でお茶をついだり、日赤の活動協力金を集めたり敬老のお祝いの品を配ったりしていますが、女性でなくてはできない仕事はありませんし、「婦人部」という名称であるがゆえに、男性住民が役員を断ったりしています。せめて名称を変更したらどうかとの提案をしたことがあります、どこの町内でもこの名称で活動しているから、横のつながりとして分かりやすい、ということでした。自治会への入会について議論が起こったりしていますが、自治会の中身も少しずつ変わっていかねば、入会者が減ってしまうことにつながると思います。70代80代の男性が主な役員さんとして頑張ってくれていますが、10年15年後には役員のなりてがいるのか、どんな組織になっているのか、不安があります(女性、50歳代、家事専業)

- ・何でもいいので給料を上げてほしい。出来ないのなら、公務の福利厚生を一般の人と同じにしてほしい。景気が良くなれば他人の目を気にせず幸せに暮らせると思う。現状に満足していない人は、ストレス発散に他人を傷つける(男性、30歳代、正規の社員・職員)
- ・これからの社会は、D(ダイバシティ)、E(エクイティ)、I(インクルージョン)が、重要視される時代となります。性的マイノリティの人たちへの支援も同じようにされるべきものと思います(男性、60歳代、自営・家族従業)
- ・過去、東レ研究所宮原淳二さんが「子育て重視へ意識改革を」とテーマで書いておられます。その中で家族を大切に、会社の業績向上や周囲に気配りできる人が理想の管理職だと。これに大きく頷いた。性的マイノリティの方々についてももっと関心を持たねばと(男性、70歳代、非正規の社員・職員)
- ・過剰な取り組みはやめて無駄な税金の垂れ流しはやめていただきたい(男性、50歳代、正規の社員・職員)
- ・お仕事ご苦労様です。昭和年代の人間なので、現代のハラスメントと呼ばれるものに「多少の違和感」があります。なんでもハラスメントと言っているように感じます(男性、70歳代、非正規の社員・職員)
- ・五本柱の中で男女人権の尊重がなされているか。例えば売買春犯罪にて男性は加害者、女性は被害者という認識の日本。家庭生活における活動と他の活動の両立では、専業主婦の社会的な地位の保全はあるのか。政策等の立案が及び決定への共同参画に十分女性の意見が反映されているのか。現在の日本では中途半端な政策で終わるのか。ここが踏ん張り時ではないかと思う(男性、60歳代、非正規の社員・職員)
- ・もう少し専業主婦の偏見をなくしたい。ただしパートナーの収入が問題ですが！(男性、70歳代、正規の社員・職員)
- ・少子化を止められていない政治の責任は大きい(男性、80歳以上、無職・退職)
- ・根本的な解決を実行する事は法改正を行わなければ不可能だと思います。また思想は人それぞれであるため無理に社会的方向性を変えようとするれば分断が起きやすくなると思います。時間を掛け押し付けない事が問題解決の近道だと思います(男性、50歳代、正規の社員・職員)
- ・ジェンダーギャップ指数を上げるには、国会議員にクォータ制を入れるなど、必然性がないと難しいと思う。国会議員の多くが74才の私より年下なのに、同性婚や夫婦別姓を認めないアナクロニズムにあきれている。育児休業をとった夫に家事をやらせたら、どれも中途半端で、全部妻がやり直したという話を聞いた(男性、70歳代、無職・退職)